研究報告書

Nagoya Urban Institute Research Reports

2007.3

平成18年度　市民研究報告書

私たちの住む街なかの「魅力資産」の
再発見とユニーク活用アイデア
（東区・守山区）

財団法人 名古屋都市センター

はじめに

これまでのまちづくりは行政の先導により進められてきた感がありましたが、近年、市民と行政のパートナーシップによるまちづくりが重視されるなかで、市民の方々が主体となってまちづくりを進める場面が増えつつあります。

財団法人名古屋都市センターでは、名古屋のまちづくりについて市民の目で自主的に研究していただく市民研究員制度を平成１１年度に設けて以来、これまでにも、まちづくりに関する様々なテーマの調査研究が公募により選出された市民研究員により行われてきました。

戦後、名古屋では他都市に誇れる道路や公園等の都市基盤が整備されましたが、市内各地にはまだ多くの歴史的遺産が残っており、市民にとっては大変貴重な財産となっています。

そこで今回の研究テーマは、市民研究員の方に１００年後の名古屋に思いを馳せていただき、後の世代にも受け継いでいきたい街の“魅力資産”を発掘し、それをまちづくりに活かすアイディアとともに市民の方々に広く情報発信していただくということにしました。この研究は名古屋市域を８区域に分け、平成１７～１９年度までの３ヵ年にわたり行う予定です。

平成１８年度は、東・守山区、昭和・天白区、中川・港区の３区域について行い、市民研究員の方々には実際に現地を歩き区域内にある魅力資産を探索し、市民研究員の視点から様々な分野の魅力資産を調査していただき、さらに、それらを今後のまちづくりに活かすユニークなアイディアとして提言していただきました。本報告書は、市民研究員によりその提言内容等を研究成果としてまとめていただいたものであります。

当センターといたしましては、今後とも、市民、学識者、行政等の幅広い視点からの調査研究を通して、名古屋のまちづくりに貢献していく所存です。今後ともこれまでと同様、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成１９年３月

財団法人名古屋都市センター

私たちの住む街なかの「魅力資産」の再発見とユニーク活用アイデア（東区・守山区）

水と緑を活用した魅力あるまちづくり

～都会に残された憩いの場の活用～

平成１８年度　市民研究員
加　藤　博　規
浅　井　保　司
伊　藤　隆　生
中　川　弘　美

目　　次

Ⅰ．概要編（本編要約版）…… i

Ⅱ．本　編
第１章　調査対象区の概要 …… 1
　１－１　東区の概要 …… 1
　１－２　守山区の概要 …… 1

第２章　魅力資産の調査 …… 3
　２－１　調査対象とする魅力資産 …… 3
　２－２　神　社 …… 4
　（１）東区の神社 …… 4
　（２）守山区の神社 …… 9
　２－３　寺　院 …… 14
　（１）東区の寺院 …… 14
　（２）守山区の寺院 …… 23
　２－４　教　会 …… 28
　２－５　石造物 …… 29
　（１）東区の石造物 …… 29
　（２）守山区の石造物 …… 37
　２－６　古　墳 …… 40
　（１）概　要 …… 40
　（２）守山区上志段味地区の古墳 …… 41
　（３）守山区吉根地区の古墳 …… 44
　（４）守山区小幡地区の古墳 …… 46
　２－７　遺　跡 …… 48
　（１）東区の遺跡 …… 48
　（２）守山区の遺跡 …… 49
　２－８　城　跡 …… 54
　２－９　町並み・近代建築物 …… 55
　（１）町並み …… 56
　（２）近代建築物 …… 57
　２－１０　街道・坂道 …… 58
　（１）東区・守山区を通る街道 …… 58
　（２）坂　道 …… 59

２－１１　天王祭 …… 60
（１）東区筒井町出来町の天王祭 …… 60
（２）守山区大森の天王祭 …… 61
（３）「秋葉さま」巡行 …… 62
２－１２　伝統校 …… 62
（１）東区を発祥の地とする背景 …… 62
（２）東区に立地する学校・碑 …… 63
（３）守山区に立地する学校 …… 70
（４）過去に東区･守山区に立地した学校 …… 73
２－１３　茶道文化 …… 75
（１）名古屋茶道の歴史 …… 75
（２）茶道関連の美術館 …… 77
（３）公開茶室 …… 78
（４）和菓子店 …… 79
（５）その他 …… 82
２－１４　ため池 …… 84
（１）名古屋市内のため池の状況 …… 84
（２）守山区内の主なため池 …… 85
２－１５　河　川 …… 94
（１）庄内川 …… 94
（２）矢田川 …… 98
２－１６　近年整備された魅力資産 …… 101
（１）ナゴヤドーム …… 101
（２）徳川園 …… 101
（３）オアシス２１ …… 102
（４）なごやサイエンスパーク …… 103

第３章　魅力資産と活用アイデア …… 104
３－１　都心のオアシス探訪 …… 104
（１）魅力資産の概要 …… 104
（２）魅力資産の活用の方向性 …… 107
（３）魅力資産活用促進の具体的方策 …… 107
３－２　伝統校のルーツ探訪 …… 109
（１）魅力資産の概要 …… 109
（２）魅力資産の活用の方向性 …… 112
（３）魅力資産活用促進の具体的方策 …… 112

３－３　ため池を活用した市民ネットワーク ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
（１）魅力資産の概要 ・・ 113
（２）魅力資産の活用の方向性 ・・ 116
（３）魅力資産活用促進の具体的方策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
３－４　古墳を活用した市民公園 ・・・ 117
（１）魅力資産の概要 ・・ 117
（２）魅力資産の活用の方向性 ・・ 119
（３）魅力資産活用促進の具体的方策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
３－５　道標・地蔵オリエンテーリング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
（１）魅力資産の概要 ・・ 121
（２）魅力資産の活用の方向性 ・・ 122
（３）魅力資産活用促進の具体的方策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122

あとがき ・・ 123

Ⅲ．参考文献・参考資料 ・・・ 124

Ⅰ．概要編

Ⅰ．概要編（本編要約版）

第１章　調査対象地区の概要

名古屋市東区は、同市に初めて区制が施かれた時誕生した最も古い区の一つである。面積は16区の中で最も小さく、人口も2番目に少ない。東区は、桜通りを始めとする主要幹線道路や地下鉄、ＪＲ等の交通機関が通る交通至便な地域である。土地利用は、名古屋市の経済拠点の一部を形成する商業ビジネス地区がある一方、高級住宅地や多数の教育施設も立地している。また、由緒ある神社・寺院が多く立地し、徳川美術館やナゴヤドームがあるなど、様々な歴史・文化やイベントにも触れることのできる地域である。

一方守山区は、昭和38年に守山市が名古屋市と合併した時に13番目の区として誕生した。面積は16区の中で3番目に大きく、人口も4番目に多い。区の南側と北側を矢田川と庄内川に挟まれ、東北端には市内で標高が一番高い東谷山があるなど、水や緑に恵まれた地域である。近年、北東部では土地区画整理事業によって近代的な町が整備されているが、数多くの遺跡や古墳が見られるなど、古代から発展した地域でもある。

第２章　魅力資産の調査

（１）調査対象とする魅力資産

魅力資産の調査にあたっては、東区と守山区の特徴を念頭に、都心の一部を形成する東区では、ビルや雑踏に隠された普段気づかない魅力的なものを、豊かな自然や古代史跡に恵まれた守山区では、その貴重な資産の魅力をさらにアップさせることのできる要素を探すことに努めた。その上で、そのような魅力資産が比較的多く残されていると想定される、神社、寺院、教会などの歴史的建造物、古墳、遺跡、城跡などの史跡、学校、茶道関連施設などの教育文化施設、ため池、河川などの自然を中心に調査を進めた。

（２）神社・寺院・教会

東区、守山区共に数多くの神社や寺院があり、また、東区には著名な教会もある。特に東区の神社や寺院は、都心の貴重な緑の空間となっている。

（３）石造物

神社や寺院が多く、歴史も古い東・守山区には、境内や街角に地蔵、句碑、道標などの石造物が多く残されている。それらは普段は目に付きにくい場所にあることも多く、隠れた魅力資産である。

（４）古墳・遺跡・城跡

守山区には、国指定史跡の白鳥塚古墳を始め多くの古墳があり、また遺跡や城跡など、古代史の宝庫である。また、東区にも東芳野町遺跡などの遺跡が分布している。しかし、案内表示やアクセス路などが整備されていない所も多く、貴重な史跡が活用されていない。

（５）町並み・近代建築物・街道・坂道

町並み保存地区に指定された白壁・主税町・橦木町地区や、市政資料館、東海学園講堂

など文化財指定建築物がある東区には、文化的な薫りのする町並みや道が多い。

（６）天王祭

東区の筒井町・出来町、守山区の大森には、からくり人形が乗った山車を曳く天王祭りが地元住民の手によって引き継がれている。

（７）伝統校

東区には、旭丘高校、東海学園など、名古屋市の代表的な伝統校が数多く立地しており、また現在は他の区へ移転しているが、東区を発祥の地とする伝統校も数多い。

（８）茶道文化

名古屋は茶道の盛んな土地柄であり、東区には著名な公開茶室や茶道関連の美術館、道具商も立地している。また、有名な和菓子店も数多く立地している。

（９）ため池・河川

守山区には数多くのため池があり、貴重な水辺となっている。しかし、水際が整備されていないために容易に近づくことのできない池もあり、改善が求められる。庄内川、矢田川は貴重な水辺として市民に親しまれている。また、用水施設など先人が築いた施設が残されている。

（１０）近年整備された魅力資産

ナゴヤドーム、オアシス２１、徳川園など近年整備された施設もあり、多くの市民に利用されている。

第３章　魅力資産と活用アイデア

（１）都心のオアシス探訪

神社の杜や寺院の庭園など、都心に残されたほっと一息つける貴重な空間を「都心のオアシス」として選定し紹介することで、市民に安らぎの空間を提供する。

（２）伝統校のルーツ探訪

明治･大正期からある伝統校のルーツを探訪することで、教育史の側面から名古屋の魅力向上を図ると共に、卒業生・在校生相互の親睦を図ることで若者達の成長に寄与する。

（３）ため池を活用した市民ネットワーク

ため池利用のための市民ネットワークを組織し、池の活用を促すことで、貴重な自然環境である“ため池”の保全および整備を進める。

（４）古墳を活用した市民公園

上志段味地区一帯の古墳や古墳周辺の標識、アクセス路などを整備し、子供達が身近に古代史に触れることのできる見学環境を整える。

（５）道標・地蔵オリエンテーリング

道標や地蔵など石造物を目標とするオリエンテーリングを企画し、身近な石造物を通じて市民が地域の歴史を楽しみながら散策できる環境を提供する。

Ⅱ．本　　編

Ⅱ．本　編

第１章　調査対象区の概要

１－１　東区の概要

東区は明治 41 年 4 月、名古屋市に初めて区制が施かれた時に誕生した、現在ある 16 区の内でも最も古い区の一つである。面積は 7.72ｋ㎡と 16 区の中では最も小さく、また人口も 68,517 人（平成 18 年 4 月 1 日現在）と熱田区に次いで下から 2 番目に少ない。

東区には、桜通り、国道 41 号、国道 19 号等の主要幹線道路を始め、地下鉄東山線、同桜通線、JR 東海中央線、名鉄瀬戸線、基幹バス等の交通機関がある非常に交通至便な地域である。土地利用は、南西部は錦通、桜通を中心に中区と共に商業ビジネス地域になっており、名古屋市の経済活動の拠点としての役割を担っている。また、中心部には白壁地区に代表される閑静な住宅地があり、東部には多数の教育施設が立地している。さらに、矢田川に沿った地域には高層住宅が立ち並んでいる。

東区は藩政時代の武家屋敷を中心として発展してきたことから、伝統ある学校、尾張藩にまつわる旧跡や由緒ある神社･仏閣が多く、中でも尾張徳川家の菩提寺である建中寺や大名道具を中心に収蔵している徳川美術館などは、日本を代表する歴史的資産である。また、明治以降の近代的な洋風建築が集まる白壁・主税・橦木地区は、今も往時の面影を残し、名古屋市の町並み保存地区に指定されている。

筒井町・出来町で毎年初夏に行われる天王祭はおよそ 400 年の歴史があり、町内を曳き回される山車は、名古屋市の有形民俗文化財に指定されている。一方、大幸のナゴヤドームは、中日ドラゴンズのホームグラウンドであると共に様々なイベントが開かれ、歴史・文化から現代のイベントまで楽しむことができる区でもある。

１－２　守山区の概要

守山区は､昭和 38 年に守山市が名古屋市と合併した時に 13 番目の区として誕生した。面積は 33.99ｋ㎡と 16 区の中では 3 番目に大きく、また人口 160,947 人（平成 18 年 4 月 1 日現在）も北区に次いで 4 番目に多い。

名古屋市の北東部にあって、南を矢田川、北を庄内川に挟まれており、区の東北端にある東谷山は標高 198.3ｍで名古屋市では標高が一番高い。二つの河川に沿った地域には、数多くの遺跡や古墳が見られるなど、古代から発展した地域である。

土地利用は、北西部は名古屋北部の内陸型工業地帯の一部を構成し、矢田川、庄内川に沿った地区には、軽工業を主とした工場が点在している。中心部は、小幡駅前に代表される近隣商業地が瀬戸街道沿いに形成され、周辺は住宅地になっている。北東部は、東谷山や小幡緑地公園に代表されるように多くの緑や水辺が残されており、東谷山フルーツパークや志段味スポーツランドは多くの市民の余暇利用で賑わっている。

また近年、志段味地区では土地区画整理事業によって良好な住宅地の他、最先端の研

究が行われる「なごやサイエンスパーク」が整備されるなど、近代的な町が整備されつつあり発展が著しい。

表 1-1　各区の面積と人口

（平成 18 年 4 月 1 日現在　出典：平成 18 年版　区政概要）

面積	単位(k ㎡)
港区	45.67
緑区	37.85
守山区	33.99
中川区	32.01
天白区	21.62
名東区	19.42
南区	18.47
千種区	18.24
西区	17.9
北区	17.56
中村区	16.32
瑞穂区	11.23
昭和区	10.93
中区	9.36
熱田区	8.16
東区	7.72

人口	単位(人)
緑区	217,624
中川区	215,912
北区	165,654
守山区	160,947
天白区	157,669
名東区	156,372
千種区	153,586
港区	151,657
南区	143,187
西区	143,083
中村区	134,294
瑞穂区	105,186
昭和区	104,599
中区	70,351
東区	68,517
熱田区	63,391

表 1-2　地目別課税地面積

	東　区		守山区		名古屋市計	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
田	0	0.0%	1,336	7.2%	7,796	4.2%
畑	2	0.0%	1,126	6.1%	8,960	4.8%
商業地	1,082	25.1%	222	1.2%	10,435	5.6%
工業地	458	10.6%	571	3.1%	20,881	11.3%
住宅地	2,662	61.7%	8,983	48.7%	107,365	57.9%
その他宅地	0	0.0%	1,236	6.7%	4,081	2.2%
池沼	0	0.0%	2	0.0%	121	0.1%
山林	1	0.0%	1,788	9.7%	4,253	2.3%
原野	0	0.0%	225	1.2%	458	0.2%
雑種地	112	2.6%	2,947	16.0%	20,969	11.3%
合計	4,317	100.0%	18,436	100.0%	185,319	100.0%

平成 18 年 1 月 1 日現在　単位:千㎡　　出典：平成 18 年版　区政概要

第２章　魅力資産の調査

２－１　調査対象とする魅力資産

本調査の対象となる東区および守山区は、第１章で述べたように非常に異なった特性を持つ地域である。即ち、東区は古くから名古屋市都心の一部を形成し、神社、寺院、歴史的建造物など、名古屋の歴史･文化を代表する数多くの施設が立地している。また、都心の一部として大規模なオフィスビルや商業ビルも数多く立地している。

一方、守山区は名古屋市内で最も標高の高い東谷山があり、また庄内川と矢田川が流れるなど、豊かな自然が残された地域である。また、市内有数の古墳が立地するなど、古代に思いを馳せることのできる地域でもある。

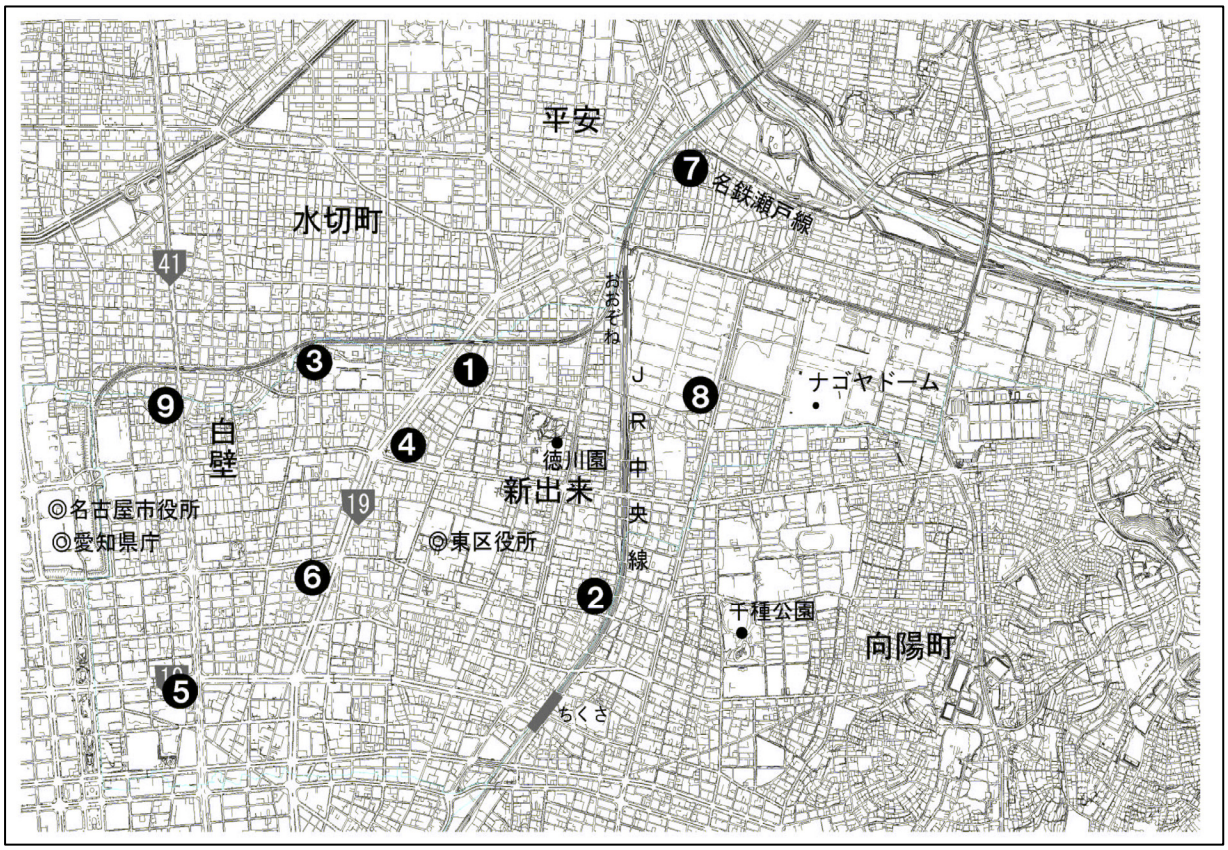
魅力資産の調査抽出にあたっては、この様な東区、守山区の特徴を念頭に置きつつ調査を進めることにした。そして東区においては、都心のビルや雑踏の中に隠れていて、普段は気づくことのない魅力的なものを、水や緑など豊かな自然や古代史跡に恵まれた守山区では、その貴重な資産の魅力をさらにアップさせることのできる要素を探すことに努めるものとした。

その上で、そのような資産が比較的多く残されていると想定される、神社、寺院、教会などの歴史的建造物、古墳、遺跡、城跡などの史跡、学校、茶道関連施設などの教育文化施設、ため池、河川などの自然を中心に調査を進めた。なお、魅力資産の活用アイデアを検討するにあたっては、できるだけ広い分野の魅力資産を調査整理した上で、それらの中から活用可能な魅力資産を厳選するよう努めるものとする。以下では、魅力資産の調査結果を整理した。

２－２　神　社

（１）東区の神社

神社の鎮守の杜は都市部の緑の源として、後世に最も伝え残したいものである。また、お祭り等を通じて地域にしっかりと根を下ろしている。ここでは、東区の主だった 9 社を記し、写真と共に江戸時代の様子を描いた尾張名所図会を掲載した。



番号	名　　称	番号	名　　称
1	片山八幡神社	6	松山神社
2	物部神社	7	白山神社
3	片山神社	8	六所社
4	神明社（赤塚）	9	七尾神社
5	冨士神社		

図 2-1　東区内の神社位置図

① 片山八幡神社

式内社。春日部郡 12 座のうち、大曽根八幡とも言う。男山八幡社（祭神は応神天皇）を勤請。荒廃していたのを尾張徳川二代藩主光友が再興し、代々徳川家の庇護を受けてきた。尾張名所図会等の諸書は「片山」を冠していない。

※　正月元旦午前零時、初夢宝船の版絵が手渡される。元旦の夜、枕の下に入れて寝ると一年の幸せがあると云われている。

※　保存樹：クスノキ 2 本、ムクノキ 1 本。

初夢宝船の版絵（片山八幡神社）

② 物部神社

式内社。愛知郡 17 社のうち。

祭神は物部氏の祖、宇摩志摩屋命。元禄年間三代藩主、綱誠（つななり）が修築。ご神体は大石（要石ｶﾅﾒｲｼ）という。名古屋市指定史跡。

※　保存樹：アベマキ、ケヤキ各 1 本。

③ 片山神社

式内社。山田郡 19 座のうち。

天武 13 年（684）、役小角、開基と伝う。主神、蔵王大権現、右神、国狭槌尊（ｸﾆｻﾁﾉﾐｺﾄ）、左神、安閑天皇。

境内は古くから「蔵王の森」といわれ、神木スギ、巨木クスノキ他、アラカシ、シラカシ、アベマキ、カクレミノ等、今尚、うっそうとした森をなす。ただ近時、社殿の手入れが

行き届いていない感がし、心配である。名古屋市指定史跡。
※　保存樹：クスノキ５本、イチョウ１本、ムクノキ２本。

④　神明社

　山口神明社とも赤塚神明社ともいい、山口一帯の総産土神である。祭神は天照大神。
名古屋市指定史跡。
※　保存樹：クスノキ２本、イチョウ、ケヤキ各１本。

⑤　冨士神社

　慶長築城の際、浅野幸長が社域に普請小屋を設けんと、一時、幅下に移す。境内に築城石の残石あり。例祭は５月９日、10 日であるも、平成 16 年は５月 13 日、14 日の土、日にも盛大に行われた。祭神はコノハナサクヤヒメ。
　保存樹も多く、都心の貴重な緑となっている。
※　保存樹：イチョウ、クスノキ各２本、ケヤキ１本。

⑥　松山神社

松山天道社、天道社とも云う。大永年間（1521～28）以前の創建であり、飯田町一帯の産土神。太陽に向かってお参りするので珍しい西向きの神社である。祭神は太陽神。

保存樹も多く、緑陰を提供している。

※　保存樹：クスノキ、ケヤキ各２本、イチョウ１本。

⑦　白山神社

１月 14 日午前 10 時からの左義長で知られる。残り火での餅焼きも賑やかで楽しい。祭神は白山菊理姫（ハクサンククリヒメ）。

※　保存樹：ケヤキ、アキニレ、イチョウ各１本。

⑧　六所社

安産の神様として信仰を集めている。祭神は、イザナギノミコト、イザナミノミコト、外４神を合祀。境内には保存樹も多く緑が濃い。

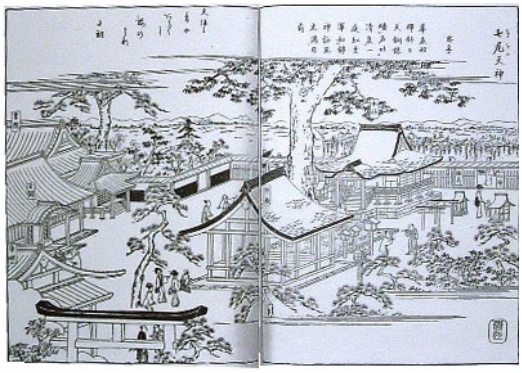
２月 26 日が大祭で、カッチン玉祭りと言い、カッチン玉と称する飴を売る店が並び賑やかである。

※　保存樹：クスノキ４本、クロガネモチ１本。

⑨　七尾神社

七尾天満宮、亀尾天満宮とも言い、文亀年間（1501～04）創建。江戸時代、当社から北を見下ろすのは絶景と伝えられる。祭神は菅原道真。

現在では、樹木は少ないが入り口のウコン桜は美しい。



（２）守山区の神社

番号	名　　称	番号	名　　称
1	尾張戸神社	7	川嶋神社
2	高牟神社	8	八劔神社
3	白山神社(市場)	9	八幡神社（下志段味）
4	勝手神社	10	八幡神社（吉根）
5	白山神社(小幡)	11	神明社（廿軒家）
6	生玉稲荷神社		

図 2-2　守山区内の神社位置図

① 尾張戸(ｵﾜﾘﾍﾞ)神社

市内最高峰（198.3m）の東谷山頂の前方後円墳上に祀られている式内社である。祭神は天火明命、天香語山命、建稲種命。天火明命は尾張連の祖である天香語山命の父にあたる。
名古屋市指定史跡。

東谷山の北斜面は、シイノキ、アラカシ等、常緑広葉樹に覆われ、下木には、クロバイ、ヤ

ブツバキ、アセビ等が茂り、林床にはシダ類が多い。トウゴクシダのトウゴクは、この地の名に由来している。

② 高牟神社

祭神はタカミムスビノミコト、イザナギノミコト、スサノオノミコト。創建は養老元年（717）と伝えられ、本殿は昌泰 3 年（900）再建。文政 8 年（1825）修造。明治になって社務所、拝殿、祭文殿を建立した。

大正 7 年、守山村史には樹齢 200 年の杉 2 本、100 年のヒノキ他 21 本があり、明治元年植付 25 本とある。現在も緑濃い境内である。

③ 白山神社

主神は菊理姫命、長母寺の鎮守であったと云う。前方後円墳上にある。

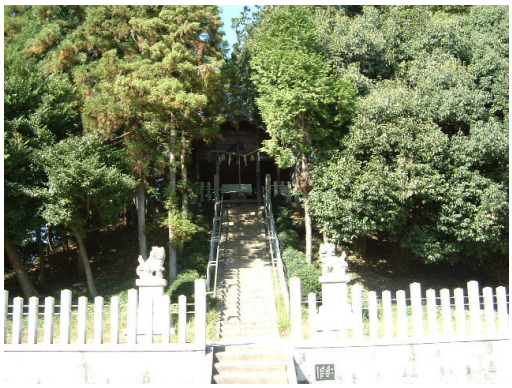
保存樹が多く、非常に緑濃い境内を形成している。

※ 保存樹：クスノキ、クロガネモチ各 4 本、ムクノキ、アベマキ、シラカシ、ヒノキ各 1 本。

④ 勝手神社

原形がかなり良く残っている帆立貝式前方後円墳上に祀られている。祭神は忍穂耳尊。南北朝の頃、水野又太郎良春が吉野山の勝手明神社を勧請したと云う。

※ 保存樹：ヒノキ 1 本。



⑤　白山神社

元、愛宕社の地であり、明治 43 年数社が合併してできた。保存樹を含めて緑の濃い神社である。祭神は菊理姫命。

※　保存樹：スタジイ 1 本。大正 7 年守山村史には、松 7 本、ヒノキ 2 本、山梨 1 本とある。

⑥　生玉稲荷神社

主祭神は倉稲魂神（ウガノミタマノカミ）で社伝では、西暦 1200 年頃の創建としている。洪水による流失、戦災にもあったが、昭和 49 年再建された。旧 2 月初午の日には、初午大祭が行われる。

※　保存樹：アベマキ、クスノキ各 2 本。

⑦　川嶋神社

山田郡式内社 19 社の 1 つである。伊邪那美尊、大苫辺（オオトマベ）命を祀り、例祭は 10 月 15 日。

現存保存樹はないが、大正 7 年守山村史には、松 13、樫 3、榊 1 とある。なお、江戸時代には熊野社と呼ばれ、手水鉢には天明 7 年（1787）熊野宮としている。

⑧　八劔神社

祭神は建速須佐之男命、天火明命、日本武尊。延暦 12 年（793）山田連の勧請と伝える。北八劔に創建され、中町田に移し昭和 2 年現在地に定まった。

保存樹は無いが、大正 7 年守山村史には、松、樹齢 300 年 2 本、樹齢 50 年 1 本、樫、樹齢 400 年 1 本、樹齢 100 年と 50 年各 1 本、杉、樹齢 100 年 1 本とあり、現在も多くの樹木が繁っている。

⑨　八幡神社

祭神、品陀和気命、祭日 10 月 15 日、大正 7 年西新外の秋葉社を合祀する。

※　保存樹：ムクノキ、シラカシ各 2 本。

⑩　八幡神社

誉田別尊を祀る。大正 8 年、神明社、山神社を合祀した。飛地の境内社に神明社がある。

※　保存樹：シラカシ 1 本。

⑪　神明社

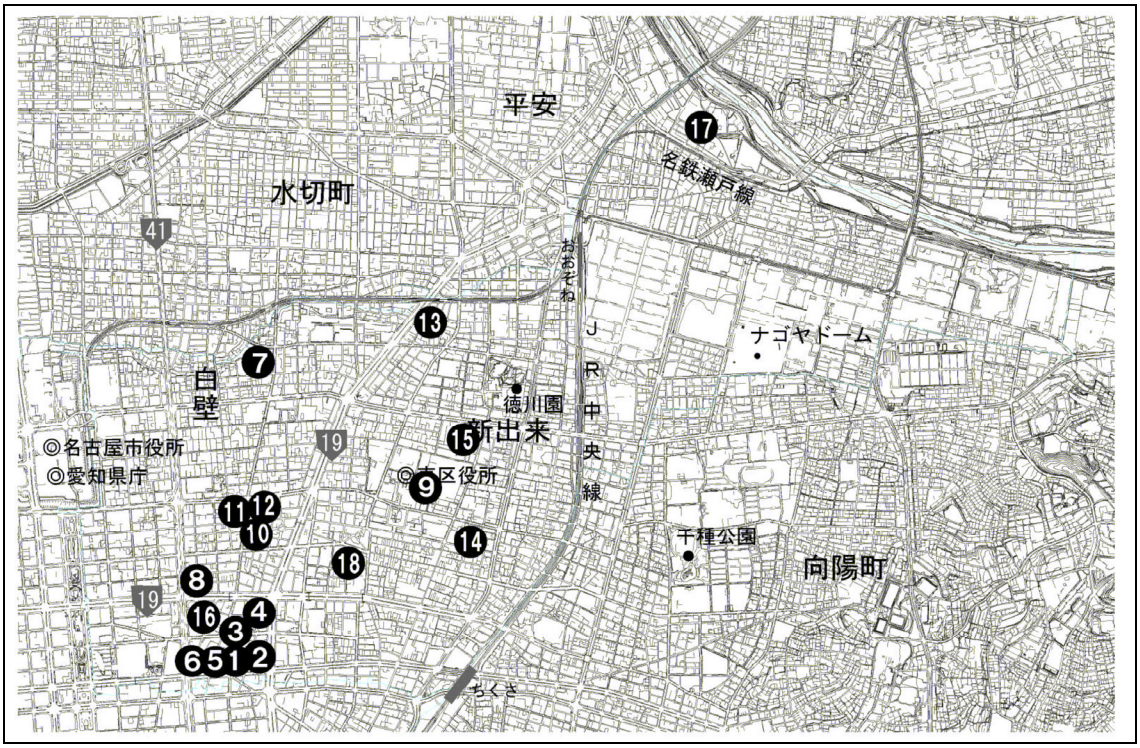
祭神は天照大神。保存樹も多く、貴重な緑となっている。

※　保存樹：アベマキ 2 本、クスノキ、シラカシ、ムクノキ各１本。

２－３　寺　院

（１）東区の寺院

慶長 15 年（1610）名古屋遷府に際し、寺院も移され駿河街道沿い小川町方面に法華寺町、松山町方面には禅寺町、東寺町として集められた。また、名古屋城東部には長久寺、相応寺、少し後になって建中寺等、大寺院が配された。平田町、大曽根方面にかけて高岳院、浄土真宗の養念寺、曹洞宗の関貞寺等が配され、少し後、日蓮宗の情妙寺が置かれた。尾張藩は各寺院に寺領を与えると共に支配下に置いた。現在もその多くは現地に存在している。なお、写真と共に尾張名所図会を掲載した。

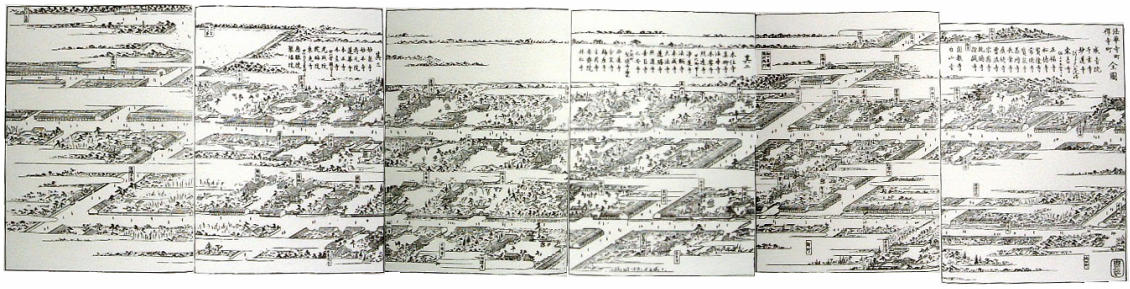


番号	名　　称	番号	名　　称
1	法華寺	10	貞祖院
2	真柳寺	11	大光寺
3	照遠寺	12	養念寺
4	妙本寺	13	関貞寺
5	含笑寺	14	情妙寺
6	西蓮寺	15	徳源寺
7	長久寺	16	へちま薬師東充寺
8	高岳院	17	長母寺
9	建中寺	18	無量寿院

図 2-3　東区内の寺院位置図

① 法華寺

日蓮宗。延徳年間（1489～91）織田常勝が創建。慶長 4 年（1599）に現在地に移る。名古屋市指定史跡。



② 真柳寺

日蓮宗。法華寺の末寺。その表門は江戸中期の作。一間薬医門である。

③ 照遠寺

日蓮宗。嘉永 6 年（1853）年に本堂以下主要堂宇を焼失後、再建された。楼門は棟札により享保 15 年（1730）の建立で簡素な造りであるも見事である。

④ 妙本寺

日蓮宗。享保 4 年（1719）類焼し、総門は翌年、庫裡は明和 3 年（1766）に再建。総門は三間薬医門。

⑤ 含笑寺

曹洞宗。享禄元年（1528）織田信秀が生母、含笑院の菩提を弔うため創建。山門は清洲城にあったもの。寺名に相応しい「含笑長屋－落語を聴く会」が昭和 42 年に結成され、昭和 62 年には寄席文字の寺標が建立された。

⑥ 西蓮寺

浄土宗。本堂裏には「二河白道浄土庭園」と名付けられた美しい日本庭園が造営されている。東海高校発祥の地でもある。

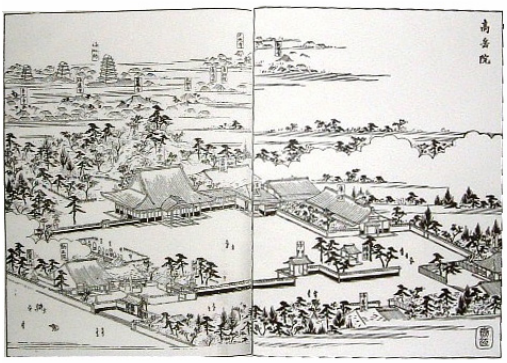
⑦ 長久寺

真言宗智山派。尾張藩主、松平忠吉が旧領の武蔵忍（ｵｼ）城下での祈願所を慶長 6 年(1601)に清洲に移したもの。名古屋遷府により現在地へ。表門は清洲時代のもの。保存樹も多く、緑濃い境内である。

※　保存樹：クスノキ 3 本、イチョウ 2 本、ケヤキ、クロガネモチ各 1 本。

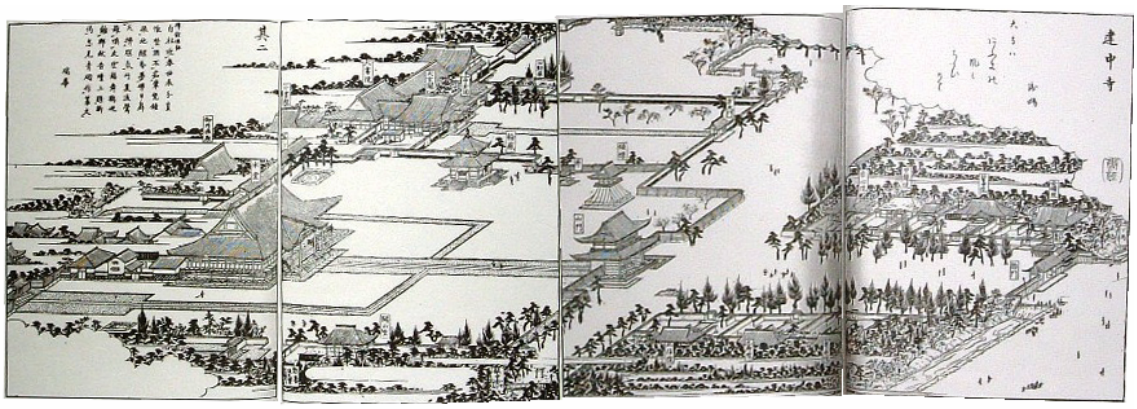
⑧ 高岳院

徳川家康の第八子で早世した仙千代の菩提寺。旧境内地は 7,300 坪あったが、明治になり 850 坪に減少した。高岳町は本寺名に由来する。名古屋市指定史跡。



⑨ 建中寺

浄土宗の名刹。慶安 4 年（1651）、尾張藩主光友が藩祖義直のため建立。承応 2 年（1653）境内を拡げ、元禄 11 年（1698）以後、藩主光友の生母を始め、藩主綱誠等、代々の御霊屋が営まれた。天明 5 年（1785）火災に遭い、総門、三門と塔頭、御霊屋の一部を残すのみとなったが、直ちに再建された。名古屋市指定史跡。



⑩ 貞祖院

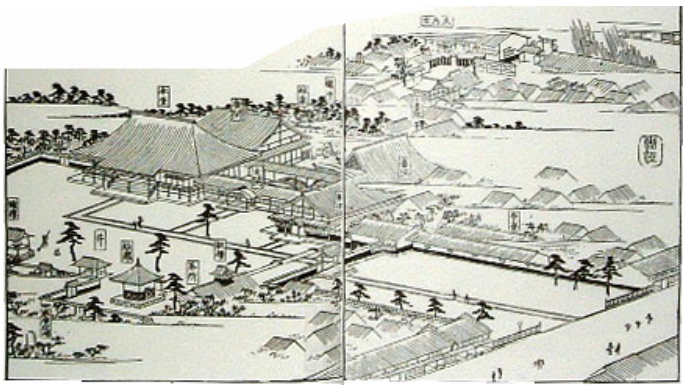
浄土宗。松平忠吉の位牌所として清洲に創建。享保 2 年（1742）現在地に移転。天明 2 年（1782）焼失。明治 5 年建中寺にあった 4 代藩主吉通の御霊屋を譲り受け本殿とした。

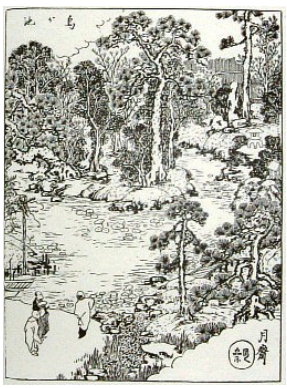
⑪ 大光寺

日蓮宗。明治 4 年名古屋藩庁の布告により小学校に充てられた。寛政（1788～1801）の頃、尾張名古屋は士朗（ｼﾛ）で持つと言われた俳人、中上士朗が寺域に隣接して住んでいたことでも知られる。

⑫ 養念寺

浄土真宗。慶長 2 年（1597）の建立という。その後、名園の烏が池とともに尾張名所図会にも記載される。現在も大変美しい庭園が境内にある。



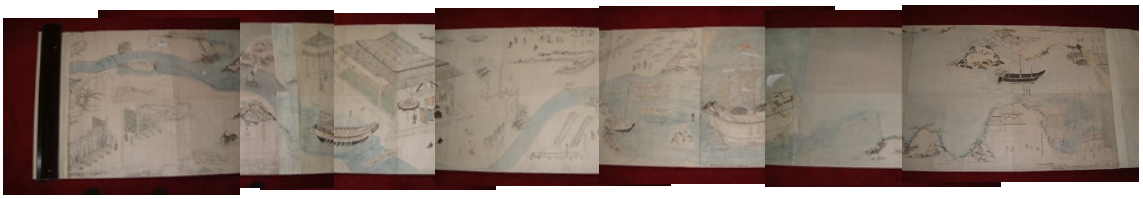


⑬ 関貞寺

曹洞宗。尾張名所図会に名古屋三景の一つとして推奨される。ここから見下ろす眺望が素晴らしかったといわれる。

⑭ 情妙寺

日蓮宗。慶安年中（1648～52）、尾州茶屋家初世が父母の法名を一字ずつとって寺号とした。藩祖義直死後、その位牌を並祀。同寺には県指定文化財の茶屋新六交趾渡航図巻が伝わっている。御朱印船、安南地方の風物、日本人町の景観、国王に進物贈呈の様子が分かり貴重である。名古屋市指定史跡。



⑮ 徳源寺

臨済宗妙心寺派。開祖は織田信雄で、始め熱田にあり、三転して寛保 4 年（1744）現在地に。文久 2 年（1862）藩主慶勝が道場とさせた。保存樹を含めて樹木が非常に多い境内は貴重な緑地空間である。
名古屋市指定史跡。
※保存樹：クスノキ 4 本、イチョウ 5 本、ムクノキ 1 本。
※名木：キリ 2 本。ボダイジュ 3 本。

⑯ へちま薬師東充寺

坂東充蔵により小牧に建立。天正年間、織田信長の時代に清州に移り、慶長 14 年に徳川義直の命により現在地に移された。患部を撫でた「へちま」で薬師如来に祈願すると病気が治ると言い伝えられ、多くの参拝者が「へちま」を納めたお堂がある。

⑰ 長母寺

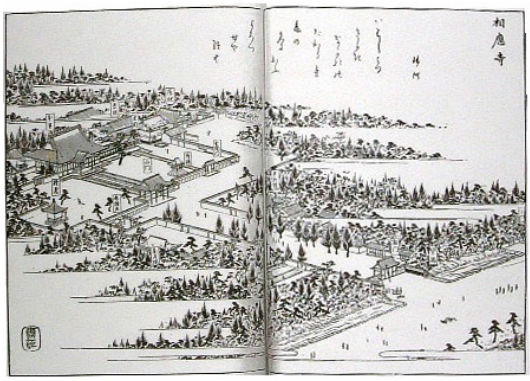
臨済宗東福寺派。治承 3 年（1179）山田重忠が母のために建立し、弘長 2 年（1262）に無住国師により天台宗から改められた。明和 4 年（1767）の洪水で庄内川の流れが変わり守山から矢田に位置するようになった。正月の尾張万歳は無住国師の法華経を分かり易く説いたものに始まるという。名古屋市指定史跡。

⑱ 無量寿院

浄土宗、文化 13 年（1816）尾張徳川家の創建。はじめ武州（武蔵国）大久保にあって精林庵といい、安政 3 年（1856）7 代藩主宗治の菩提のため今の地に移建した。名古屋市指定史跡。

⑲ 相応寺

藩祖の母親のため寛永 19 年（1642）に東区山口町に建立されたが、昭和 9 年千種区城山に移された。

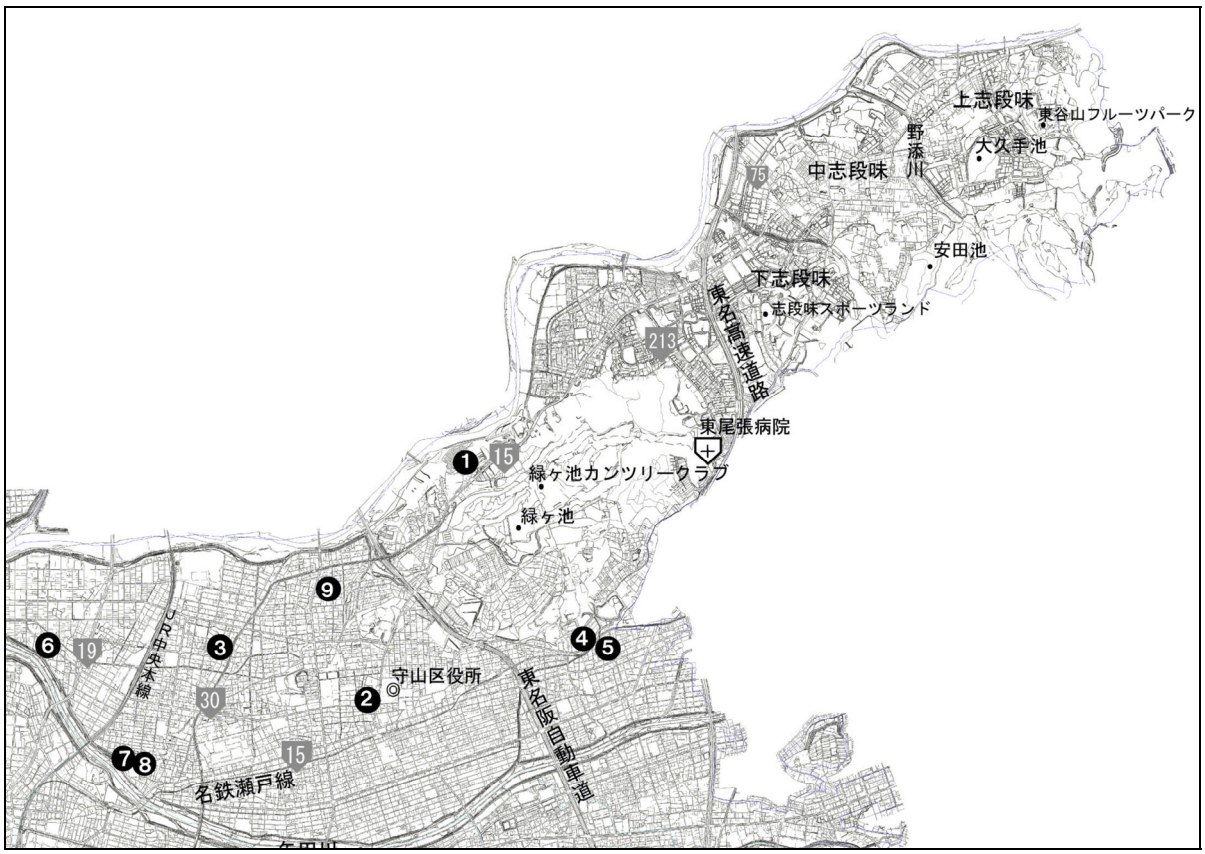


⑳ 平田院

平岩親吉の法号をもって平田院と号する。当初、東区代官町に建立されたが平成 2 年天白区植田に移転した。平田町は本寺名に由来する。浄土宗。名古屋市指定史跡。

（２）守山区の寺院

守山区は、緑被率 40 数%と市内最高率を誇っている。山地が多いことによるが、町中ではやはり社寺の緑が目をひく。緑こそいつまでも残したい魅力資産の第一である。なお、写真と共に尾張名所図会を掲載した。



番号	名　　称	番号	名　　称
1	龍泉寺	6	石山寺
2	長慶寺	7	宝勝寺
3	大永寺	8	誓願寺
4	大森寺	9	長命禅寺
5	法輪寺		

図 2-4　守山区内の寺院位置図

① 龍泉寺

伝教大師最澄が延暦年間（782～806）に創建したと云われ、銅製馬頭観音が本尊である。尾張４観音の一つでもある。天正 12 年（1584）、長久手の役で焼失。慶長年間（1596～1615)に再興するも、明治 39 年火災にあった。仁王門と木造地蔵菩薩立像は国重要文化財である。他には円空作の馬頭観音・千体仏五百数十体等がある。天台宗。名古屋市指定史跡。

※　保存樹：ムクノキ２本、エノキ、シイノキ各１本。

② 長慶寺

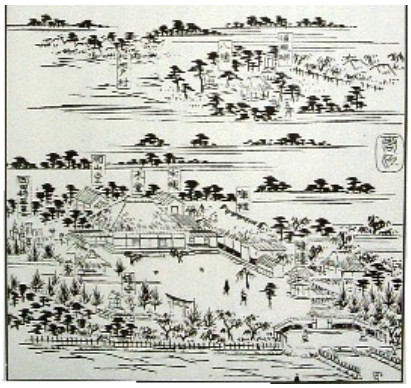
山田荘領主山田太郎兼継が寛元２年（1244）没し、その菩提を弔うため、弟の山田二郎正親が南山士雲を開山に迎え、建長年間（1249～56）に創建したと云う。臨済宗。名古屋市指定史跡。

※　無縫塔（県文化財）：開山南山士雲は建長寺 21 世。京都東福寺 11 世であったが、その墓標である。

③　大永寺

建久 8 年(1197)山田次郎重忠が亡父菩提のため建立するも、永正 17 年（1520）兵火に遭い、大永元年（1521)、後裔、岡田重頼が再建し、天台宗から曹洞宗に変じ、元号をもって寺名とした。曹洞宗。

※　保存樹：イヌマキ、ラカンマキ各 1 本。



④　大森寺

尾張藩二代光友が創建した浄土宗寺院。寛永 14 年（1637)光友が母、乾の方を弔うため、小石川の伝通院内に歓喜院を建立するも、寛文元年（1661）この地に移し、信誉上人を開山とした。裏山に母、歓喜院の墓所がある。また、加藤唐九郎の墓もある。浄土宗。名古屋市指定史跡。

⑤ 法輪寺

貞観 2 年（860）所の城主尾関勘八郎が天台宗の正宗庵を建てたが、文治年間（1185～89）討ち死にした。佐藤継信、忠信の母が尼となり、この地に留まり堂宇を建立した。天文 3 年（1534）雲興寺 7 世、大雲永瑞が再興し、正法寺と改め、曹洞宗とした。さらに安永 3 年（1774）、寺号を現在のように改めた。天正 12 年（1584）、兵火にかかった。寛文年間（1661～73）澄燃が現在地に移し、再興した。曹洞宗。

⑥ 石山寺

寛元年中（1243～47）道円の開基と云う。本尊は阿弥陀如来、薬師如来、釈迦如来の 3 体木像とも恵心僧都作と伝えられる。延宝 3 年（1675）2 代藩主光友により再建。明治 24 年濃尾地震で倒れるも、翌年復興したが、昭和 20 年戦災で観音堂、山門を残すのみとなった。天台宗。

⑦ 宝勝寺

寛永 14 年（1637）大永寺 7 世大渓良沢が、ここ守山城址に松平清康の霊を弔うために建立した。曹洞宗。

⑧ 誓願寺

16 世紀末、武田信玄の甥、祖的上人が行脚して開いた寺の一つと云う。その後、荒れていたのを宝暦年間（1751～64）尾張藩の家老、竹腰家の家臣、岡島宋感が再興した。よって、山号は岡島山。伊藤次郎左衛門が元禄 5 年（1692）に先祖供養のため寄進した涅槃図が残されている。浄土宗。

⑨ 長命禅寺

天正 12 年（1584）兵火に遭い、本尊、薬師仏は里人が守っていたが、元禄 13 年（1700）水野永重が再興し、嘉永年間（1848～54）寺堂を広げた。臨済宗。美しく手入れの行き届いた庭園のある大きな寺院。

２－４　教　会

教会は歴史的・景観的な見地から東区の二つの教会を取り上げた。

① カトリック主税町教会

明治 20 年創建。礼拝堂は木造であり、大正末期まで名古屋で唯一のカトリック教会であった。明治 42 年に富士山の溶岩を用いた「聖母の洞窟」ルルドが作られた。

※保存樹：ケヤキ 1 本。

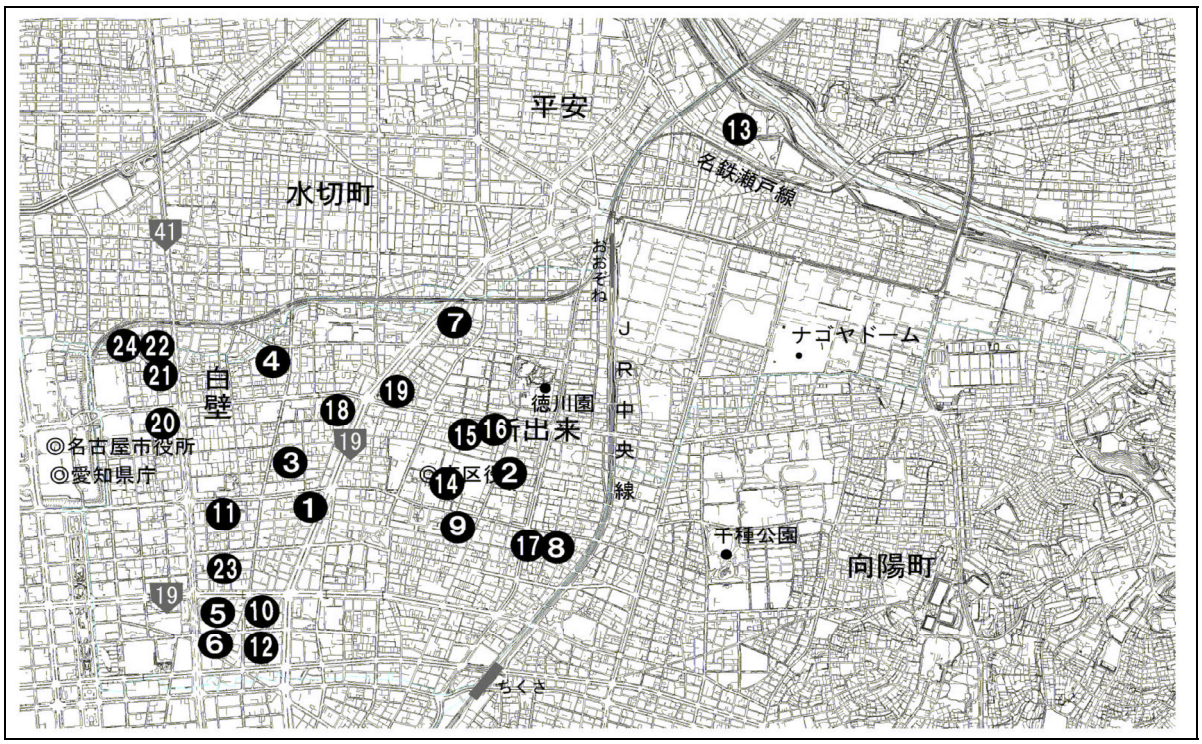
② 布池カトリック教会

正しくは「聖ペトロ・パウロ司教座聖堂」という。大聖堂は特色のあるゴシック建築で昭和 37 年竣工。聖堂内のステンドグラスが美しい。

２－５　石造物

交通関連の道標、文学碑、信仰関係等が存在するが、名古屋人の生活史を知る重要な遺物である。

（１）東区の石造物



番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	サヤノ辻（道標）	10	安斎院(句碑)	16	養寿院（地蔵）
2	吉田小路(道標)	11	士朗山里塚（句碑）	17	自然院（地蔵）
3	二葉御殿内（道標）	12	香烟（句碑）	18	心海寺（地蔵）
4	長久寺(道標・地蔵)	13	二木白図碑（句碑）	19	キリシタン地蔵
5	東充寺（地蔵）	13	富永杜発碑(句碑)	20	蔭涼寺（地蔵）
6	八事道(道標)	13	石井垂穂（狂歌碑）	21	清龍寺（地蔵）
7	三日月塚（句碑）	13	長母寺（地蔵）	22	竹薮地蔵
8	水鶏塚（句碑）	14	建中寺（地蔵）	23	遍照院（地蔵）
9	大朝芦穂塚（句碑）	15	徳源寺（地蔵）	24	観音院（地蔵）

図 2-5 東区内の石造物位置図

①道　標

ｱ．サノヤの辻

善光寺道。京大阪道。

明治 10 年設置。

サノヤの辻道標

ｲ．吉田小路。百人町道標

吉田小路（西面）。

百人町（南面）。

大正 6 年設置。

吉田小路・百人町道標

ｳ．二葉御殿内道標

是ヨリ右　江戸道。

江戸時代初期。

名古屋最古の道標。

二葉御殿内道標

ｴ．なるみ道。道標地蔵

地蔵の後背の部分。

右なるみ道　左□□坂道。

元は東海道沿いにあったものと思われる。

なるみ道・道標地蔵

ｵ. 八事道道標

戦後、寄進を受けたとのこと。

判読に難はあるが、次の通りの由。

西面　やはちそうみち。北面　するかまちくち。

東面　はくさんやことみち。南面　こきそかさてらみち。

欠け所　あつたみち。

八事道道標

②句　碑

ｱ. 妙見山了義院

○三日月塚

有とある　たとへにも似ず

三日の月（芭蕉篇）

（背）寛保 3 年 10 月 2 日　当 50 回忌建立

芭蕉五十回忌の寛保 3 年（1743）五条坊木児が建てた翁塚。名古屋市指定史跡。

三日月塚　尾張名所図会より

貞享 5 年の秋、芭蕉がこの寺の辺りを徘徊した時、詠んだ原句は「何事の　見たてにも似ず　三日の月」という。

ｲ. 源頂山情妙寺

○水鶏塚　雪江斎呑水の句碑

手のひらに　雨をしる夜の　水鶏哉

安永戊戌 10 月 4 日　50 回忌追善に当寺 13 世日豊上人のものとした碑銘がある。呑水は僧名日陽、当山六世犬山の人で丈艸とは竹馬の友。

水鶏塚

ｳ. 定覚山善光寺

○大朝芦穂塚

芦の穂の　南の果ては　なかりけり（大朝）

（碑陰）寛政二年戊七月建立

中野荻蔭斎は犬山の出自で馬州門。この碑は 13 回忌の建立。

大朝芦穂塚

ｴ. 曹源山安斎院

○月松軒塚　酒井丹下の句碑

ならびが岡の古蹟うつして

残すものさくらひともと我身かな（月松軒）

兼好法師のファンであり筆蹟と桜を寄付して、その記念に自らこの碑を建てたもの

ｵ. 大光寺

○士朗山里塚

山里の月夜を運べ庭の松

井上士朗は町医で師の暁台をしのぎ「尾張名古屋は士朗（城）で持つ」と名声を博した。昭和44年155回忌に当時35世が建立。

士朗山里塚

ｶ. 浄蓮寺

○香烟（コウエン）

（碑表）浄らかや法の蓮の薫る寺

（碑裏）昭和六年辛未冬　超立山十八世　日定

浄蓮寺香烟

ｷ. 霊鷲山長母寺

○二木白図碑　開山堂南池の北岸

（上面）桂葉

（北面）風月賀　門泥狐　呂婆牟　庚奇乃　暮　風月が門でころばむゆきの暮

（東面）白図老人風狂也　　（西面）享和改元年十月建　朱杓老樵

○富永杜発碑　長母寺山門と本堂中間西側

風月の道こそよけれ月と花　八十八翁杜発　残夢庵代書

（碑陰）梅雅会（51名氏名）

発起人（8名氏名）

昭和四年巳巳弥生月建立

杜発（1848～1931）は旧藩時代は藩の御用達を勤めたが、後、俳諧雑誌をも発行した。

富永杜発碑

③狂歌碑

長母寺山門、本堂中間、地蔵群東。

石井垂穂（タリホ）　辞世の狂歌　天保 11

（碑表）無空々々碑

（碑陰）もし婆の功得を閣應問ふならば　はか糞肥えにしたと答へむ

禄高 200 石の尾張藩士で横井也有に私淑

石井垂穂　狂歌碑

④地　蔵

ｱ．長母寺

開山堂内。開山無住国師像の前面左右に千体地蔵と六地蔵がある。千体地蔵は二代藩主光友の侍女達の寄進によると伝えられる。

長母寺千体地蔵

ｲ．建中寺

○地蔵堂（院内西南隅。高さ 50cm。花崗岩。笠像。）

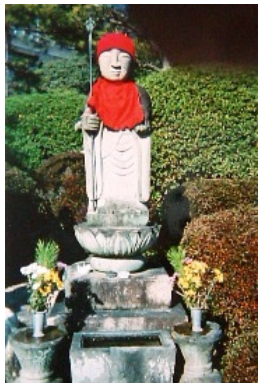
金鱗九十九之塵に二代光友の奥方千代姫の髪を埋めた上に地蔵尊を建立したとある。

○石地蔵立像

門内左側の築山に安置する。高さ 93 cm 。

○水掛地蔵

門内左側。水屋の中にある。高さ 32 cm 。花崗岩。



建中寺石地蔵立像

ｳ．徳源寺

○地蔵尊立像

門の突き当たり玉垣の中。高さ 150 cm。大正 3 年の刻銘。

○南無地蔵大菩薩

大正 9 年建立の角柱。傍に地蔵像 5 体。

○地蔵堂

堂内に 50 cm 程の立像・座像が各 1 体。

○水掛地蔵

境内中央の浄水の傍にあり、良門慧章沙門。明治 34 年 5 月願主と刻銘にある。

徳源寺地蔵立像

ｴ. 養寿院

○地蔵堂

堂内に高さ 90 cm の立像。年代不明。

○地蔵尊立像

光背を背にした 57 cm の尊像。年代不明。

養寿院地蔵堂

ｵ. 自然院

○木像延命地蔵

筒井幼稚園内二階講堂の厨子に安置。半跏、彩色、高さ 35 cm。

○出世地蔵

道路沿いの堂内。高さ 80 cm。

自然院木造延命地蔵

自然院出世地蔵

ｶ. 心海寺

○線刻地蔵

本堂前、東側の植え込みの中。自然石に線刻。時代不明。

○地蔵立像

本堂東側。台座に乗る。

心海寺線刻地蔵

心海寺地蔵立像

ｷ. 赤塚神明社

○キリシタン地蔵

織部型燈籠の竿に陽刻

キリシタン地蔵

ｸ. 長久寺

○水掛地蔵

門内左側浄水の傍。高さ 43 cm 座像。台石に大正 10 年 10 月。城西講中の刻銘。

○道しるべ地蔵

門入り直ぐ右手に 6 体の地蔵像があり、一番右側の像。高さ 41 cm。左なるみ道。右○○道。

長久寺道しるべ地蔵

ｹ. 蔭涼寺

○140 cm の石地蔵。

蔭涼寺石地蔵

ｺ. 清瀧寺

○地蔵堂

堂内延享から宝暦・安永の頃の立像 6 体と座像 1 体、計 7 体がある。

清瀧寺地蔵堂

ｻ. 竹藪地蔵

○地蔵堂

清水口から坂を下りる途中左側のコンクリート地蔵堂に安置。

老婆が夢に現れた地蔵を竹藪から掘り出し祀ったもの。

竹藪地蔵

ｼ．遍照院

○お首地蔵

3 体の内、1 番左。

○子安地蔵

○石地蔵立像

門内右側。宝永 4 年銘。花崗岩。87 cm。

遍照院お首地蔵

ｽ．東充寺（へちま薬師）

○延命地蔵

本堂須弥壇左の脇壇に安置。半跏。彩色木像。

高さ 70 cm。

○水掛地蔵

浄水の傍

東充寺水掛地蔵

ｾ．観音院

○子安地蔵

観音院子安地蔵

（２）守山区の石造物

番号	名称	番号	名称
1	龍泉寺道（道標・地蔵）	5	大永寺（地蔵）
2	石山寺道（道標・地蔵）	6	宝勝寺（地蔵）
3	浄土院（地蔵）	7	常雲寺（地蔵）
4	利海寺（地蔵）	8	常楽院（地蔵）

図 2-6　守山区内の石造物

①道　標

ｱ．龍泉寺道

○区役所交差点北西

宝暦十三（1763）癸未年

従是北龍泉寺道。

龍泉寺道道標
（区役所交差点北西）

○区役所交差点南西

天明元辛丑年（1781）

西かさてら　北里うせんし道。

龍泉寺道道標
（区役所交差点南西）

ｲ．石山寺道

善光寺街道から左折（西入り）石山寺本堂東の庫裏の東。

北面：右石山寺道

西面：寛政七卯（1795）五月吉日

石山道道標

②地　蔵

ｱ．龍泉寺

○無住国師作地蔵菩薩像（重文）

本堂東宝物館内。高さ 68ｃｍ。彩色

○地蔵菩薩立像１体

本堂東宝物館内。鎌倉時代と説明。

龍泉寺地蔵菩薩立像

ｲ．石山寺

○半跏延命地蔵菩薩像

木彫の半跏像で本堂内左西側に移された。

石山寺半跏延命地蔵菩薩像

ｳ．浄土院

○交通安全守護地蔵

門外東、幼稚園の門の右、高さ 47ｃｍ、昭和 47 年建立。園児に事故があり、その供養と園児全体の守護を祈ってのものという。

○子安地蔵

山門前左側、高さ 88ｃｍ、童子を両手で抱き、童子が両手で宝珠を捧げる。

浄土院交通安全守護地蔵

浄土院子安地蔵

ｴ．利海寺

○地蔵堂本堂

延命地蔵菩薩立像（天保 4 年 1833）作

○西側墓地入口六地蔵

記銘あるようだが判読できず。

利海寺六地蔵

ｵ．大永寺

○六地蔵

門内西側。元禄 9 年（1693）銘あるとのだが判読できず。

大永寺六地蔵

ｶ．宝勝寺

○地蔵尊立像

本堂西墓地入口にあり。昭和 8 年建立。

宝勝寺地蔵尊立像

ｷ．常雲寺

○安永 9 年（1780）銘の子安地蔵。

六地蔵があるも墓地再造成中のため、本堂前に梱包されている。

常雲寺子安地蔵（造成中）

ｸ．常楽院

○千体地蔵

堂内の正面厨子内に地蔵立像を祀り、その前後に素焼きの陶製の千体地蔵を並べる。瀬戸に近いと感じる。

○堂左、西側に石仏群

当地方では珍しい六十六部廻国塔（嘉永 4 年 1861）法華経二千部塔（明和 6 年 1769）が見られる。

常楽院千体地蔵

常楽院石仏群

２－６　古　墳

（１）概　要

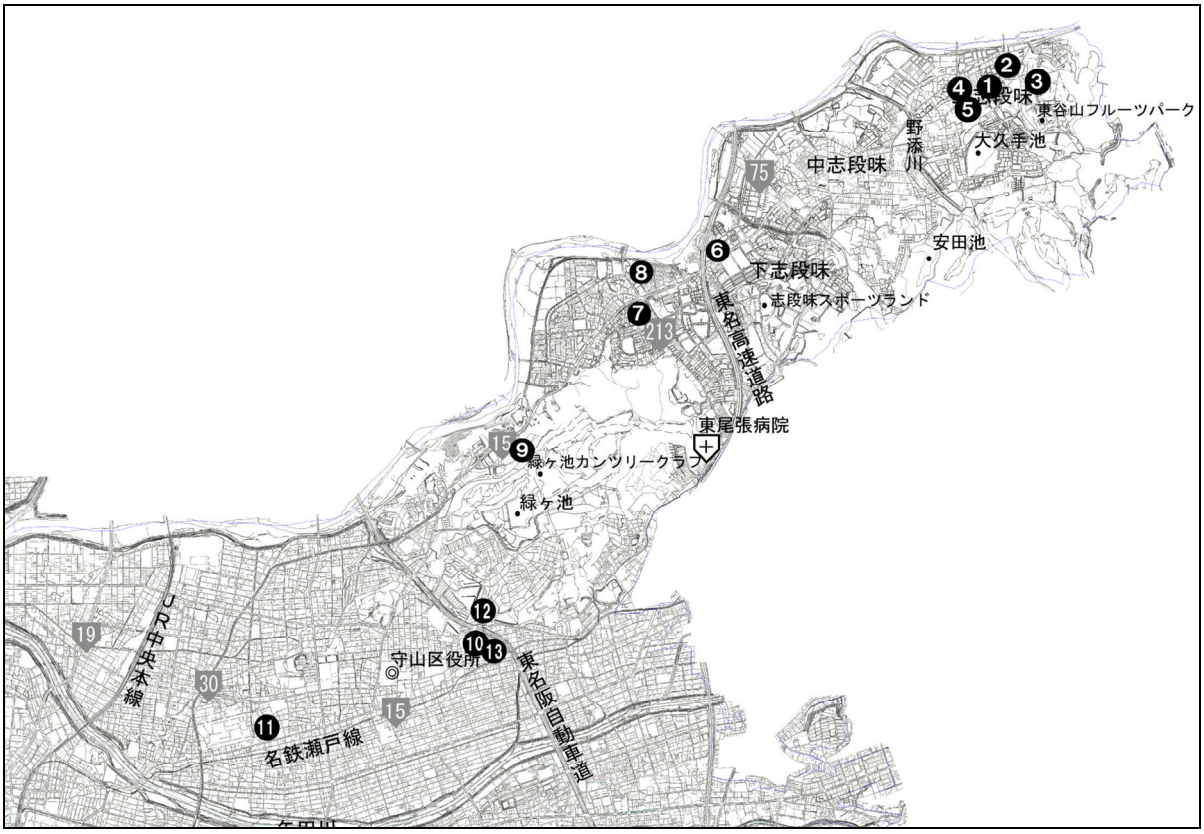
市内には現在およそ 200 基（うち前方後円墳 18 基）が残っているが、このうち半数以上が守山区に残存するといわれる。守山区は龍泉寺のある丘陵を境に北東の志段味地区と南の小幡・守山地区に大きく分けられる。

志段味地区の東谷山の麓に最も古い時期（4 世紀末)に造られた白鳥塚古墳があり、東谷山の稜線上には、これに続く時期の古墳が並んでいる。

5 世紀の中頃には、段丘の端にこの地区独特の前方後円墳（帆立貝式）が連続して造られた。代表的なものとしては、勝手塚古墳があり、また、この南の大久手池の周辺には、これと同じ形式の古墳 3 基が集中して築かれている。

4 世紀末から 5 世紀にかけて、志段味地区では前方後円墳が築かれている。当時の地域権力の中心の一つであったと考えられる。

小幡地区では、5 世紀中頃から古墳の造営が始まった。茶臼山古墳、長塚古墳、瓢箪山古墳、守山白山古墳の前方後円墳は、この地区が、これ以降志段味地区に代わって守山の古墳文化の中心になったことを示している。



番号	名　称	番号	名　称	番号	名　称
1	白鳥塚古墳	6	東禅寺古墳群	11	瓢箪山古墳
2	白鳥第1号墳	7	笹ヶ根古墳群	12	茶臼山古墳
3	東谷山古墳群	8	上島古墳群	13	池下古墳
4	勝手塚古墳	9	松ヶ洞古墳群		
5	大久手池周辺古墳	10	長塚古墳		

図 2-7　守山区の古墳位置図

（２）守山区上志段味地区の古墳

① 白鳥塚古墳（4 世紀後半）

東谷山麓西側に位置する前方後円墳。古墳時代前期のもので、原形をほぼ保っている。後円部には、白色石英の葺石が全面を覆い、その美観が白鳥に似ているところから白鳥塚の名で呼ばれるようになった。

現状は、深い樹木に覆われており、沿道には歩道も無いため気をつけて探さないと見落としかねない状況にある。

全長 105m。後円部径 55m、高さ 6m。前方部幅 26m。
市内最古の古墳。国指定史跡（昭和 47 年指定）。

② 白鳥第 1 号墳（6 世紀末～7 世紀初め）

東谷山の西側山麓に群集する古墳時代後期の円墳の一つであり、横穴式石室が口を開けており、観察できる市内では数少ない古墳の一つ。石室は平面徳利型･無袖式。羨道は西に向けて開口している。原形をほぼ完全に残す石室として市内唯一のものである。昭和 36 年の石室内部の調査では、須恵器、土師器、馬具、直刀、刀子（とうす）、鉄鏃（てつぞく）などが出土した。

直径 17m、高さ 3.5m。石室全長 9.8m、最大幅 1.6m。平成 7 年、名古屋市指定史跡。

③ 東谷山古墳群

市内第一の高山、東谷山の頂に祭る尾張戸（おわりべ）神社の社殿自体が円墳の上に建てられており、かつては西麓一帯に多数の小円墳が散在していたが、今では僅かに数個を数えるのみである。名古屋市指定史跡。

現状は、宅地整備による東谷第三号墳の移設に伴い、その石室に使用されていた石を使って尾張戸神社に隣接して作庭が成されている。

④ 勝手塚古墳（5 世紀中から後半）

中位段丘のほぼ中央に位置し、その形状は大久手古墳群と同様の帆立貝式。後円部は二段に築かれた様子が良く残り、段上や墳頂上に埴輪円筒を並べた跡がうかがわれる。濠はもと、二重であったといわれるが、現在は内濠の西側周堤だけが残っている。

全長 53m、後円部径 40m、6.5m、前方部高さ 2.3m。名古屋市指定史跡。

現状は、勝手塚神社の境内地になっているが、濠の跡を一部伺うことができる。

⑤ 大久手池周辺古墳

大久手池は庄内川の上位段丘面に築かれた農業用のため池であるが、この段丘の端に沿って 4 基の前方後円墳と 5 基の円墳が群を成している。しかし、現状は荒地であり古墳の場所を確認することは容易でない。

○志段味大塚古墳

後円部に比べ、前方部が短小となる帆立貝式前方後円墳である。京都大学の梅原末治氏と地元の長谷川佳隆氏らによって 1923 年（大正 12）発掘調査が行われた。鈴の付いた鏡と金銅製馬具等が出土した。

全長 51.5m。後円部径 36.0m。高さ 6.5m。

前方部長 15.5m。幅 15.0m。

○東大久手古墳（5 世紀後半）

全長約 38mの帆立貝式前方後円墳。周濠をもち、後円部と前方部の境で列石円筒埴輪が認められた。現状は前方部が削平され、また後円部も土取りによって形状が損なわれている。

○西大久手古墳

墳丘が全て削りさられている。上空から見ると、水田のあぜの形で元の前方後円墳の形状と濠の様子が分かる。

○大久手 5 号墳

大久手池の南側半分の堤防として利用されていたため分からなかったが、最近その存在が確認された。墳丘の形は良好に残っている。

（3）守山区吉根地区の古墳

東名高速道路の辺りから龍泉寺の丘陵にかけての吉根地区には、多くの古墳が集まっている。

① 東禅寺古墳群

○東禅寺第 1 号墳

直径 10m。高さ 2m 程の円墳で、全長 6.0m、最大幅 1.5mの胴張りのある平面徳利形の両袖式横穴式石室。

玄室側壁と敷石の一部には、酸化鉄による赤色塗彩がある。墳丘正面裾には列石が巡り、またテラスも設けられていた。出土遺物の中で装飾須恵器は、注目されている。

○東禅寺第 2 号古墳

直径 15～20m、高さ 2.0m程の円墳で、全長 14m、最大幅 2.4mの胴張りのある平面式徳利形の両袖式横穴式石室を持つ。石室前面には、第 1 号墳と同様の施設があり、墳丘、石室規模の差はあれ、第 1 号墳を造った集団と同一の集団の古墳である。

石室に使用された石は、庄内川上流のものも含まれている。

○東禅寺第 3･5 号墳

墳丘・石室規模が分からないほど削平されている。横穴式石室を持つ円墳だったと思われる。

※東禅寺古墳群は、東名高速道路の整備によって全滅した。

② 笹ヶ根古墳群

5 基確認されているが、4 基が既に発掘調査されており、それぞれ築かれた時期が異なることが分かっている。最も古いものは 1 号墳で、粘土で包んだ木の棺の中から鏡などの副葬品が出土した。

出土した鏡の形式等から 5 世紀に築かれたものと考えられている。これに続いて 3、2、4 号墳の順に築かれたものと考えられる。深沢古墳 3 基は、これらに引き続いて築かれた。

○笹ヶ根第 1 号墳

直径 20m。高さ 2m程の円墳で、長さ 4.9m、最大幅 0.7mの木棺を納めたと推定される粘土槨が検出された。

○笹ヶ根第 3 号墳

直径 20m。高さ 1.7m程の円墳。墳丘裾には川原石を用いた葦石帯が巡っていた。主体部は規模不明の北棺と、長さ 3m、最大幅 0.5mの南棺が知られ、北棺は木棺直葬、南棺は礫床に木棺を納めたもの。

○笹ヶ根第 2 号墳

直径 20m。高さ 1.8m程の円墳。全長 7m、最大幅 2.1m程の平面長方形の横穴式石室を持つ。埴輪が出土。

○深沢第 1 号墳

直径 8m。高さ 1m程の円墳。全長 5.5m、最大幅 1.3m程の平面徳利形をした両袖式横穴式石室を持つ。

③ 上島古墳群

深沢古墳に遅れこの地区では最も新しい時期のものであり、庄内川に面した丘陵最末端に 6～7 基の小円墳が集中している。川原石を積み上げた小さな石室に数点の須恵器が埋葬されていた。

○上島第 1 号墳

1958 年、墳丘の全く認められない平坦な畑地で全長 3.4m、幅 0.7mの石組みが検出された。石組みは、横穴式石室の退化した竪穴式石室で、出土した須恵器から 7 世紀前半頃の古墳と考えられている。

④ 松ヶ洞古墳群

やや古い時期のものまであり、幾つかは 5 世紀の中頃まで遡るものではないかと考えられている。円墳だけでなく、方形墳も確認されている。

○松ヶ洞第 8 号墳

一辺 8.4m、高さ 1m程の方墳で、墳頂に差し渡し 3.4m程の平坦部を持つ。墳丘裾に円筒埴輪が巡らされ、所々に朝顔形埴輪が配されている。四隅には、大型の須恵器の壷、瓶が置かれていたと思われる。葦石は古墳の西斜面に密集し、ここから供献須恵器も出土していることから、この面が古墳の正面と思われる。墳頂には、家形埴輪が置かれていた。埋葬主体は 2 箇所あり、豊富な遺物が出土した。

○松ヶ洞第 9 号墳

直径 16m、高さ 1.5mの円墳で、葦石は有していない。埴輪は墳頂に若干認められた程度である。埋葬主体は 3 箇所あり、いずれも木棺直葬ないしは略式粘土槨である。墳丘裾から若干の供献須恵器が出土した。

（４）守山区小幡地区の古墳

龍泉寺丘陵を南へ下ったあたりは、洪積丘陵末端から広く続く平原である。丘陵末端に後期の円墳群平原部には前方後円墳が築かれている。

① 長塚古墳

小幡原に現存する前方後円墳の中では最大のもので、全長 81m、後円部径 38m、前方部復元幅 42mで、前方部の大きな古墳である。高さはわずかに後円部の方が高い。

墳丘の所々に溝が走っているが、これは今次大戦中に掘られた塹壕の跡である。昭和 11 年愛知県による調査では、本古墳は二重の濠に囲まれた壮大なものであったといわれる。

現状は直近まで住宅が建っているが、保存状態も比較的良好で古墳としての形状が残されており、雑木が繁っている。名古屋市指定史跡。

② 瓢箪山古墳

小幡原台地の南部に所在する前方後円墳で、全長 63m、後円部径 36m、前方部幅 58m、高さは後円部 5m、前方部はそれより 0.8m程高い。二段築城の様相をとどめ、墳丘上や裾から埴輪片が採集される。戦前は周濠に水もあったといわれる。

前方部の大きい形状や、埴輪などから 6 世紀初頭のものと推定され、内部主体もそのまま残るなど保存状態も良好である。

現状は、深い緑に包まれており、案内表示なども整備されている。名古屋市指定史跡。

③ 茶臼山古墳

丘陵末端に位置することなどから、最も古い時期のものと考えられ、5 世紀中頃の造営とされている。浅い周濠が確認され、西側が道路整備に伴って削られており、墳丘断面が観察される。黒い土と赤色の地山の土を積んで構築されている。

④ 池下古墳

全長 40m、後円部径 25m、高さ 3m、前方部幅 20m、高さ 2.5mの前方後円墳。1966

年発掘調査によって、墳丘裾の埴輪列、くびれ部施設、埋葬施設に伴った石組排水施設が検出され、5 世紀最末から 6 世紀初頭の造営であることが確認された。くびれ部施設は、埴輪と大型須恵器で囲まれた内側に脚付七連杯、有蓋高杯、鉄鏃（テツゾク）が検出され、首長権継承に係わる葬送儀礼の様子が伺える。遺構として注目されている。

表 2-1　守山区内の主な古墳一覧

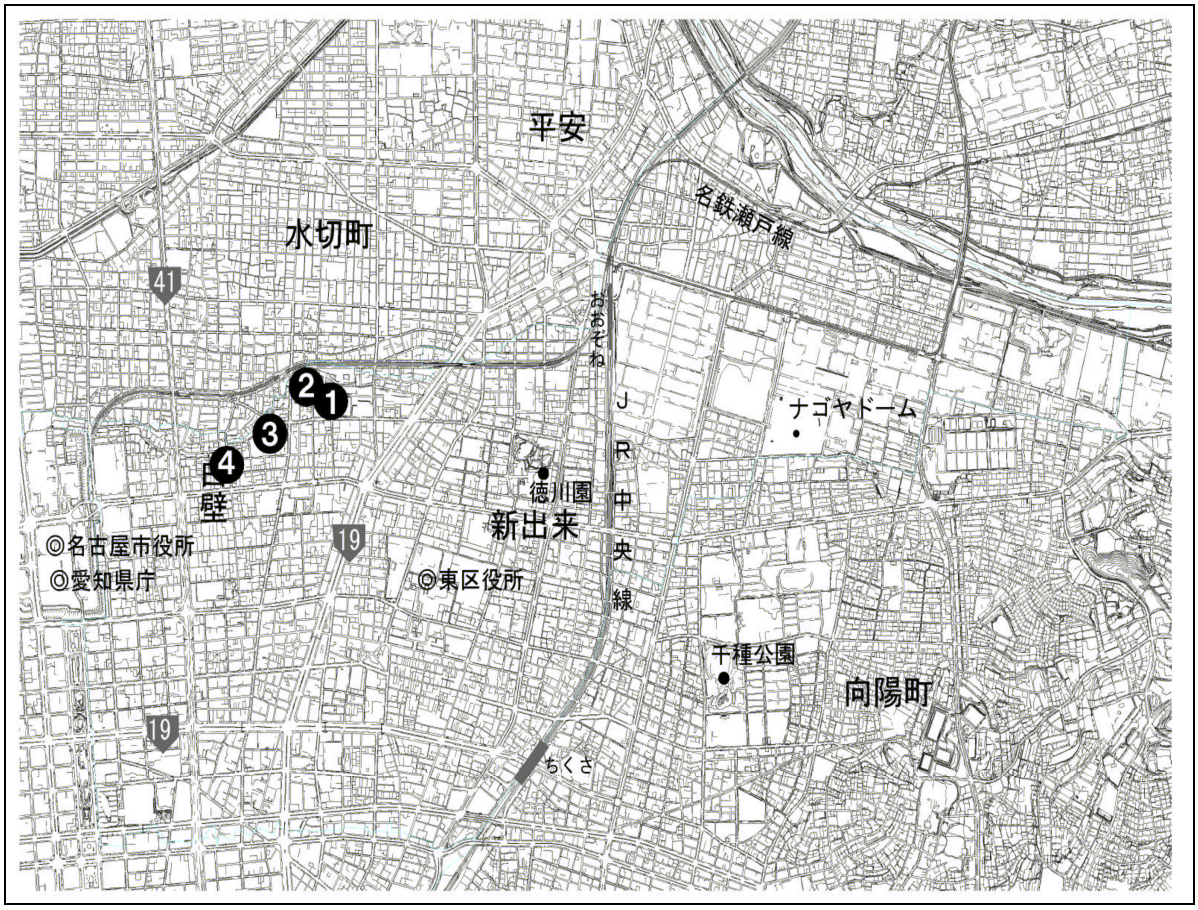
番号	名称	所在地	概　　要(単位:m)	形　　状
1	白鳥塚	上志段味字東谷 2107	全長 105、後円部径 55、高さ 5	前方後円墳
2	白鳥第 1 号	上志段味字白鳥 946	直径 17、高さ 3.5、石室(長さ)9.8	円墳
3	東谷山第 16 号	上志段味字東谷 2109	直径 30、高さ 3、石室 18	円墳
4	勝手塚	上志段味字中屋敷 1462	全長 53、後円部径 40、高さ 6.5.前方部高さ 2.3m	帆立貝式前方後円墳
5-1	志段味大塚	上志段味字大塚 1284	全長 51.5、後円部径 36、高さ 6.5	帆立貝式前方後円墳
5-2	東大久手	上志段味字大塚 1265	全長 38	帆立貝式前方後円墳
5-3	西大久手	上志段味字大塚	墳丘が削り取られている	前方後円墳
5-4	大久手第 5 号	上志段味字大久手下		帆立貝式前方後円墳
6-1	東禅寺第 1 号	上志段味字東禅寺	直径 10、高さ 2、石室 6	円墳
6-2	東禅寺第 2 号	上志段味字東禅寺	直径 15～20、高さ 2、石室 14	円墳
7-1	笹ヶ根第 1 号	吉根字笹ヶ根 564	直径 20、高さ 2、石室 4.9	円墳
7-2	笹ヶ根第 2 号	吉根字笹ヶ根 564	直径 20、高さ 1.8、石室 7	円墳
7-3	笹ヶ根第 3 号	吉根字笹ヶ根 564	直径 20、高さ 1.7、石室 3	円墳
8	上島第 1 号	吉根字上島 366	全長 3.4、幅 0.7、石組竪穴式石室	墳丘なし
9-1	松ヶ洞第 8 号	吉根字松ヶ洞 3254	1 辺 8.4、高さ 1、墳頂 3.4、平坦部	方墳
9-2	松ヶ洞第 9 号	吉根字松ヶ洞 3254	直径 16、高さ 1.5	円墳
10	長塚	小幡四丁目 12	全長 81、後円部径 38、高さ 7.5	前方後円墳
11	瓢箪山	守山字東山 105	全長 63、後円部径 36、前方部幅 58	前方後円墳
12	茶臼山	小幡字北山 2733-52	全長 63、後円部径 40	前方後円墳
13	池下	小幡字池下 46	全長 40、後円部径 25、高さ 3	前方後円墳

※守山の遺跡と遺物、名古屋の古墳守山区を中心に、守山の古墳（昭和 41 年 3 月）、守山の古墳（昭和 44 年 3 月）、守山区吉根の各参考図書から作成。

２－７　遺　跡

（１）東区の遺跡

北区と接する名古屋台地北部には、点々として縄文遺跡が連なっており、この地が最も早く人々が生活の場としたことを現している。



番号	名　称	番号	名　称
1	東芳野町遺跡	3	長久寺遺跡
2	片山神社遺跡	4	東二葉町遺跡

図 2-8　東区の主な遺跡位置図

① 東芳野町遺跡

名古屋台地の北縁から約 200m南の台地上。名古屋市立工芸高校敷地の南西部にある。磨製石斧を出土。

② 片山神社遺跡

台地上を中心に縄文時代から中世にかけての遺物が散布する。1935 年頃から知られ、名古屋市博物館が所蔵する吉田富夫コレクションに土器片 20 点ほど。北村文武夫コレク

ションは弥生時代と思われる石鏃 4 点である。名古屋市教育委員会では、1986 年、約 720 ㎡を調査し、縄文時代と考えられる磨製石斧、石錘、石鏃、石刀片を出土した。

③ 長久寺遺跡

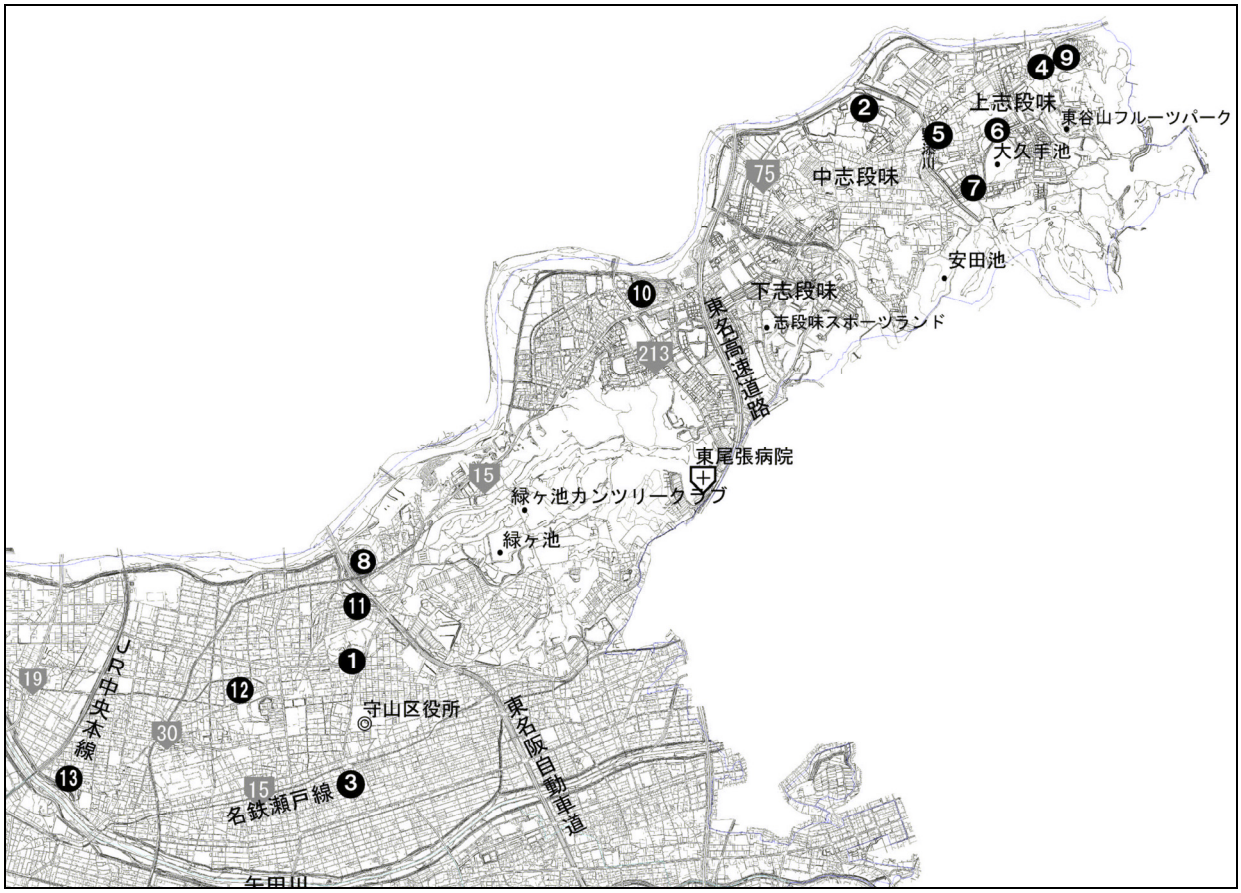
縄文中期後半の長久寺貝塚を中心に、縄文・古墳・中世の遺物が散布する。貝塚は、今の金城学院中学校の敷地内にある。

④ 東二葉町遺跡

名古屋台地の北縁沿いに立地し、須恵器、土師器、中世陶器が採集されている。1993 年名古屋市教育委員会の試掘調査では、縄文時代中期末、土器片 1 点を出土した。

（２）守山区の遺跡

守山区には、古墳同様に遺跡も数多くある。以下には、主な遺跡を整理した。
なお、紙面の都合上「２－８　城　跡」の位置も同位置図に示した。



番号	名　称	番号	名　称	番号	名　称
1	牛牧遺跡	6	大塚遺跡	11	牛牧離レ松遺跡

2	天白･元屋敷遺跡	7	二ノ輪遺跡	12	小幡城跡
3	小幡廃寺	8	川東山遺跡	13	守山城跡
4	白鳥遺跡	9	東谷山西麓遺跡		
5	樹木遺跡	10	深沢 1 号墳周辺遺		

図 2-9　守山区の主な遺跡と城跡の位置図

① 牛牧遺跡

昭和 32 年 8 月末の集中豪雨による復旧工事中に牛牧地区（守山区牛牧中山）の県緑地公園内で縄文に遺跡が発見された。名古屋市指定史跡。

○　位置と地形

守山牛牧にあり名鉄瀬戸線小幡駅より北へ約 1km、県緑地公園グランドの南側に位置する。標高 20m前後の比較的平坦な地形面で、高位の大地縁に沿って棚状に細長く伸びている。この地は、東と南を高位の大地で遮られ、西北に拓けた地形であって、西に尾張平野を望み、豊富な湧水に恵まれていた。

○　第一次発掘調査（昭和 33 年度）

縄文晩期の前葉及び後葉の二段式の土器が認められ、住居跡も確認されて、牛牧遺跡の時期と内容が判明。遺物包含層は二重に区分され、上層から縄文晩期後葉の土器が出土し、下層から晩期前葉の土器が出現した。下層に住居跡床面と推定される生活面が現れた。

○　第二次発掘調査（昭和 34 年度）

住居跡及び遺跡の調査を目的とした。須恵器や土師器が出土し、柱穴も多く 26 個見つかった。

○　遺跡総括

牛牧遺跡は縄文晩期前葉から後葉に至る時期に営まれた複合遺跡である。晩期前葉の生活跡は平地式の円形住居跡が存在した。この住居跡は、床面に多くの炭化物が見られ、火災によって廃棄されたと思われる。

この住居群が廃棄された後に、集団墓地として使われている。これは土盛りを伴う埋

葬作業を簡易にするために廃棄された住居跡の周堤（土盛）が利用されたと思われる。

現状は、小幡緑地公園内の児童公園になっており、広場や雑木林になっている。遺跡であることを示すものは一枚の高札だけである。

② 天白・元屋敷遺跡

○ 位 置

昭和 49 年に設立された県立守山高校の東隣に位置する。遺跡範囲は、南北約 375m、東西約 175mのほぼ南北に延びる楕円形であり、約 60,000 ㎡の広大な面積を占めている。

遺跡範囲立地以南の地形は、標高約 43mの中位河岸段丘面を基礎とする丘陵が庄内川に沿って東西に延び、遺跡が立地する標高約 26～30mの旧河床面と崖状の段差を形成している。

また、遺跡が立地する低位面でも標高約 28mの等高線が示しているように南北約 300m、東西約 100mの微高地が舌状に南へ張り出しており、最南端の丘陵と連なる最低位面と約 0.8mの段を形成している。この微高地で最も高い箇所は 30.7mである。

○ 第一次発掘調査

昭和 59 年（1984）に実施され、弥生土器、土師器、須恵器が多く発掘され、中世土器（14～16 世紀）や近世陶器も発見された。また、火を使用した施設の痕跡と見られる直立した状態の角柱状の石が 2 点出土した。他にも古墳時代の土坑や中世末、近世の溝などが発見された。

○ 第二次発掘調査

昭和 60 年（1885）に実施され、須恵器、灰釉陶器などのほか、8～9 世紀後半の掘立柱建物などの遺構や井戸などが発掘された。

○ 第三次発掘調査

平成 7 年（1995）に遺跡の推定範囲の確認と性格を把握することを目的に実施された。須恵器や中世陶器のほか、石組みを持つ井戸やピット及び杭を発見した。

③ 小幡廃寺

○ 位置と地形

小幡廃寺は名鉄瀬戸線小幡駅から南南東へ約 350mの地点にある。小幡付近の地形は、北に標高約 80mの尾張丘陵があり、その南側に平坦な段丘が展開し、段丘の南には矢田川に沿った谷底平野がある。

調査地点は、丘陵の南に広がる標高約 30mの段丘の南縁にある。小幡駅付近の標高は約 32mであり、調査地点の北側は標高約 31mである。

○ 遺 物

1) 瓦

丸瓦と平瓦の 2 種類。

丸瓦：凸面は磨耗が著しい。凹面には布目痕が残っている。灰白色を呈し軟質である。胎土は緻密である。凸面は平滑でヘラ状器具で描かれた「石」の字がある。

平瓦：凸面には叩き縄目が、凹面には桶巻きの布目痕が残っている。側縁は凸面に対して鋭角に裁断している。青灰色を呈し硬く焼成されている。

2) 書かれている文字

ｲ) 丸瓦に書かれている文字：石、加、山、川、子、寺、泰、風

ﾛ) 平瓦に書かれている文字：子、加、寺、泰、三、水、木、入

ﾊ) 丸瓦だけに書かれている文字：石、山、川

※　平瓦だけに限られた文字は無い。

ﾆ) 丸瓦と平瓦の両方に書かれている文字：加、子、寺

文字の特色は、ヘラあるいはヘラ状器具を用いて書かれている。書かれている文字は一字だけである。加、石、山は郷名と思われる。加（加世郷；尾張旭市印場付近)。石（石作郷；長久手町石作)。山（瀬戸市山口町)。寺（寺院に直接関係するもの)。川（地名；川、川北町、川村町、川上町)。泰（泰江)。

3) 須恵器（奈良朝）

杯、蓋、高杯、長頸壺、甕、台脚、甑。

4) 鉄製品

鉄鏃（テツヤジリ）

○　大永寺との関係

小幡廃寺で出土した瓦の文字「泰」「泰之」の拓影図と江戸時代後期に瓦礫舎が刊行した「古瓦譜」の中に「尾陽春日井郡大永寺瓦ニ泰之銘アリ」として平瓦の凸面に書かれた文字の拓本を掲げ、また「尾張国小之庄、大永寺」として丸瓦と平瓦の拓本を載せている。両者を比較してみると、瓦の縄目調整や文字の筆勢あるいは運筆の状態から同一人物の手によるものと思われる。「大永寺」で採集した丸瓦や平瓦も花ノ木で採集したことが想定される。

現在の大永寺は、守山段丘の北側に広がる庄内川の氾濫原にあり、距離的に北西に 1.6ｋｍと離れている。大永寺に関する文献をみると、「張州府志」では「在ニ小幡村。号ニ寿昌山。曹洞宗。属ニ丹羽州村雲洞光寺。建久元庚戌年。本州菱野領主山田庄衛門尉重忠ニ此寺。」と建久元年（1190）に創建されたことを記している。また、「東春日井郡誌（大正 12 年)」では、15 世紀鉄船和尚は揖尾（ママ）の岡田家の記録を借りて、大永寺の伝記が書かれているとして見せられた文書を掲載している。それには、「山田庄小墾田吧後住ニ小幡ニ建久八年(1197)さえもん三月、菱野領主山田左衛門尉重忠主、山田太郎重満の 17 回忌追福の為に初めて小幡郷に一宇を建て寿昌院と号。天台宗也。永正十七年（1520）兵火に焼失、翌大永元年、山田氏末裔岡田重頼二たび小幡原に堂を建て改めて、寿昌院大永寺と名付け、九世の僧玄的和尚に至って、元和三年（1617）岡田重経主、今

の地に再三建立」とあって、小幡から現在地に移った経緯を述べている。現在発行されている「曹洞宗寿昌山大永寺」のしおりの社歴に記されている。

④ 白鳥遺跡

庄内川左岸の河岸段丘上に位置し、標高約 40m、縄文時代中期後葉の短期間の遺跡と言われている。

⑤ 樹木遺跡

庄内川の支流野添川に西面する標高約 40mの段丘面に位置する。旧石器時代あるいは縄文時代草創期の尖頭器が 1961 年に出土した。

⑥ 大塚遺跡

大塚古墳群周辺の標高約 50mの段丘面に遺物が散布する。旧石器から縄文時代の多量の石器が出土しているが、土器は無い。

⑦ 二ノ輪遺跡

樹木遺跡の南約 200m、野添川に西面する標高約 46mの段丘上に位置する。甕棺と考えられる条痕文深鉢が 1 固体のみ採用され、荒木集成館の所蔵となっている。

⑧ 川東山遺跡

龍泉寺丘陵の南西端近く、標高約 60mの頂部に石器や須恵器が散布する。縄文時代の石器が多く、土器は無い。

⑨ 東谷山西麓

多数の古墳が築かれている一帯から石器類が採集されたといわれている。

⑩ 深沢 1 号墳周辺

1985 年古墳調査の際に、封土中や周辺からチャート製の剥片が採集された。この付近で石器製作がなされた可能性もある。

⑪ 牛牧離レ松遺跡

1964 年、口頚部を欠く条痕文甕が 1 固体出土した。縄文時代末期の水神平式と報告されたが、現在では弥生時代の中期前葉に位置づけられている。従って、縄文時代遺跡とは認められなくなった。

２－８　城　跡（位置は図 2-9 参照）

（１）小幡城跡

大永 2 年（1522）岡田重篤が築城したといわれる、東西約 200m、南北約 70mであった。重篤は織田敏信、信安の臣であった。

天文 4 年（1535）家康の祖父清康が尾張に軍を進めたとき在城し、また織田信光の居城となったが、のち廃城となった。天正 12 年（1584）家康が修復し、長久手の役には三河との連絡の城として活用した。

現在は、駐車場になっており城の痕跡は見られないものの、ここからの見晴らしは城として適地であったことを伺わせる。名古屋市指定史跡。

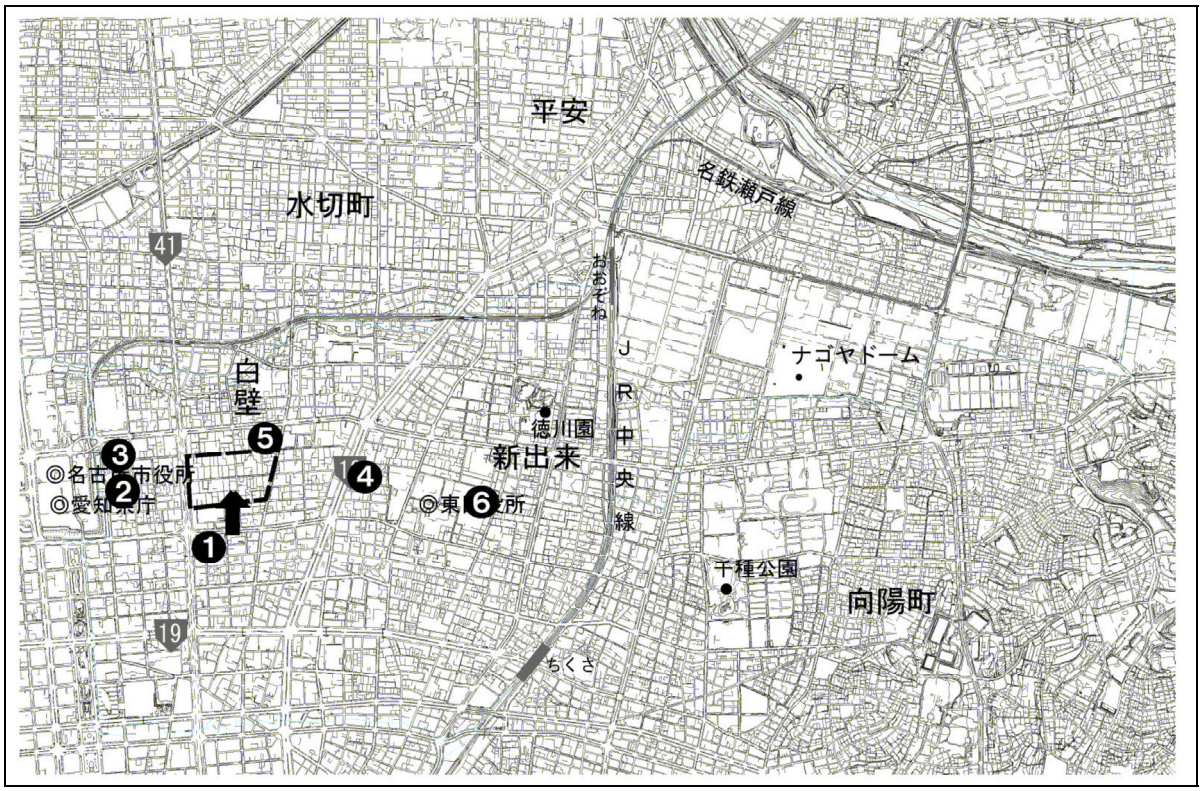
（２）守山城跡

平山城で林の中に大規模な東西方向の堀が見られる。築城年代、創建者ともに不詳。大永 6 年（1526）連歌師宗長がこの城を訪れ、連歌の会が盛大に催されたと伝えられる。

天文 4 年（1535）徳川家康の祖父松平清康が大軍を率いてこの地に布陣、尾張攻略を図ったが家臣に殺害された。その後、織田信長の叔父信次、弟の信時が城主となり、桶狭間の戦後、廃城となったとされる。現在は、小高い丘に雑木が繁っている。名古屋市指定史跡。

２－９　町並み・近代建築物

東区内には、白壁・主税・橦木・町並み保存地区に代表される歴史的な近代建築物が数多く立地しているが、本調査では、その代表的なものを調査整理した。



番号	名　称	番号	名　称
1	白壁･主税町･橦木町並み保存地区	4	名古屋陶磁器会館
2	愛知県議会議員会館	5	金城学院高校栄光館
3	市政資料館	6	東海学園講堂

図 2-10　町並み保存地区および近代建築物位置図

（１）町並み

○東区白壁・主税・橦木・町並み保存地区

この地区は名古屋城の東、尾張藩の中級武家屋敷地であった所であり、現在も往時の雰囲気を残す、都心の城下町である。明治・大正・昭和の優れた洋館・和風建築が門・塀・庭の立木と共にしっくりとした都市空間を形成している。

橦木倶楽部

二　葉　館

か　茂　免

豊田佐助邸

（２）近代建築物

① 愛知県議会議員会館

大正 9 年弁護士大多喜寅之助が住宅兼事務所として建設。南側の平屋建洋館は事務所にあて、中央には和室の玄関を置き、客座敷、奥座敷を配している。客座敷には二階を設け、数奇屋風に仕上げ、一部を茶席としている。昭和 27 年、県の所有となった。

② 市政資料館

旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判官庁舎で大正 11 年 9 月に完成し、昭和 54 年に名古屋高等・地方裁判所が移転するまで中部地方における司法の中心であった。ネオバロック様式の特色をよく示し、内部は概して簡素だが 2～3 階吹き抜けの階段室、会議室は華やかに仕上げられている。昭和 59 年国の重要文化財に指定された後、平成元年には名古屋市政資料館として整備・再生され、公開・利用されている。

③ 名古屋陶磁器会館

花形輸出産業であった陶磁器の貿易商工同業組合によって昭和 8 年に完成した。鉄筋コンクリート造二階建て（一部三階建）。一階事務室の半円窓、軒下のレリーフ装飾帯、外壁のスクラッチタイル等、豊かな外観はドイツ表現派の流れを汲んでいるとされる。

④ 金城学院高等学校栄光館

昭和 11 年、生徒全員が一緒に礼拝できる講堂として作られた。鉄筋コンクリート三階建で、一階は図書室、二階、三階の一部は講堂。三階には祈祷室を設けている。スパニッシュの意匠で清楚にまとめられている。

⑤ 東海学園講堂

昭和 6 年完成。入り口の大きな半円アーチは、当時のヨーロッパモダニズム様式。外観はパラペット（胸壁）にアクセントをつけるなど、華やかなデザインがなされている。名古屋市都市景観重要建築物。文化庁登録有形文化財。

２－１０　街道・坂道

（１）東区・守山区を通る街道

徳川家康は慶長 15 年（1610）に名古屋城築城にあたって最強の要塞とし、その街も軍事的配慮を重ねた。街道にもそれが見られる。

① 岡崎街道

慶長 17 年（1612）家康の命により岡崎までの近道を開かせた。伝馬町から東へ駿河町を経て東へ。古井村にかけては駿河道とも呼んだ。八事興正寺あたりは防戦をも考えていたという。赤池から道を左にとると猿投、足助を通り稲武に入り、信州に通じる。

② 瀬戸街道

大曽根から山田村地先で善光寺街道と分かれ、東へ瀬戸への道を瀬戸街道と呼ぶ。尾張徇行記では小幡村、大森村、印場村、新居村の項に信州飯田街道と記してある。瀬戸街道との俗称は瀬戸までのことを言ったと思われる。また、徇行記では、大幸村、矢田村では水野街道と呼んでいたとある。

③ 善光寺街道

萱津から津島への道を「上街道」としていたため、名古屋から木曽へ下る道は下街道と呼ばれるに至ったかと思われる。佐野屋の辻から北へ、大曽根から山田村へ、矢田川、庄内川を渡って勝川村へ入る。内津峠を越し、多治見を通り中山道大井の宿へ。

④ 木曽街道

名古屋から清水口へ出、安井、味鋺を経て小牧、楽田、羽黒、善師野を通り、中山道土田宿へ出る。楽田より左へ岐れ犬山までを稲置街道といった。また、徇行記では、小牧までを小牧街道と呼んでいる。尾張藩では江戸への参勤交代に多くは木曽街道を選んだ。東海道より日数は要するが木曽までは領地で気兼ねなく通れたからであろう。庶民はこの道を利用したがらず、近道の下街道・善光寺街道を選んだ。

街筋から街道へ出る所には警備のために同心屋敷を置いた。東は大曽根口と川名口方面、西は枇杷島口と稲生口方面、南は古渡口と堀口筋方面、北は清水口方面である。清水口西に柳原があり同心屋敷があった。建中寺の東には渡辺半蔵百人組、御持筒組が置かれ、今も百人町、黒門町の名が残っている。

（２）坂　道

名古屋城から東へ大曽根へかけては名古屋台地の北縁である。北への眺望が開けており、その坂を人々が愛した。

① 杕穀坂（ｷｺｸｻﾞｶ）

名古屋城の東大手門を出て三之丸の外堀に沿い、北へ 150mから下り坂となる。柳原街道の一部分である東側は成瀬家の中屋敷であった。坂の両側に「カラタチ」を植え防護柵としたのは藩祖義直の時と伝えられる。

② 清水坂

現、清水口から北区へ出る大きな下り坂に並行して西側にある坂である。長塀町通りから 120m北進したところから北進するうちに右に曲がり、降りきった道は直角に東へ曲がり、約 60mで左・北進となる。名古屋台地の北端の崖の道だから「く」の字形の珍しい坂となった。

③ 尼ヶ坂と坊ヶ坂

片山神社は蔵王権現とも言い、和銅 2 年（705）の創建であり、明治元年神仏分斉令で片山神社となった。西側と北側が崖になっており、西側が尼ヶ坂、北側の急な坂が坊ヶ坂である。地名の芳野町は寛文年間（1661～72）、尾張藩の重臣、竹腰家の家臣、古田弥四郎が境内に芳野の桜を植えたことに由る。

④ 大曽根坂

坂の上にある了義院は、三日月を眺める名所として名高い。「有りとある　たとへにも似す　三日の月」と芭蕉の句の三日月塚が残る。

２－１１　天王祭

（１）東区筒井町出来町の天王祭

東区には 5 台の山車があり、6 月第一土曜・日曜の天王祭りには引き回される。天王祭りは、夏の初め、疫病流行を払うお祭りで、初夏の風物詩として親しまれ、今年も盛大に行なわれた。

筒井学区に 2 台、明倫学区に 3 台あり、長い伝統を維持している。昭和 48 年に市の有形民俗文化財に王羲之車を除き指定されている。王羲之車は、戦後造られたものだが、中で演奏される囃子は天保年間（1830～44）から伝えられ、市の無形文化財に昭和 49 年に指定されている。

① 筒井学区

○神皇車

神功皇后が三韓の戦に行かれる時、海上に龍神が現れ、金玉を投げ、波が静まったという故事から作られたもの。

○湯取車

幣を持った神職を上段に配し、前に忌竹（ｲﾐﾀｹ）を立て、注連（ｼﾒ）を張り、湯立釜を置いて、巫女が笹葉で湯立てをする。

② 明倫学区

○鹿子神車（ｶｼｶｼﾞﾝｼｬ）

小唐子が逆立ちして小太鼓を打ち鳴らし、その面白さに梅唐子が手太鼓を乱打しながら飛び走り、二人の出来を見て大将が軍配を振る演技をする。

○河水車（ｶｽｲｼｬ）

大将、獅子役の唐子、中人形の唐子の唐子、3 体が踊り走る、動きの激しいからくりである。

○王羲之車（ｵｳｷﾞｼｼｬ）

山車は戦災に遭ったが町内の熱意により再建された。人形囃子他、4 つが保存されている。小さな子供達も熱心に練習しており、確実に後世へ引き継がれるであろう。

尚、明倫小学校の正面玄関横の大壁には、三車が各町民に曳き出される様子を表した大壁画がある。学校教育に地域伝統が生かされている感がする。

（２）守山区大森の天王祭

守山区大森の八劔神社の中の天王社の祭りで 8 月第一日曜日に行われる。烏帽子を頭に扇と鈴を持つ采採り人形が前山に乗る。夜は白張り提灯を多くともし、神楽囃子と共に曳き出される。

（３）「秋葉さま」巡行

「秋葉さま」は、約 150 年前から庄内川両岸の 50 地区以上で守られてきた伝統行事で、回ってきた「秋葉さま」に地域の人々が 1 年間の火の無事を願う。春日井市の秋葉山大龍院に安置されている火防（ひぶせ）の神様「秋葉さま」が、毎年約 2 ヶ月かけて永寿講に参加している名古屋、春日井市の約 50 地区を回る。「秋葉さま」は、次に受け渡すまで地区の神社や寺などで守りをするのが決まり。これに合わせ、地域住民が参拝に訪れる。守山区中志段味では、平成 19 年 2 月 28 日に迎え入れた。

２－１２　伝統校

（１）東区を発祥の地とする背景

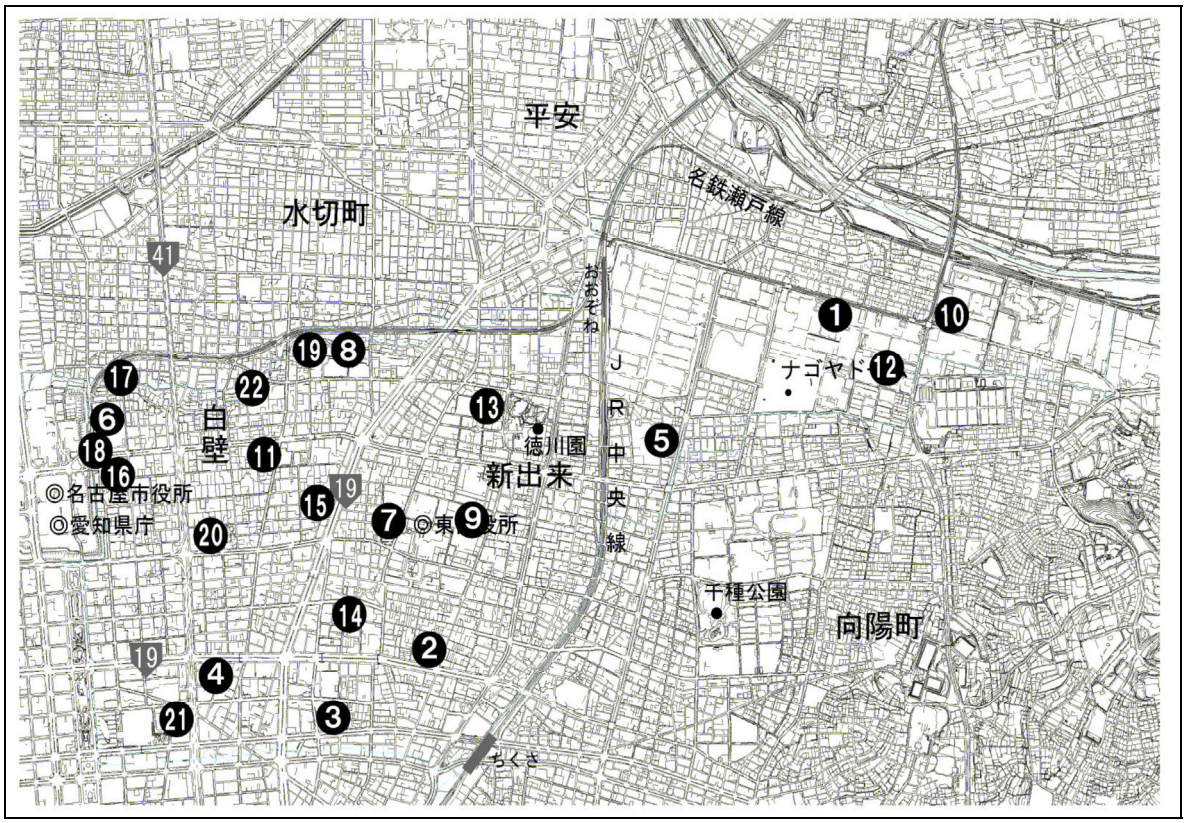
東区は城下町名古屋のお膝元として江戸時代には多くの武士階級が暮らしたため武家屋敷も多く、また、神社仏閣も多く立地した。明治維新後の学校創設時にあっては、知識人である武士や僧侶が多く暮らし、また、広い敷地や学校として利用可能な建物がある武家屋敷、寺院などが多く立地した東区は学校適地が多い地区であったと考えられる。そのような背景から、東区では明治期に多くの学校が設立された。

しかし、名古屋市の発展と共に東区も都市化が進み、大正の終わりから昭和に入ると一部の学校はさらに広い土地を求めて郊外へ移転するところも出てきたが、校碑や遺構が創立時の場所に残されている学校もある。

学校は古い伝統を持ち、昔から多くの人々が学び、成長した場所である。人々は学校に対して、特別な思いや郷愁を感じる。

本調査では、東区と守山区を対象に、現在も同区に立地している学校および過去に同区に立地していた歴史を有する、高等学校以上の学校を対象に整理した。

（２）東区に立地する学校・碑



図中番号	名　　称	図中番号	名　　称
1	名古屋大学大幸キャンパス	12	至学館高校
2	愛知大学車道キャンパス	13	中京法律専門学校
3	名古屋文化短期大学	14	ファッション専門学校常盤女学院
4	南山大学サテライトｷｬﾝﾊﾟｽ	15	菊武ビジネス専門学校
5	旭丘高校	16	名古屋文化学園保育専門学校
6	明和高校	17	明倫堂碑
7	愛知商業高校	18	県立第一中学校跡碑
8	市立工芸高校	19	県師範学校跡碑
9	東海高校	20	市立第三高等女学校校訓碑･跡碑
10	名古屋高校	21	県立第一高等女学校跡碑
11	金城学院高校	22	金城学院中学(名古屋学院跡地)

図 2-11　東区内の学校・碑位置図

① 大　学

ｱ. 名古屋大学大幸キャンパス

・ 昭和 14 年（1939）東区西二葉町（現白壁二丁目）の元愛知県第一中学校跡に大学本部が移転。
・ 昭和 15 年（1940）西二葉町に理工学部開設。
・ 昭和 20 年（1945）空襲により西二葉町学舎が焼失し東山キャンパスへ移転。
・ 昭和 50 年（1975）東区大幸キャンパスが愛教大跡に開設。

ｲ. 愛知大学車道キャンパス

・ 昭和 25 年（1950）東区往還町（現筒井二丁目）に短期大学部第 2 部を設置。
・ 平成元年(1989)法学部 2 部を車道に設置。
・ 平成 16 年（2004）車道新キャンパス（東区筒井二丁目）開設に伴い法科大学院設置、法学部 3・4 年次生を移転。

ｳ. 名古屋文化短期大学

・ 昭和 8 年（1933）山田和服裁縫所として創設。
・ 昭和 25 年（1950）東区葵町（現在地葵一丁目）に山田家政短期大学が開設。
・ 平成 16 年（2004）名古屋文化短期大学に改称。

ｴ. 南山大学サテライトキャンパス

・ 昭和 7 年（1932）ドイツ人宣教師ヨゼフ・ライネルスが南山中学（旧制）を設立。
・ 昭和 24 年（1949）南山大学設立。
・ 平成 16 年（2004）社会人の教育･研究のため東区東桜 2 丁目にサテライトキャンパスを開設。

② 高　校

ｱ. 愛知県立旭丘高等学校

・ 明治 3 年（1870）尾張藩立洋学校として開校。
・ 明治 34 年（1901）愛知県立第一中学校となり、明治 41 年東区西二葉町（現明和高校）に移転。
・ 大正 13 年（1924）名古屋市立第三高等女学校が東区東片端町に創立。
・ 昭和 13 年（1938）第一中学校が陸軍墓地跡の現在地（東区出来町）へ移転。
・ 昭和 23 年（1948）第一中学校と第三高等女学校が統合し旭丘高校となる。

※ 愛知県立第一中学校跡碑
（白壁二丁目　明和高校前街園内）

・ 明和高校正門南側の街園内に設置された一中跡碑

※ 名古屋市立第三高等女学校校訓碑・跡碑

・ 旧市立第三高等女学校跡地の山吹公園には、空襲で焼失した校舎の記念碑と勤労動員中に被災した女子生徒の慰霊碑が建てられている。

ｲ. 愛知県立明和高等学校

・ 明治 32 年（1899）尾張藩校明倫堂の後身として東区東白壁町（現愛知商業高校）に明倫中学が創立。
・ 明治 36 年（1903）南武平町（現東桜一丁目）に愛知県立高等女学校が創立。
・ 大正 4 年（1915）愛知県立高等女学校が愛知県立第一高等女学校と改称。

・ 昭和 23 年（1948）明倫中学と第一高等女学校が統合され明和高校となり東区二葉町（現白壁二丁目）に移転。
・ 「明和」は、明倫堂の「明」と県一高女「和楽会」の「和」から命名された。

※ 明倫堂碑

・ 明和高校の前庭に、明倫堂の由来を記した石碑と、明和高校、明倫中学、県第一高女の校歌を記した碑が建てられている。

※ 愛知県立第一高等女学校跡碑

・ 栄公園のケヤキ並木内に県立第一高等女学校跡の石碑が建てられている。

ｳ. 愛知県立愛知商業高等学校

・ 大正 8 年（1919）愛知県立商業学校として創立。
・ 昭和 27 年（1952）東区徳川一丁目（旧明倫中学校跡地）の現在地に移転。

※ 愛知県明倫中学碑

・ 愛商の南側に隣接するポケットパークの片隅に愛知県明倫中学跡の石碑が建立されている。

ｴ. 名古屋市立工芸高等学校

・ 大正 6 年（1917）名古屋市立工芸学校として東区布池町で創立。
・ 昭和 4 年（1929）南区熱田西町に移転。
・ 昭和 26 年（1951）名古屋市立工芸高等学校として発足し、東区芳野町の旧師範学校跡（現在地）へ移転。

ｵ. 東海高等学校・中学校

・ 明治 21 年（1888）浄土宗学愛知支校として西蓮寺（東区東桜２）内に創立。
・ 明治 32 年（1898）現在地（東区筒井一丁目）に移転。
・ 明治 42 年（1908）東海中学校となる。
・ 昭和 23 年（1948）新制東海高校発足。
・ 講堂は昭和 6 年（1931）に建てられたもので当時の様子を色濃く残しており、文化庁登録有形文化財に指定されている。

ｶ. 名古屋高等学校・中学校

・ 明治 20 年（1887）東区武平町にフレデリック・クライン博士によってキリスト教主義の英語学校として設立された。
・ 明治 31 年（1898）東区長久寺町（現金城学院中学校）に移転。
・ 明治 39 年（1906）私立名古屋中学校と改称。

・ 昭和 27 年（1952）東区砂田橋（現在地）へ移転開始、昭和 30 年(1955)移転完了。
・ 昭和 39 年（1964）名古屋学院大学が大幸町に開学し、昭和 43 年（1968）瀬戸キャンパスに移転するまで同地にあった。

ｷ. 金城学院高等学校・中学校

・ 明治 22 年（1889）東区下堅（しもたて）杉町にアメリカの宣教師ランドルフ女史が設立した英語塾を始まりとする金城女学校が創立。
・ 明治 33 年（1900）東区白壁四丁目（現在地）に移転。
・ 昭和 30 年（1955）東区白壁三丁目（現中学校校地）の名古屋学院敷地、校舎を買収。

金城学院高校

旧名古屋学院学舎跡に建つ金城学院中学

ｸ. 至学館高校

・ 明治 38 年（1905）内木玉枝によって中京裁縫女学校として東区高丘町に設立。
・ 大正 10 年（1921）中京高等女学校を東区東新町に併設。
・ 昭和 23 年（1948）中京女子高等学校を開設。
・ 昭和 53 年（1978）中京女子大学附属高等学校と改称。
・ 平成 17 年（2005）中京女子大学附属高等学校を至学館高校に改称。

③ 専門学校（50 年以上の歴史を有するもの）

ｱ. 中京法律専門学校

- 明治 41 年（1908）弁護士の宮村隆治と大住増蔵が当時の名古屋控訴院長藤田隆三郎、同検事長手塚太郎に協力を求め、中京で初めての夜間法律学校、中京法律学校を設立。
- 大正 14 年（1925）松山町の育英学校の教室の一部を借りたのが、東区移転の始まり。
- 昭和 25 年（1950）元桜菊女子学園の焼跡であった現地（東区徳川町）に新校舎を建設。

ｲ. ファッション専門学校常盤女学院

- 明治 40 年（1907）松坂屋のオーナー伊藤次郎左衛門によって設立。
- 昭和 21 年（1946）現在地（東区代官町）に移転。

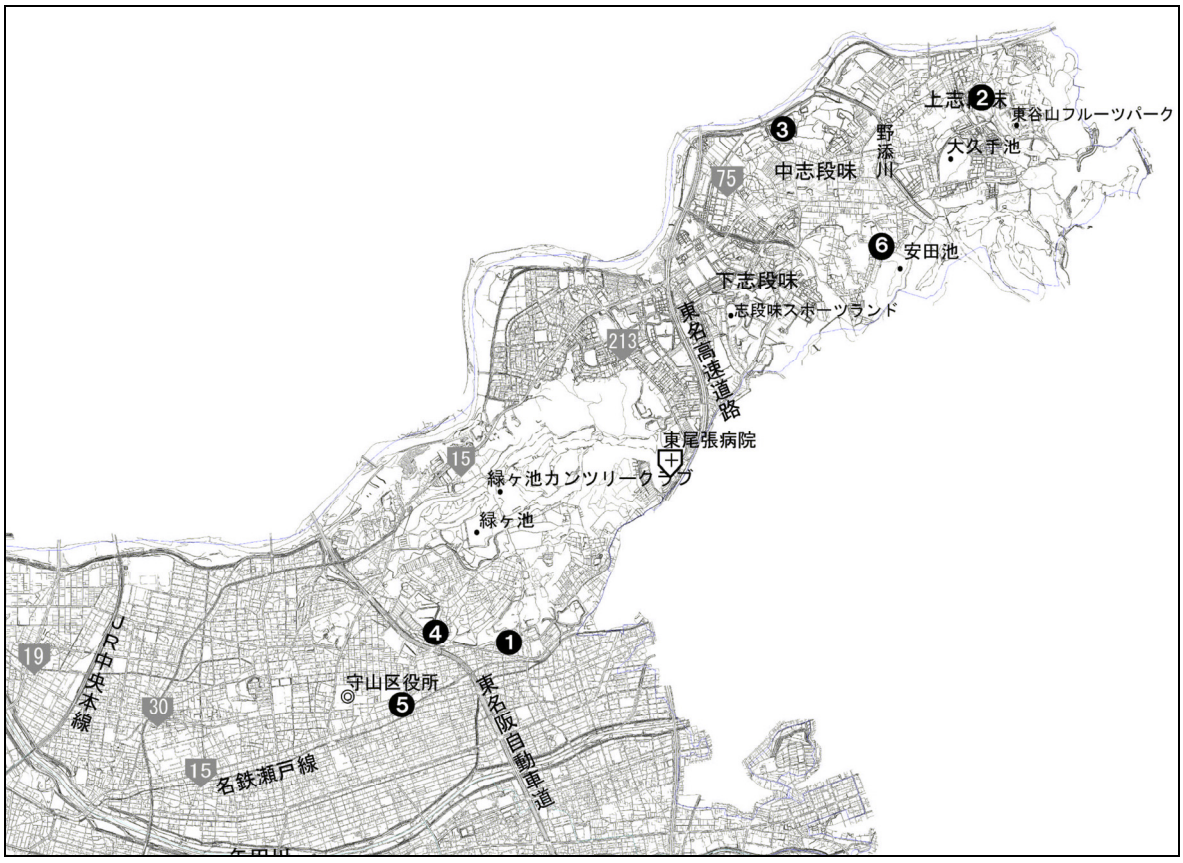
ｳ. 菊武ビジネス専門学校

- 昭和 23 年（1948）高木武彦により東区に菊武タイピスト養成所創立。武彦が母「菊子」の遺志に基づいて設立したことから菊子の「菊」と武彦の「武」を合わせて「菊武」と命名された。
- 昭和 28 年（1953）学校法人菊武タイピスト学校認可
- 平成 10 年（1998）菊武ビジネス専門学校に校名改称

ｴ. 名古屋文化学園保育専門学校

- 昭和 20（1945）年名古屋文化クラブとして発足。
- 昭和 29 年（1954）文部大臣から幼稚園教員養成機関の指定を受けて、名古屋文化学園を名古屋文化学園幼稚園教員養成所と改称
- 昭和 51 年（1976）名古屋文化学園保育専門学校と改称

（３）守山区に立地する学校



図中番号	名　　称	図中番号	名　　称
1	金城学院大学	4	緑丘商業高校
2	愛知県立看護大学	5	菊華高校
3	守山高校	6	名古屋国際学園

図 2-12　守山区内の学校位置図

① 大　学

ｱ. 金城学院大学

・ 明治 22 年（1889）米国南長老会アニー・ランドルフ宣教師がロバート・E・マカルビン博士と協力して、名古屋市東下堅杉町に私立金城女学校を設立。
・ 昭和 21 年（1946）大学設立準備委員会を組織。
・ 昭和 24 年（1949）守山区大森に金城学院大学開学。

ｲ. 愛知県立看護大学

・ 平成元年（1989）県下 27 看護婦養成機関の長より出された大学設置の請願が県議会で採択。
・ 平成 7 年（1995）守山区大字上志段味に開学。

② 高　校

ｱ. 愛知県立守山高等学校

・昭和 49 年（1974）守山区大字中志段味に開校。

ｲ. 愛知県立緑丘商業高等学校

- 昭和 35 年（1960）守山市立東中学校の仮校舎で開校。
- 昭和 36 年（1961）守山区緑ヶ丘の新校舎に移転。

ｳ. 菊華高等学校

- 昭和 23 年（1948）高木武彦により東区に菊武タイピスト養成所創立。
- 昭和 37 年（1962）菊武学園の守山女子商業高等学校を守山区小幡に設立。
- 平成 4 年（1992）菊華高等学校に改称。

ｴ. 名古屋国際学園

- 昭和 39 年（1964）守山区大字中志段味に私立学校として設立。米国のカリキュラムに基づいた教育が行われている。

（４）過去に東区・守山区に立地した学校

① 大　学

ｱ. 愛知教育大学

- 明治 6 年（1873）学制に伴い愛知県の小学校教員養成の目的で愛知県養成学校が名古屋区久屋町一丁目に創立。
- 明治 9 年（1876）愛知県師範学校に改称。
- 明治 32 年（1899）3 月愛知県第一師範学校と改称。
- 明治 32 年（1899）12 月東区東芳野町（現市工芸校）へ移転。
- 昭和 26 年（1951）愛知学芸大学が大幸町に移転するまで東芳野町に立地した。
- 昭和 45 年（1970）刈谷市の現在地に全面移転。

※ 市工芸校の敷地内に建てられた師範学校沿革の碑と、今も市工芸校の塀として利用されている師範学校時代のレンガ塀。

ｲ. 名古屋女子大学

- 大正 4 年（1915）越原和、越原春子によって東区布池に名古屋女学校が開校。
- 大正 10 年（1921）名古屋高等女学校に改称。
- 昭和 10 年（1935）瑞穂区汐路町へ移転。その後、名古屋女子大学へと発展した。

ｳ. 愛知学院大学・愛知高等学校（愛知中学校）

- 明治 9 年（1876）中区大須二町目（門前町）大光院内に曹洞宗専門支校が県下宗門子弟のための学校として設立。
- 明治 28 年（1895）曹洞宗小学林として東区布池町に移転。
- 大正 10 年（1921）千種区楠元町に移転
- 大正 14 年（1925）愛知中学校に改称。
- 昭和 28 年（1953）愛知学院大学を設立。

② 高　校

ｱ. 名古屋市立商業高等学校

・ 明治 17 年（1884）愛知県名古屋商業学校として創立。
・ 明治 34 年（1901）名古屋市に移管されて布池町に移り名古屋商業学校となった。
・ やがて現在の向陽高校の地に移り、昭和 30 年（1955）自由が丘の現在地に移った。

ｲ. 名古屋市立菊里高等学校

・ 明治 29 年（1896）東区武平町に愛知県名古屋高等女学校として設立。
・ 明治 45 年（1912）名古屋市立第一高等女学校と改称。
・ 大正 8 年（1919）東区布池に名古屋市立第二商業学校が設立。
・ 昭和 4 年（1929）市立第二商業学校が西区児玉町へ移転。
・ 昭和 23 年（1948）市立第一高等女学校と市立第二商業学校が統合され市立菊里高校となった。

ｳ. 名古屋市立桜台高等学校

・ 大正 13 年（1924）名古屋市立第三商業学校が設立。
・ 昭和 2 年（1927）現在の市立桜台高校の場所（南区霞町）へ移転。
・ 昭和 23 年（1948）名古屋市立第四高等女学校と統合され市立桜台高校となった。

ｴ. 愛知県立愛知工業高等学校

・ 明治 34（1901）東区武平町に愛知県立工業学校が開校。
・ 明治 38（1905）愛知郡御器所村に新校舎が竣工移転。
・ 昭和 23（1948）北区福徳町の新校舎に移転し、愛知県工業学校は愛知県立愛知工業高等学校となる。

ｵ. 東邦高等学校

・ 大正 9 年（1920）育英商業学校が愛知一中校長だった日比野寛によって東区松山町に設立。
・ 大正 12 年（1923）下出民義によって東邦商業学校が東区東新町で開校。
・ 大正 13 年（1924）東邦商業が東区赤萩町へ移転。
・ 昭和 10 年（1935）育英商業学校が金城商業学校に改称。
・ 昭和 27 年（1952）金城商業学校が東邦商業学校に合併。
・ 昭和 46 年（1971）千種区猪高町（現：名東区平和が丘）の現在地へ全面移転。

ｶ. 愛知淑徳高等学校（愛知淑徳中学校）

・ 明治 38 年（1905）小林清作によって愛知淑徳女学校として中区西新町で創立。

・ 明治 39 年（1906）愛知淑徳高等女学校となり東新町に移転。当時、愛知県内の私立では初めての高等女学校であった。
・ 昭和 34 年（1959）千種区桜が丘の現在地に移転。

ｷ. 椙山女学園高等学校（椙山女学園中学校）
・ 明治 38 年（1905）椙山正弋によって東区富士塚町の士族屋敷で名古屋裁縫女学校として設立。
・ 大正 6 年（1917）椙山高等女学校開校。
・ 大正 13 年（1926）椙山第二高等女学校を千種区山添町（現千種区山添二丁目）に開校。
・ 昭和 22 年（1947）椙山女学園中学校を現在地に開校。
・ 昭和 23 年（1948）椙山女学園高等学校を現在地に開校。

ｸ. 名古屋経済大学市邨高等学校（名古屋経済大学市邨中学校）
・ 明治 40 年（1907）名古屋市立商業学校校長であった市邨芳樹によってわが国最初の女子商業として東区布池町に名古屋女子商業学校が設立。
・ 明治 41 年（1908）西新町に新校舎建設。
・ 第二次大戦後、千種区千種町へ移転。

２－１３　茶道文化

（１）名古屋茶道の歴史

名古屋で茶道が盛んになったのは 16 世紀の頃からであり、織田家を中心に茶の湯が行われ、清州城内に古田織部によって天下三名席の一つ「猿面茶室」が造られていたことはよく知られている。名古屋で本格的に茶道が発展し始めたのは、慶長年間の名古屋城築城の頃である。そして、それは「藩としての武家の茶」と「裕福な商人たちの町方の茶」の二つ大きな流れがあった。

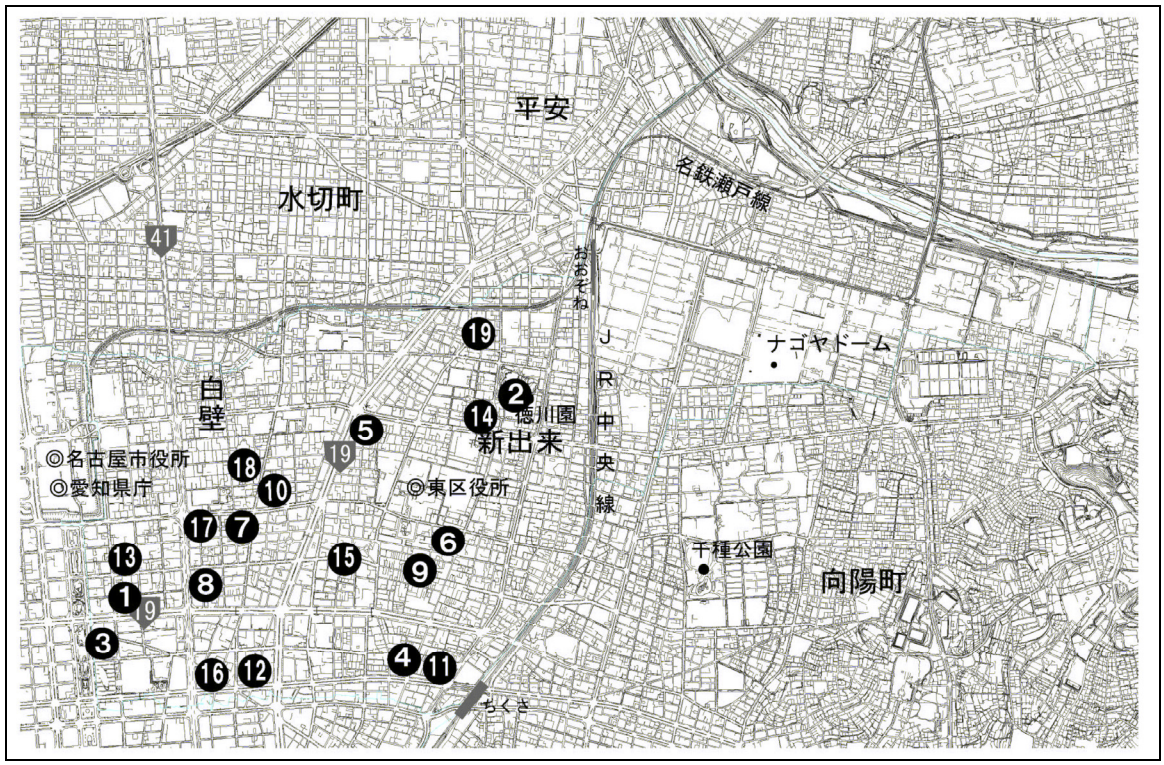
尾張藩の茶道は、基本的に織田信長の弟･有楽斎から始まった有楽流が主流であったが、江戸時代後期に徳川斉荘（なりたか）が尾張藩 12 代藩主に就いた時に転機を迎えた。斉荘は自ら知止斎と号し、藩政そっちのけで風流の道に打ち込み、茶の湯三昧に耽った。その結果、質素で田舎じみていた名古屋の茶風が、菓子から道具まで目に見えて華美になったと云われる。

一方、町方の茶道は、江戸時代中頃から多様な展開を見せた。名古屋の商家は、清州から名古屋の創設と共に移ってきた「清州越」と呼ばれる商家と、初代藩主義直に従って駿府から移ってきた「駿河越」と呼ばれる商家が名家として幅を利かせていた。町方の茶道は、それらに代表される有力な商人達によって発展していった。

町方の茶道の流儀は千家流が主であるが、表千家の出張教授として覚々斎の高弟・松

尾宗二楽只斎が派遣され、以後松尾家代々が名古屋に出張教授し、七代好古斎の代には名古屋に居を移して松尾流として発展した。

明治維新後、尾張藩の武家茶道はもちろんのこと、全国的に茶の湯が著しく衰微したが、名古屋だけは例外的に逆に藩の禁令が消えて茶道熱が高まった観さえあったと云われている。



図中番号	名　　称	図中番号	名　　称
1	楽只美術館	11	坂角総本舗葵店
2	徳川美術館（猿面茶室）、瑞龍亭	12	万年堂
3	三宜庵（森村記念館）	13	もち源
4	葵堂	14	芳光
5	吾妻堂	15	よしの屋菓子舗
6	いろは菓子舗	16	両口屋是清東新町店
7	川村本舗	17	ギャラリー花藤
8	粉厨	18	米万
9	松月	19	駒屋
10	納屋橋饅頭平田町店		

図 2-13 東区内の茶道関連施設位置図

図中番号	名　　称	図中番号	名　　称
20	唐九郎記念館	21	城土公園内白沢川の碑

図 2-14 守山区内の茶道関連施設位置図

（２）茶道関連の美術館

先に述べたように、明治以降名古屋では茶道が盛んになり抹茶を飲む習慣が市井にまで深く浸透した。さらに、西三河の西尾市が抹茶の一大産地となったことで、この習慣がより深まった。

今回、東区・守山区を調査した結果、特に東区は城下町名古屋の中心に近く、古くから発展した地域であるため、茶道と関連深い美術館などの施設が多数立地していることが分かった。

① 徳川美術館

尾張徳川家の歴代相伝の重宝、いわゆる「大名道具」を収め、昭和 10 年に開館した日本を代表する美術館の一つである。収蔵品は徳川家康の遺品を中心に、初代義直以下代々の遺愛品や、その家族が実際に使用した物ばかり 1 万数

千件におよぶ。

茶道関係においても、猿面茶室が美術館内に復元されるなど、貴重な道具類が収蔵されている。

② 楽只（らくし）美術館

楽只美術館は、松尾流の松陰会が財団法人として発足し、茶道に関わる芸術文化発展のために昭和 62 年に開設したもの。松尾流歴代の作品や好みの茶道具を主として収蔵している。

③ 唐九郎記念館

88 年の生涯を作陶と陶芸史研究に打ち込んだ加藤唐九郎は、桃山時代の織部、志野、黄瀬戸の復元に成功した。唐九郎記念館には、唐九郎の作品と彼の収集した桃山陶片を展示してあり、唐九郎の最高傑作と言われる「氷柱」や「紫匂い」も所蔵している。

（３）公開茶室

① 猿面茶室

日本三名席の一つに数えられるが戦時中に焼失した。猿面茶室の名の由来は、床柱上方の手斧目の両脇に節が二つ出ており、それが猿の面のように見えたため信長が秀吉の顔そっくりだと言ったからと伝えられる。席自体も信長が清洲城にあった当時に古田織部を招いて建築したと伝えられている。その後、名古屋城二の丸御殿内に移築されたが、現在は、徳川美術館内に復元されている。

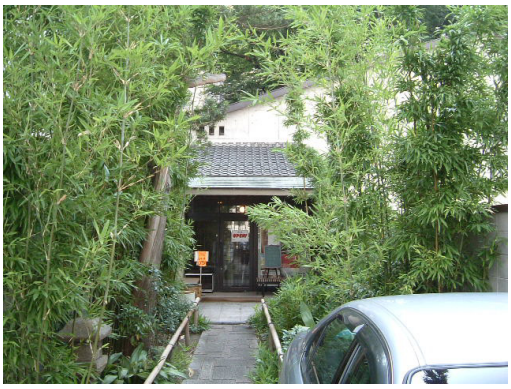
② 瑞龍亭

徳川園内にあり、徳川光友の諡號「瑞龍院」から名づけられた小さな茶室で、龍仙湖の彼方に西湖堤を眺望することができる。織田有楽斎を始祖とし、かつては尾張徳川家で重用された尾州有楽流に因み、有楽好みの様式を取り入れている。

③ 三宜庵

二畳台目に中板が大きく入った特異な造り。森村宜稲が知多の旧家から移築し、森

村記念館建設時に館内に復元されたもの。



（４）和菓子店

茶道が盛んな名古屋は、同時に古くから菓子どころとしても知られ、多くの和菓子店が営業している。平成 18 年 10 月 5 日の中日新聞によれば、愛知県は和生菓子の出荷額が北海道に次いで二位、店舗数は一位である。また、名古屋市も饅頭購入額で県庁所在地の一、二を争う。

江戸時代、名古屋の和菓子といえば「桔梗屋」と「両口屋」であった。しかし、桔梗屋は明治年間に休業したため、現在は両口屋が名古屋一の老舗和菓子店である。両口屋は寛永 11 年（1634）に大阪の道秀町から那古野本町に移り饅頭屋を開業した。その後、尾張藩二代藩主光友から「御菓子所両口屋是清」の表看板を拝領したのが現在の両口屋の始まりである。

名古屋市内の和菓子店は西区に多いが、東区、守山区でも多くの和菓子店が営業している。現在、東区には 13 軒、守山区には 12 軒の和菓子店が営業している。特に、東区は古くから町が形成されたこともあり、老舗と言われる和菓子店が多く立地している。

以下に、東区内に立地する主な和菓子店を整理した。

① 両口屋是清

寛永 11 年（1634 年）創業の名古屋を代表する名門老舗和菓子屋。茶会での使用率は他を圧して極めて高い。名古屋を中心に多店舗展開しており、茶会だけでなく一般にも多く消費されており大手和菓子メーカーとしても位置づけられる。

② 芳　光

名古屋では新参に位置づくが、茶道の世界では「芳光」の名前が広く浸透しており、両口屋にはかなわないまでも茶会で使用される頻度は他店に比べて非常に高い。裏千家系の店とも言われることがあるが、流派を超えて広く使用されている。一般消費者には「わらび餅」が有名。

③ 万年堂

昭和 24 年創業の干菓子で名高いお店。看板和菓子は「おちょぼ」。阿波の「和三盆」を主原料に精製した糖菓子。品格ある甘さは抹茶にも煎茶にも合うと言われている。

④ 川村屋本舗

江戸時代から続く老舗。伊勢いもと砂糖、米の粉を練って作った薯蕷饅頭や鬼まんじゅうが有名。明治時代からの資料や、お菓子を作るための型抜きなども残っている。

⑤ 松　月

筒井商店街にある庶民的なお店。初代から受け継がれた手作り団子の「あやめだんご」が有名。

⑥ 粉厨（こなくりや）

全国各地から無添加でカラダに良いものを厳選して販売している。店内の喫茶コーナーでは抹茶も味わえる。

⑦ 納屋橋饅頭平田町店

納屋橋饅頭は、糀［こうじ］を発酵させた皮でこしあんを包んだ庶民的な味のまんじゅう。今や名古屋名物として親しまれている。

⑧ 坂角総本舗葵店

坂角総本舗は、愛知県東海市に本社を構える明治 22 年創業の海老せんべいのメーカー。東京や大阪にも支社があり、従業員も 500 人を超える大企業である。

以下には、残り 5 軒の和菓子店の写真を掲載した。

⑨ 吾妻堂

⑩ いろは菓子舗

⑪　葵　堂

⑫　もち源

⑬　よしの屋菓子舗

（５）その他

東区内には、美術館や茶室、和菓子店のほかにも道具店など茶道に関係する店舗が立地している。

①　ギャラリー花藤

名古屋の釜師として最も代表的な家と言われる、加藤忠三朗家の一部をギャラリーとして開放しており、加藤忠三朗の作品を中心に展示している。初代加藤忠三朗は尾張の国東春日井郡守山村に生まれ、鋳物師を業としていたところ慶長 6 年に藩主に召されて清洲に移った。さらに、慶長 16 年清州越しに伴い、名古屋市東区鍋屋町に移住した。以後、尾張藩のお抱え鋳物師として水野太郎左衛門家と共に活躍し、現在 12 代に至っている。

② 美術商：米万

明治 16 年の創業で、大正～昭和の大入札でも度々札元を務めている老舗道具商。

③ 茶道具店：駒屋

徳川美術館北の、住宅地の中にある茶道具店。

④ 城土公園内白沢川の碑

城土公園内にある「白沢川の碑」には、白沢川の歴史と共に、江戸時代末期に藩主のお茶用の水として水源の泉の水が献上されていたことが記されている。現在の白沢川は、とても飲めるような水ではないが、市内には珍しい渓谷が市民の憩いの場となっている。

２－１４　ため池

（１）名古屋市内のため池の状況

① ため池の数の変遷と現況

名古屋市には、かつて 300 を超えるため池があった。それらのほとんどが、農業用水の供給を目的として造られたもので、地域的には河川からの農業用水が困難な東部丘陵地に偏在していた。農業用水供給のために活用されていた時代には、農業用水の慣行水利権が存在し、農民による維持管理も行き届いていたために、ため池の改廃は問題とならなかった。

しかし、昭和 40 年代の高度経済成長期以降、宅地開発により農地が消滅するに伴い、慣行水利権も消滅し、ため池も減少した。1965 年（昭和 40）の 360 箇所から、1991 年（平成 3）にはその 34%にあたる 121 箇所に減少した。国公有ため池の数は増加しているが、民有ため池は 278 箇所から、その 11%の 30 箇所へと減少した。

平成 10 年度末現在の 117 箇所のため池の所有者内訳は、国公有 91（国有 26、県有 6、市有 59）、民有 26 であり、国公有が全体の 78%、民有が 22%となっている。

また表から、名古屋市内のため池の数は緑区が多く、面積・比率は守山区が多い。緑区と守山区とで市内の約 70%の面積を占めている。

表 2-2　名古屋市内のため池（平成 11 年 3 月末）

区名	池数	面積（㎡）	比率（%）	1 池当りの面積（㎡）
千種	6	383,961	10.63	63,994
北	2	9,983	0.28	4,992
昭和	1	15,298	0.42	15.298
瑞穂	1	18,145	0.50	18,145
守山	26	1,836,765	50.86	70,644
緑	54	710,451	19.67	13,157
名東	15	398,058	11.02	26,537
天白	9	239,254	6.62	26,584
合　計	114	3,611,915	100.0	31,683

出典：市内河川･ため池等の水質の変遷（名古屋市環境科学研究所：平成 12 年 3 月）

② ため池保全要綱の制定

ｱ.「名古屋市ため池環境保全協議会」昭和 49 年 3 月

名古屋市は、ため池の埋め立てを伴う開発行為等の申請があったときは協議会に諮問することとし、申請者を指導してため池を保全するよう努力してきた。

法的な基盤を持たない協議会は、埋め立てに対する完全な抑止力とはなりえず、埋め立てによるため池の減少を抑止することはできなかった。

ｲ.「ため池保全要綱」平成 4 年 4 月 1 日

近年の自然環境保全への行政ニーズの高まりに対応し、治水機能、かんがい機能、環境や景観保全の要請を満たすため池の保全を図るため「ため池保全要綱」が施行された。

ため池に係る水面の埋め立て等の行為に名古屋市が同意できない場合は、同市が土地所有権を買い取ったり、管理に要する費用を補助して、ため池を保全できるようにした。民有ため池を市が買い取り、自然環境の保全を図った整備を進めている。

表 2-3　名古屋市が買い取ったため池（守山区）

平成元年	蛭池	平成 7 年	安田池
平成 3 年	アマ池・大池	平成 10 年	二ツ池

出典：市内河川･ため池等の水質の変遷（名古屋市環境科学研究所：平成 12 年 3 月）

（２）守山区内の主なため池

現在、守山区内にある主な 26 箇所のため池を表に整理した。

表 2-4　守山区内の主なため池

番号	名称	所在地	所有者	面積(㎡)	流域名	流域面積(ha)
1	見返ヶ池	牛牧字ハナレ松 1640-1	市･民	28,552	白沢川	181.64
2	緑ヶ池	牛牧字長根 1641-1	民	89,448	白沢川	114.3
3	竜巻池	牛牧字長根 1641-2	国･市	17,560	白沢川	5
4	二ツ池	小幡字北山 2755-1	市･民	19,834	白沢川	27.97
5	新池	大森字八竜 2366	国	3,966	隅除川	14.8
6	雨池	大森字壇ノ浦 2364-5	市	7,873	隅除川	174.62
7	蛭池	大森字御膳洞 2368-1	市	12,918	隅除川	37.03
8	大池	吉根字松洞 3254-156	市	5,181	白沢川	14.55
9	アマ池	吉根字松洞 3185	市	3,932	白沢川	15.3
10	平池	吉根字深沢 219	国	16,116	庄内川	54.6
11	白ノ後池	吉根字太鼓ヶ根 3240	国	2,975	庄内川	26
12	東禅寺上池	吉根字太鼓ヶ根 3233	国･民	6,942	庄内川	11.85
13	東禅寺中池	吉根字太鼓ヶ根 8	国･市	3,471	庄内川	14.69
14	風越池	下志段味字長廻間 2276-4	市	16,694	長戸川	11.7
15	風越上池	下志段味字長廻間 2279	市	5,393	長戸川	5.21
16	滝ノ水池	下志段味字穴ヶ洞 2266-1	県	100,680	長戸川	不明
17	安田池	中志段味字南原 2679-1	民	62,068	野添川	29.5

18	大久手池	上志段味字東谷 2075	市	70,466	野添川	16.2
19	カケヒ池	上志段味字東谷 2081-12	県・市・民	650,052	野添川	424.5
20	大村池	上志段味字東谷 2084	市	11,371	野添川	166.5
21	蛭池	上志段味字東谷 2081-1	県・市	631,594	野添川	180.49
22	石ひろい池	上志段味字東谷 2094	市	8,228	大矢川	71.5
23	神池	上志段味字東谷 2095	市	8,856	大矢川	65.8
24	東谷池	上志段味字東谷 2109-19	県	27,760	庄内川	11.8
25	新池	上志段味字寺山 1204	市	16,902	庄内川	11.92
26	馬船池	上志段味字寺山 1213	市	7933	大矢川	1.5

出典：市内河川・ため池等の水質の変遷（名古屋市環境科学研究所：平成 12 年 3 月）

また、名古屋市ため池環境保全協議会によって「利水」「治水」「環境」が評価されており、特に環境面において「自然環境が極めて良く最も保全したいため池」として「A」評価を得ているため池を表に整理した。

表 2-5　守山区内の自然環境が極めて良いため池

図中番号	名称	面積	池容積	流域面積	平均水深	所有者	評価		
		(㎡)	(㎥)	(ha)	(m)		利水	治水	環境
1	見返ヶ池	28,554	35,000	181.6	3.5	国・民	B	A	A
2	緑ヶ池	89,448	－	114.3	－	民	B	A	A
3	雨池	18,378	67,650	174.6	1.7	市	C	A	A
4	安田池	58,000	135,000	29.5	2.3	市	A	A	A
5	大村池	52,374	180,000	166.5	3.5	市	A	A	A
6	神池	8,856	30,000	64.9	2.5	市	A	A	A
7	石ひろい池	8,228	－	64.9	－	市	A	A	A
8	風越池	26,457	50,000	11.8	1.9	市	B	A	A
9	東禅寺上池	6,942	23,000	13.6	1.9	国	A	A	A
10	平池	16,116	19,000	8.2	1.1	国	C	A	A
11	竜巻池	14,971	13,000	5	3.3	市	C	A	A
12	大久手池	70,466	110,000	16.2	1.7	市	A	A	A

評価は名古屋市ため池環境保全協議会による

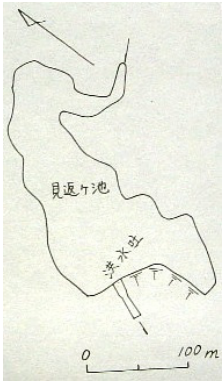
表 2-6　ため池の評価基準

利水	A	灌漑用に利用されている池
	B	灌漑用に利用されているが受益農地の減少により現在の規模を要しない
	C	灌漑用としては不要なため池
治水	A	治水施設として将来も必要なため池
	B	下流河川、水路等が改修されるまでの間暫定的に治水施設として利用する。
	C	治水上は不要なため池
環境	A	自然環境が極めて良く最も保全したいため池
	B	A以外のため池で保全利用したいため池
	C	環境上は不要なため池

図 2-15　「表 2-5 自然環境が極めて良いため池」に整理したため池の位置図

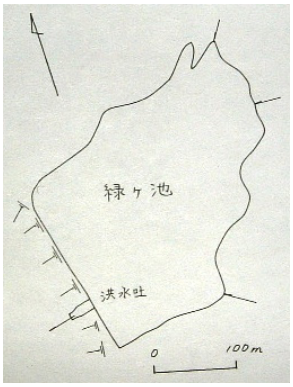
① 見返ヶ池

小幡緑地公園正面入り口である北口の南側に位置する池であり、緑ヶ池や竜巻池の西に位置する。池敷地面積は緑ヶ池より小さいものの、集水域の面積は大きく 181ha に及ぶ。池の西方が道路に面しているが、東方は小幡緑地の樹林に囲まれている。池の北東側は緩やかな傾斜の自然法面で南西側の堤防はブロック張りの護岸である。公園の駐車場に近いためか、小幡緑地の中では釣り人が一番多く見られた。



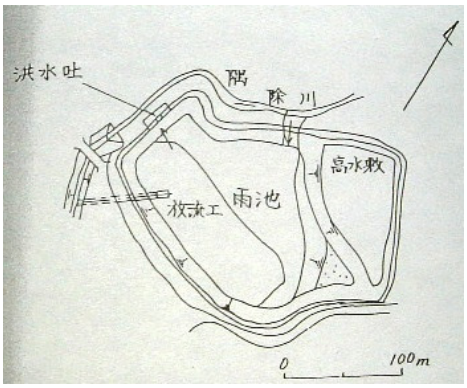
② 緑ヶ池

小幡緑地公園内にある最大の池であり、周辺は広い緑に恵まれ景観も良い。池の西側の護岸工事が 1993～98 年にかけて行われたが、それ以外は自然の形態が残る池であり、堤防下の湿地にはサギソウ、ミミカキグサなどの植物が自生している。池は公園と一体となって釣り池としても利用されるなど、市民の憩いの場として広く親しまれている。池の水源は、広い集水域（114ha）から集まる雨水と湧水であり、流出水は公園内の見返ヶ池を経て白沢川から庄内川へ流入している。



③ 雨　池

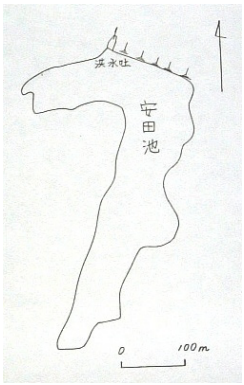
大森の雨池公園にあり、風致地区に指定されている。池の北側には雑木林が残っているものの、近年の市街化による汚濁水の流入と護岸改修により、池は大きく変化した。雨池は広い流域（174ha）を持つことから、1983～85 年度に大規模な雨水貯留池の工事が行われ、護岸は 3 面が深いコンクリートで整備された。南側が階段状の護岸になり、釣り人の多い池となっている。水深は約 10mで、池には広いヨシ帯ができ、ヒシが繁茂している。流入水は広い集水域からの雨水と生活排水であり、流出水は隅除川を経て、矢田川へ流入している。



④ 安田池

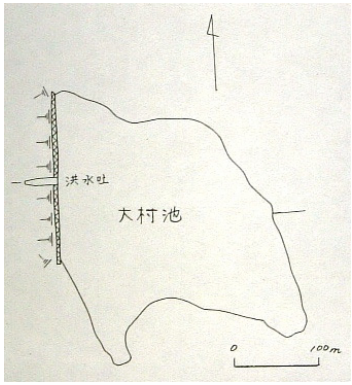
中志段味にある現役の農業用ため池である。森林公園に隣接し、周辺は雑木林に囲まれている。池の北側が一部コンクリート護岸になっているものの、自然の形態を残し、良好な環境を保っている。特に、池の南側のヨシ帯には湧水があり、様々な湿性植物などが生息する場所になっている。流出水は野添川を経て、庄内川へ放流されている。

しかし、良好な環境を保っている一方で池への親水性が乏しくアクセスも悪いため、現状のままでは市民による活用は難しい。



⑤　大村池

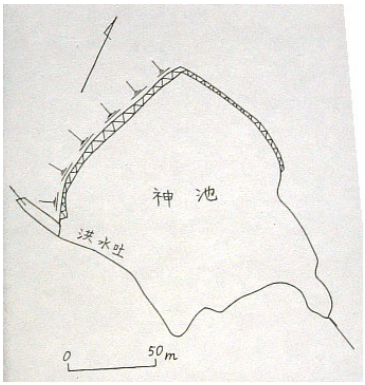
森林公園内の北部にあり、今も農業用ため池として利用されている。池の西部はコンクリート護岸で整備され、南部には森林公園のゴルフ場が隣接している。ゴルフ場からの流入水と池東部からの小さな流れが流入しており、流出水は直下の蛭池から野添川を経て庄内川へ流入している。緑の濃い大きな池で、釣り人で賑わっている。



⑥　神　池

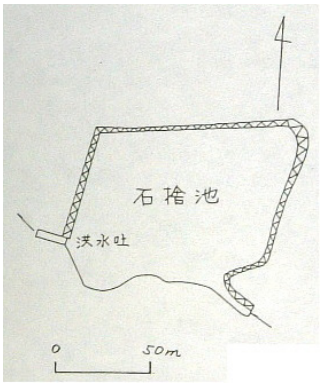
東谷山フルーツパーク内にあり、石ひろい池と同じように魚釣り池として親しまれている。周囲は釣り場となる北部と西部がコンクリートの階段護岸になっている。南部と東部は自然の状態になっており、東部にはヨシなどの群生が見られる。また、中央には噴水が整備され景観ポイントにもなっている。

流入水は、流域の降雨と池の東南部からの湧水と愛知用水であり、流出水は直下の石ひろい池へ流れ、その後大矢川へ流入している。



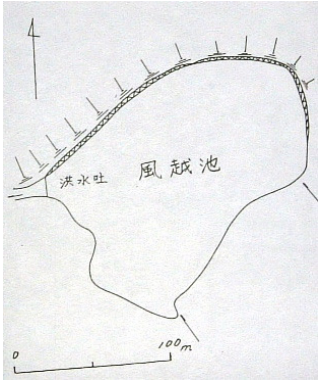
⑦　石ひろい池

東谷山フルーツパーク内にある石ひろい池は、魚釣り池として多くの市民に親しまれており、有料で釣竿を借りることもできる。池の周囲は、釣りがしやすいように南部を除きコンクリート護岸で整備されている。南側は雑木林が広がる野鳥保護区域であり、隣接する神池とともに上志段味水辺レクコースの一翼を担うなど、周辺は緑で覆われている。流入水は神池からの流入水とフルーツパークからの排水が主である。石ひろい池は、大矢川の源頭水源で、流出水は大矢川を経て庄内川へ流入している。



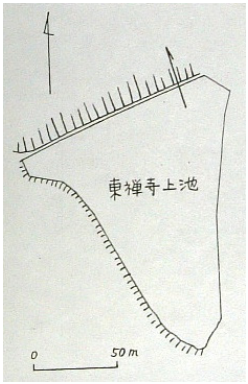
⑧　風越池

下志段味の名古屋市消防学校の北側に位置している。消防学校付近は雑木林になっているが、周辺の田畑では宅地化が進んでいる。当池は、1985 年 3 月に北側をコンクリートの階段護岸にし、釣り池として整備された。同じ時期に流入していた雑排水の流入を防ぐための流路変更工事（ダイパージョン）を行い水質の保全を図った。吉根、下志段味レクコースの一環として整備された水辺であり周囲に緑も多く、沢山の釣り人に親しまれている池である。池の南側から、わずかに流入水があり、流出水は長戸川を経て庄内川へ流入している。



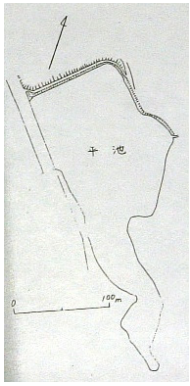
⑨　東禅寺上池

下志段味の志段味スポーツランドの西側に隣接する池。池の東側には樹林帯があり、南側には廃棄物処分場があり、北側の堤防はブロック張りになっているため、容易に池端に近づくことはできないが、浮草が繁茂するなど良い雰囲気の池である。隣接して土地区画整理事業によって整備された住宅地があり、それに対応した水質保全の施策が求められている。流出水は、直下の東禅寺中池を経て庄内川へ流入している。



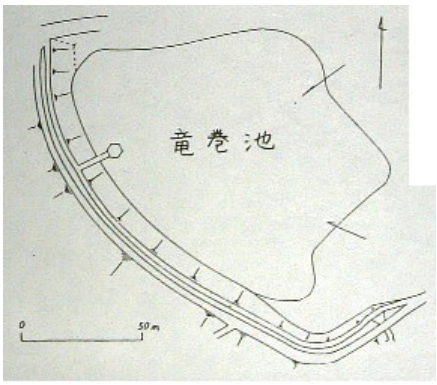
⑩　平池

吉根字深沢に位置する池であり、池の西・東側には樹林帯がある。1990年代後半に始まった土地区画整理事業に伴う改修が行われた池の護岸は、北側がブロック張り、西側が石張り護岸、その他は自然法面である。池の東側の樹林帯に繋がる岸辺から水辺にかけて水生植物のヨシ帯があり、色々な水生昆虫が多く生息しており、水鳥も多く見られ野鳥の観察も容易である。流出水は、深沢池を経て庄内川に流入している。



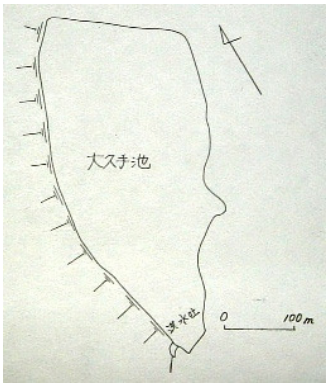
⑪　竜巻池

小幡緑地内の緑ヶ池の西に位置するため池で、周辺は樹林に囲まれている。平成 4～5 年度の公園整備に伴って散策路や植栽、休養施設、水際の点景などが整備された景観の良い池であり、釣りも可能である。流入水は雨水と湧水で、流出水は見返ヶ池を経て白沢川に流入している。



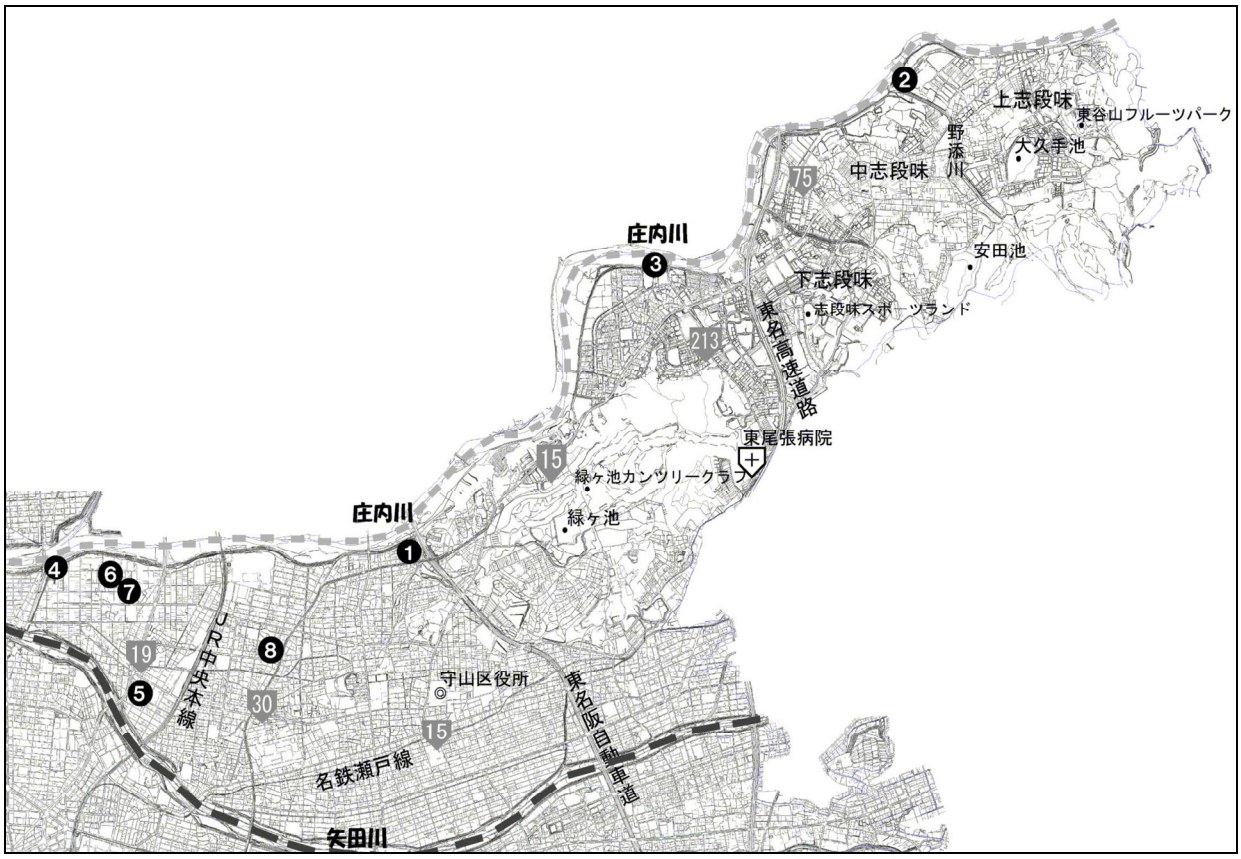
⑫　大久手池

上志段味にある池で西側には田畑が広がり、今も農業用ため池として利用されている。池の周囲は、西側がコンクリート護岸になっているが、その他は自然の形態を残している。池の東部には雑木林が広がっており、冬季には種々の野鳥が見られる。流入水は雨水と上流からの農業用水がほとんどであり、流出水は野添川を経て庄内川へ流入している。



２－１５　河　川

河川は、代表的な河川として守山区の北側を流れる庄内川と守山区と東区の境界を流れる矢田川を取り上げた。なお、現地で確認できない歴史上の事象については、地図に示していない。



番号	名　称	番号	名　称
1	川村御用水	5	間黒神社
2	霞提	6	水屋（瀬古東）
3	吉根神明用水	7	水屋（瀬古東）
4	庄内用水元杁樋門	8	水屋（大永寺町）

図 2-16　庄内川および矢田川の関連施設

（１）庄内川

① 庄内川の概要

岐阜県恵那市の山地を源として、瑞浪、土岐、多治見の支流を集め、土岐川となり、愛知県に入って庄内川と名前を変える。昔の川名は、沿岸の地名をとって称し、定光寺

の下流は玉野川と呼んだ。また、尾張志は次のように解説している。「玉野村の東にあり、水源は美濃の多治見川にて土岐郡十三嶺の谷々、又、日吉川などひとりになってここに至り。又、東の方より水野川来たりてここに落ち合う。当国山（東谷山のこと）の西の麓、上志段味の境より北東にさかのぼり、半里ばかりほど、両岸、又、川中に大石並び立ち、川幅も広くなり、狭く也、屈曲岩に遮られて白雲を乱すが如く湧き返り、老松快木枝われて、其風景たとうべきものなし。」そのすぐ下流は勝川と名を変え、「龍泉寺山の裾のあたり景色よく水いさぎよし」としている。

主流の延長は 86ｋｍ、流域面積約 600ｋ㎡である。上流地域では、古くから窯業が盛んであったために、陶土の採掘や燃料とする木材の濫伐もあって、水害に悩まされ続けてきた。近年になって、植林や砂防ダム、堤防補強等により減少傾向にある。

② 庄内川関連事項

ｱ. 川村御用水

慶長 15 年（1610）以来、清州越で名古屋の街が作り始められたが、名古屋台地の西側、堀川右岸の巾下地区は低湿地帯で水質が悪かった。そこで、遥か東、守山地区の高台に水源を求めた。川村、東山の西の山裾、白沢川が庄内川に合流する所の庄内川に杁を作り取水する。庄内川の南を並行して用水路を新設し、瀬戸村に至り、矢田川を伏せ越しで辻村（名古屋市北区）に入る。

水路は南西に掘り進み、名古屋城の御深井丸に入った。入る手前に網で塵埃の流入を防いだという。お堀の西側、辰之口水道丈樋を取水口として、飲み水として巾下一帯に給水した。南は大船町から納屋町を通り、元水主町まで、北は江川町、樽屋町方面へ、時は寛文 4 年（1666）である。

その後、延宝 8 年（1680）瀬戸村地内から、瀬戸、守山、幸心、大永寺、金屋坊、大

森垣外、牛牧、川の灌漑用水が作られた。現在も活用されている。川村御用水は御用水という藩営工事であり、灌漑用水、お堀の水、上水道を兼ねる約 8km の水路である。

ｲ. 霞堤（カスミテイ）

上志段味と中志段味の境には、野添川が流れ、庄内川に注いでいる。庄内川の左岸堤と野添川右岸の堤は繋がっていない。江戸期の「玉野川筋上川内禿地絵図」にもはっきりと示されており、現在も離れている。葦やススキの群生地となっているが遊水池である。庄内川が大水の際には、堤防の切れ目から溢れて、そこに一時的に水を貯め、下流が洪水になるのを防いでいる。

ｳ. 吉根神明用水

江戸期の藩政時代、吉根地区は庄内川の水位が低いためにその水を農地に引くことができず、雨水と湧水に頼った農業では農民の生活は大変苦しいものであった。この窮状を見かねた河合利助が中心となって村費と私財を投じて庄内川からの用水工事を行った。事業半ばで費用が足らなくなったが、県令安場保和の助力を得て庄内川から用水を引くための隧道を明治 9 年に 1 年の工期をかけて完成させた。

現在の施設は、2001 年に名古屋市によって整備されたものである。

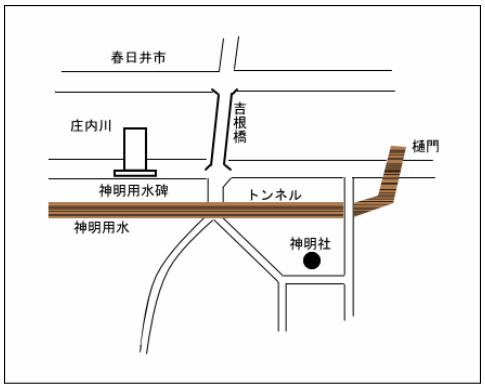


図 2-17　神明用水碑完成時の神明用水
（昭和 9 年）

ｴ. 庄内用水元杁樋門

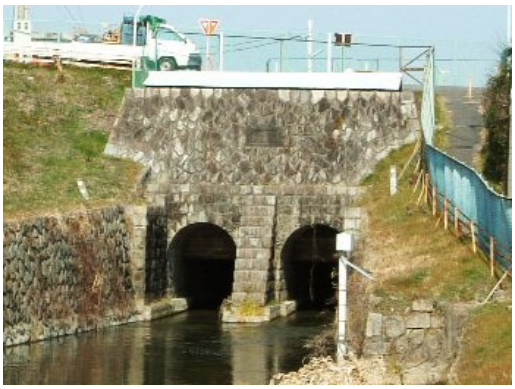
庄内川の左岸、水分橋東に庄内用水元杁樋門（庄内用水取水口）がある。この元杁樋門は、庄内川の水を名古屋北部から西部（守山、北、西、中村、中川の各区）へ農業用水として導くために明治 43 年（1910）に改築された樋門で、長さ 30m、幅 2m、高さ 3mのアーチ型水門が二基並列しており、側壁、天井は切り石積みで、周りの胸壁、護岸

は「人造石工法」で造られている。また、これより 750m程下流にある矢田川の河床を横断する暗渠、伏越樋も同時期に造られたが、現在はコンクリートで造りかえられた。

庄内用水元杁樋は、人造石工法で造られた産業構造物として名古屋市内に現存する唯一のものとなっている。二基の水門は、一つは木曽川、木津用水、庄内川、矢田川、黒川、堀川を結ぶ船運のために造られ、もう一つは用水の確保のために黒川が掘られ、その際、庄内川からの取水口として造られた。

※　人造石工法

服部長七が、明治 9 年（1876）に「消石灰」に多量の「風化花崗岩」を混ぜ、水で練って砂を加え、石と交互に積みつき固めることで構造物を造った。

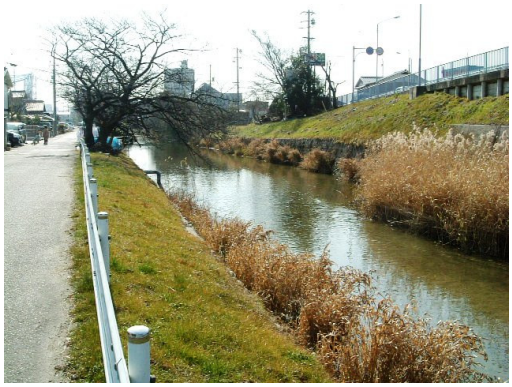


（庄内用水の変遷と堀川）

天正年間（1570～1592）：名古屋市西部域に庄内川の水を取り入れる「灌漑」を目的として開削された。

慶長 19 年(1614)：稲生村（現　西区）に最初の取水口が設けられた。

寛文 2 年（1742）：取水口は川村（守山区）に変更され、山田村（北区）と結ぶため、矢田川の川底を潜り抜ける暗渠（伏せ越し）が造られた。



寛政 4 年(1792)：矢田川の下を「伏せ越し」で稲生村へ越え、庄内用水と御用水を瀬古村（守山区）まで同じ水路で流して従来の庄内用水へ流すよう変更された。

明治 9 年（1786）1 月：県令（知事）安馬保和（あんば　やすかず）が、「用水の確保と犬山－名古屋を船運で結ぶ目的で堀川への通水量を増やし、水運を活性化すること」を議案として議会へ提出し、議決を得て河川改修工事がされることになった。これにより、

「木曽川の清流を堀川に通じる計画」を立て、県の土木課長、黒川治愿（はるよし）に水分橋から朝日橋までの水路開削と新木津用水の拡幅工事（三間から六間）を命じた。

工事では、庄内川に注ぐ八田川（新木津用水）の対岸にある高間村（守山区）に取水口が付け替えられた。ここから南へ直線状に用水路を開削し矢田川を伏せ越しした。また、北区辻町（三階橋ポンプ場付近）に大きな貯水池を造り、ここから庄内用水、黒川、御用水に分流した。

（２）矢田川

① 矢田川の概要

庄内川の支流では最も大きく、守山区の南部を東から西へ流れている。「尾張志」矢田川の項には、「矢田村の北にあり、水源は瀬戸川、山口川、野田川（香流川ともいう）等の山川所々にて落ち合い、西に流れ、ここに至りて大川となり、なお、西に至り、稲生の北にて庄内川に落ち合う。この河原にて毎年夏季のうち名古屋の武士、鉄砲を放ち、或は春の頃、軍陣の備を習い試む、是を出張という。」とある。

延長は 31.6ｋｍ、流域面積 105ｋ㎡である。東・守山区内の河原はほとんどが緑地公園化されており、四季を通じて楽しめる場所となっている。

② 矢田川関連事項

ｱ.尾張藩の河原砲場

「尾張徇行記」に「河上白如雪其地平ｴﾝ」と記され、この河原は江戸時代前期から尾張藩の砲場として大筒、火矢筒などの射撃訓練が行われ、幕末には西洋砲術の訓練および練兵場として活用された。

矢田河原の砲場は、泉州堺の七堂浜、相州由比浜の日本三大砲場に数えられるが、残念ながら現状では、その痕跡を見ることはできない。しかし、矢田川の魅力資産としての価値を探る上で、その歴史について整理した。

○東区との関連

尾張藩初代徳川義直時代の鉄砲射的場には的に赤土でできた塚が設置されていた。この的のある場所が後に赤塚町と名付けられた。

寛永三年（1650）25 年余り使用後、石川杢衛門下屋敷へ移された。移転理由は、二代光友の代になって新部屋衆に屋敷を与えるため城に近い広大な鉄砲塚町の訓練場が注目され、また義直の菩提を弔う建中寺が西側に建立されたことがあげられる。

現在の筒井町にあたる射撃距離が南北 72 間（130m）、東西 10 間（18m）のため、2 町（220m）から 30 町（3300m）の大口径の火縄筒などの訓練ができなくなったため矢田河原が注目された。

当時矢田河原には、稲富流の特技であった中筒（20 目玉以上、口径 2.3ｃｍおよび 100 目玉以上、口径 40ｃｍ ）の射撃訓練場として利用されていた。

大治 3 年（1659）矢田河原で尾張藩の砲術家達の射撃大会が始められていた。

○砲場の位置と広さ

「蓬州旧勝録」には、砲場の発射地点は、木賀崎の長母寺付近の川上にあったと書かれている。長母寺の南に堤があり、矢田村堤に「鉄砲方持」の大松があった。この大松を起点に上流に鉄砲が打たれた。この砲場の発射地点は、現在の木賀崎公園付近である。矢田川堤に 1 町間隔に松を植えたとされ、着弾地点は矢田、大幸、猪子石、守山、小幡の矢田河原といった広範囲が想定される。

発射地点と着弾地点は、3000ｍあり、遠距離砲場の条件を満たしていた。明和 4 年（1767）の大洪水により矢田川は長母寺の北側に流路を変え、矢田村から守山村への渡り場は、砲場を横切り、通行人の危険が高くなり、砲場の位置を 5 町余り（550m）上流に移され、大幸村から上流に射撃訓練が行われるようになった。

○火器と砲術流派

矢田河原砲場で訓練された火器は、指火式点火法に属する。石火矢（大砲）、火矢筒、仏狼機（子母砲）と火縄式点火法による小口径の六畳匁玉（口径 1.5ｃｍ）から大口径の四百目玉（口径 6.2ｃｍ）までの火縄銃であった。

砲術家として稲富流、津田流、田村流の流派が用いられた。

ｲ.明和の大洪水

明和 4 年（1767）7 月 13 日、この洪水は「稀なる洪水にして後世まで亥年の洪水」といわれ、大雨は夜になって激しく「瀬古は大水、矢田川大切れ、大門村なくなる」状況となった。矢田川は長母寺と宝勝寺の間を突き破り、守山村が最も被害が大きく、面積で 19 町余（守山村の 22%）が新しい矢田川の川底となった。

矢田川の流路変更により川底となった大門は、翌年春、守山城の西下に移り大門の地

名も一緒に移動した。矢田川左岸には長母寺だけが残された。

矢田川は長母寺の南から西部、北西部にかけて（大幸村、矢田村）の矢田川川岸に沿って、現在の川幅の２倍ほどの幅の川原がみられ、矢田川岸には頑強な堤防が築かれている。この堤防下を矢田川が流れていたもので、長母寺の南から西北に守山の段丘の先端を迂回するようにして流れていた。この段丘を突ききって現河道になった理由は、長母寺の南から西に迂回する河道が土砂の堆積がはなはだしく、河床をかなり高くしたのも原因の一つである。

守山村から長母寺にかけて一連の段丘面であったが、段丘面の侵食と旧河床の土砂の堆積作用によって河道が変遷したものと思われる。

ｳ.水　屋

水屋は、洪水の際の避難場所として造られた。庄内川と矢田川に挟まれた低湿地帯の西部地区では、浸水への自衛策として土を高く盛って石垣を築き、その上に避難用の住居、または蔵を設けた。また、水屋は非常時の食料保管や各種道具類の倉庫も兼ねていた。また、神社も浸水から守るため、間黒神社（守山区幸心一丁目）に見られるように高い段上に建てられたりした。

間黒神社

出水の少なくなった近時では多くが取り壊され、本調査では、わずか瀬古東三丁目に 2 箇所、大永寺町で 1 箇所が確認できただけである。先人の知恵を忘れないよう、将来に渡って残したい資産であると考える。

水屋（瀬古東）

水屋（大永寺町）

ｴ. ハッチョウトンボ

江戸後期、尾張藩が編んだ「尾張雑志」、春日井郡矢田村の項に、矢田川があり土産として赤蜻蛉（アカトンボ）が記されている。「矢田河原ニ一種ノ赤卒（アカネトンボ）アリ、形甚だ小ク、色赤シ・・・」また、蜻蛉譜には「大暑ノ節、矢田河原ノ八町場ニ出ル故ニ名アリ」とある。「矢田の鉄砲場八丁目」は大幸公園のあたりと思われる。この体長 2 cm 弱の可憐なトンボは、わが国最小のトンボとして有名である。東区の地名を冠したハッチョウトンボは、当区の誇りでもある。

東山植物園では平成 18 年 7 月から 3 ヶ月間、オスの赤が楽しめた。いつまでも残したい生物である。

２－１６　近年整備された魅力資産

（１）ナゴヤドーム

ナゴヤドームは、東区大幸南一丁目の三菱重工名古屋工場の跡地に建てられ、1997 年にオープンしたドーム型の野球場であり、中日ドラゴンズのホームグラウンドである。可動式の観客席を備え、野球だけでなくサッカーやアメリカンフットボールにも対応が可能である。また、内外の一流ミュージシャンによるコンサートや各種イベントにも使用され、名古屋を代表するイベント施設として広く利用されている。

（２）徳川園

徳川園は東区徳川町にあり、尾張藩二代藩主光友が自ら造営した隠居所の大曽根屋敷を起源としている。昭和 6 年（1931）、尾張徳川家 19 代当主義親から邸宅と庭園の寄付を受けた名古屋市が整備改修を行い、翌年「徳川園」が公開された。昭和 20 年（1945）に大空襲により園内の大部分を焼失した後は一般的な公園として利用されてきたが、平成 16 年秋に日本庭園としてリニューアルされた。

徳川園は、池泉回遊式の日本庭園で、江戸時代の主だった大名庭園の様式となって

いる。庭園に隣接して、大名道具や源氏物語絵巻を収蔵・展示する徳川美術館があり、多くの来訪者で賑わっている。

（３）オアシス２１

東区東桜一丁目にある「オアシス２１」は、公園やバスターミナルなどの公共施設と商業施設の複合施設として 2002 年にオープンした。「水の宇宙船」と名付けられたガラス張りの大屋根には水が流れ、広場に光の波紋を描き出している。また、広い芝生広場には花壇や樹木もあり、多くの人々の憩いの場となっており、まさに都会のオアシスである。

（４）なごやサイエンスパーク

なごやサイエンスパークは、名古屋市内産業の活性化を図るため、先端技術の振興、都市的な商業・サービス機能の強化、産・学・行政の連携、優秀な人材が集まる都市環境づくりなどを目的として整備された。同パークが整備された守山区下志段味は、都心から 10ｋｍの近さにありながら豊かな自然環境を残した地域であり、なごやサイエンスパークの理念のもとに、特色ある研究開発拠点の形成を目指している。

現在、なごやサイエンスパークには、理化学研究所などの先端産業技術に関する研究開発拠点である「サイエンスパーク研究開発センター」、企業や大学などが連携して基礎的な先端技術に関する研究開発を行う「先端技術連携リサーチセンター」、研究者の連携交流の総合窓口である「サイエンス交流プラザ」、セラミックス、無機材料等を中心とする先進工業材料に関するナショナルセンターを目指す「産業技術総合研究所中部センター」、新事業・新製品・高度技術等に関する研究開発を行うベンチャー企業や中小企業等を支援する「クリエイション・コア名古屋」が整備され立地している。

先端技術連携リサーチセンター

サイエンス交流プラザ

第３章　魅力資産と活用アイデア

３－１　都心のオアシス探訪

（１）魅力資産の概要

東区は、大都市名古屋の中心に位置し、特に西部は栄地区に隣接してオフィスビルや商業ビルが林立する都心の一部を形成している。

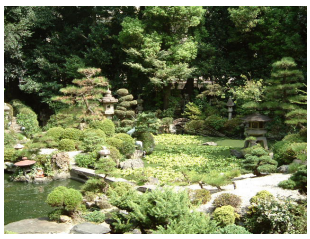
一見すると、緑の少ない殺伐とした街のように見える東区であるが、この度の調査を通じて、寺院や神社を中心に都心部にもまだまだ緑や水を身近に感じることのできる所が残されていることが分かった。中には、二河白道浄土庭園のように静寂感さえ感じることのできる見事な庭園が残されている西蓮寺のような場所もあった。

現代のストレス社会に生きる人々が、水や緑を身近に感じ、ほっと一息つけるようなこのような空間が都心に存在することは非常に貴重であり、100 年先まで是非とも残しておきたい魅力資産であると考える。

また、東区には名古屋を中心に活動する茶道の松尾流家元の居宅と美術館（楽只美術館）があり、茶道と関連が深い茶室や和菓子店、道具屋も立地するなど、100 年後も残る侘び寂びの文化に触れることのできる場所も存在していることが分かった。

特に、久屋大通、錦通、外堀通および国道 19 号に囲まれた一画は、ビルなどが建ち並ぶ都心であり、そこで水や緑に身近に触れることのできる空間は、まさに都心のオアシスに位置づけられよう。本節では、大まかに久屋大通、錦通、外堀通、国道 19 号に囲まれた地区に立地している資産のうち、緑が豊かでホット一息つける空間であること、あるいは、緑は無くても茶道など癒しの文化に触れることができる施設であること、を備えた施設を魅力資産として選定し、表 3-1 および図 3-1 に整理した。

表 3-1　都心のオアシス一覧表

No.	名　称	選定理由	写　真
1	冨士神社	ケヤキやイチョウの保存樹など、大樹が多く繁り都心に心地よい空間を提供している。境内には、名古屋城築城の際の石垣残石があり、歴史を偲ぶこともできる。	
2	松山神社	泉三丁目にある松山神社は、長寿の大銀杏と呼ばれる大樹もある緑濃い神社。	
3	高岳院	徳川家康の第八子、仙千代の菩提寺。境内は広くはないが、ビルの谷間にあって貴重な緑を提供している。	
4	養念寺	養念寺の本堂裏にある烏池は、尾張名所図会に記載された名園であり、名古屋市史跡にもなっている。今でも、都心とは思えない静寂な空間である。	
5	西蓮寺	二河白道浄土庭園と名付けられた本堂裏の庭園は、池を中心に落水や樹木が配置されたすばらしい庭園であり、都心であることを忘れさせてくれる。また、庭の片隅には水禽窟も造られており、水音を聞くことができる。	
6	へちま薬師東充寺	患部を撫でた「へちま」で祈願すると病気が治ると言い伝えらる薬師如来。信者が納めた沢山のへちまがぶら下がるお堂を見ると気持ちが休まる。	

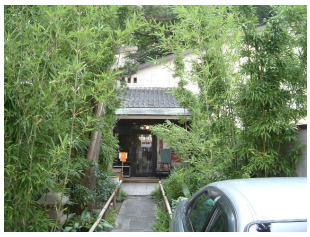
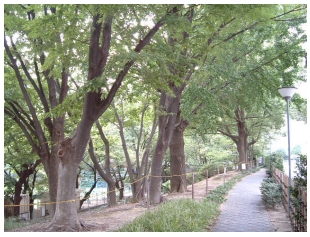
7	ｶﾄﾘｯｸ主税町教会	都市景観重要建築物に指定された礼拝堂と保存樹でもあるケヤキの大木に代表される緑が美しい。また、敷地内にあるルルドのマリア像も心を癒す。	
8	森村記念館	栄の中心に位置する森村記念館には、本格的な茶室と大樹が繁る中庭があり、都心であることを忘れさせてくれる。また、森村宜永の作品を中心に絵画が展示されている。	
9	ｷﾞｬﾗﾘｰ花藤	名古屋の釜師として最も代表的な家と言われる、加藤忠三朗家の一部をギャラリーとして開放しており、加藤忠三朗の作品を中心に展示している。	
10	楽只美術館	松尾流の松陰会が財団法人として発足し、茶道に関わる芸術文化発展のために開設した。松尾流歴代の作品や好みの茶道具を主として収蔵している。	
11	栄公園の並木道	栄公園の北にある小路は並木が美しく、都心にいることを忘れさせてくれる。この並木道は東桜小学校と愛知芸術文化センターに挟まれた所にあり、県立第一高女跡碑が建立されている。	
12	ｵｱｼｽ21	今や名古屋のランドマークの一つにも数えられるオアシス21は、公園やバスターミナルなどの公共施設と商業施設との複合施設。広い芝生広場もあり、都心の市民の憩いの場になっている。	

図 3-1　都心のオアシス位置図（図中番号は表 3-1 に対応）

（２）魅力資産の活用の方向性

先に選定した寺院、神社、茶道関連施設等の魅力資産には有名な施設もあるが、あまり知られていないいわゆる穴場的な施設も多い。従って、魅力資産の活用を進めるためには、先ず多くの市民にその存在を知らせることが重要であると考える。

そこで本報告書では、主に寺院や神社に残されている水や緑に触れることのできる空間と、茶道文化に触れることのできる施設を一つのテーマ、即ち『都会のオアシス』として一枚の地図やパンフレット等に示し、これを基に広く市民に周知することを提案する。そして、併せて市民が楽しめるツールやイベントを企画することで、都心に残された憩いの場を多くの市民が楽しむことができるよう努める。

（３）魅力資産活用促進の具体的方策

魅力資産である「都心のオアシス」を多くの市民に活用してもらうために、以下の方策を進めることを提案する。なお、和菓子店や茶道具店などは民間の商店であるため、

表 3-1、図 3-1 には掲載しなかったが、茶道の大切な要素でもあるので、第２章（２－１３）を参考に「都心のオアシス」として訪れて頂ければ幸いである。

①都心のオアシス案内パンフレットの作成.

各オアシスの場所を示したイラストマップ付きの案内パンフレットを作成する。パンフレットには、各オアシス施設の内容や施設によっては開館日なども分かり易く掲載する。また、パンフレットは都心の主要施設や各区役所等に置き、市民が自由に取ることができるようにすることが望ましい。さらに、名古屋市の広報やホームページ等で紹介することも有効である。

②一般公開していない施設は、年数回の公開日を定めてもらう。

寺院の庭園などは、日常的に公開はしていない所もあり、特に現在あまり知られていない場所などでは、その傾向が強い。そのような施設は、多くの人を受け入れる体制が無い所が殆どであるため、毎日公開をお願いすることは難しい。従って、そのような施設に対しては、公開日を設定して頂くよう働きかける。

③各施設を巡るスタンプラリーの企画

各オアシスにはスタンプを置いてもらい、パンフレットの案内欄にスタンプが押せるようにしておけば訪れた人々の記念になり、さらに和菓子店の割引券やお茶のサービスなどがあれば、多くの施設を訪れるためのインセンティブにもなると考える。

３－２　伝統校のルーツ探訪

（１）魅力資産の概要

東区には、旭丘高校、明和高校、東海学園、金城学院など、名古屋を代表する多くの伝統校が立地している。また、愛知教育大学、旧県立第一高等女学校、旧市立第三高騰女学校など、東区を発祥の地や現在地への経由地とする伝統校も数多く、それらの学校には、跡地に記念碑等を建立している学校も数多い。伝統校の歴史は、名古屋市の歴史の主要な一部であり、100 年後も必ず継承されるものである。

また、それらの伝統校には、本人や家族が在籍していた市民も多いことから、そのルーツは市民にとっても大変興味深く、魅力のあるものであると思われる。本研究では、名古屋の教育の歴史を物語る上で明治・大正期から存在し、現在も東区、守山区内に校舎あるいは跡碑など、過去を顧みることが可能な施設が残っている学校を魅力資産として選定し、表 3-2 および図 3-2 に整理した。

表 3-2　魅力資産としての伝統校一覧表

No.	名　称	概　　要	写　真
1	名古屋大学大幸ｷｬﾝﾊﾟｽ	中部地区を代表する国立総合大学の医学系学部のキャンパス。名古屋大学が当地に移転する前は、昭和 44 年まで愛知教育大学のキャンパスとして使用されていた。	
2	旭丘高校	明治 3 年設立の尾張藩立洋学校に繋がる県内屈指の伝統校であり、政財界にも多くの人材を輩出している。校舎は平成 14 年に新築されたが、往時の面影を残すデザインが採用されている。	
3	愛知一中跡碑	現明和高校敷地には、旭丘高校に繋がる愛知一中が昭和 12 年まで立地していた。その隣接地には、当時を偲ぶ愛知一中の跡碑が建立されている。	
4	市立第三高女跡碑	大正 13 年創立の市立第三高女が昭和 22 年まであった、橦木町の山吹公園に建立されている。本校は、昭和 23 年愛知一中と統合され旭丘高校となった。	

5	明和高校	尾張藩校明倫堂の系譜に連なる明和高校は、旭丘高校と並ぶ県内屈指の伝統校であり、明治 32 年明倫中学として創設された。本校敷地は、昭和 12 年まで旧愛知一中の敷地として使用されていた。	
6	明倫堂碑	明和高校の前庭には明倫堂の由来を記した石碑が立てられており、名古屋の教育の歴史を知ることができる。	
7	県立第一高女跡碑	明治 36 年創立の第一高女は、昭和 23 年に明倫中学と統合され明和高校となるまで、東桜一丁目の当地（現、東桜小学校）にあった。石碑には本校の沿革が刻まれており、歴史を偲ぶことができる。	
8	愛知商業高校	大正 8 年創立の愛知商業は、昭和 27 年に旧明倫中学跡地である現在地に移転した。	
9	明倫中学跡碑	旧明倫中学の跡地に立つ愛知商業高校に隣接するポケットパークには、明倫中学跡碑が建立されている。石碑には本校の沿革が刻まれており歴史を偲ぶことができる。	
10	市立工芸高校	大正 6 年創立の市立工芸高校は、昭和 26 年に旧師範学校の跡地である現在地に移転した。師範学校時代のレンガ塀（P.73 写真参照）が、今も市工芸高校の外塀に残されており、往時を偲ぶことができる。	
11	師範学校沿革碑	市立工芸高校の場所には、明治 6 年創立の愛知県養成学校を起源とする愛知教育大学が第一師範学校時代に昭和 25 年まで立地した。敷地内には師範学校の沿革を刻んだ石碑が建立されている。	

12	東海高校	明治 21 年に浄土宗学愛知支校として創立した本校は、明治 32 年から現在地に立地する伝統校であり、政財界に多くの人材を輩出している。講堂は文化庁登録有形文化財。	
13	名古屋高校	明治 20 年創立の英語学校に始まる本校は、昭和 27 年に現在地に移転を開始し、昭和 30 年に移転を完了した。移転前は、現在、金城学院中学となっている白壁 3 丁目に立地していた。	
14	金城学院高校	明治 22 年創立の本校は、私立女学校の草分け的存在。明治 33 年から現在地に立地する。礼拝堂である栄光館は、昭和 11 年に建築された文化的要素の高い建物である。	
15	金城学院中学	現在の金城学院中学は、昭和 30 年に名古屋学院から敷地・校舎を買収したものである。名古屋学院（現名古屋高校・中学）は、明治 31 年から昭和 30 年まで当地に立地していた。	
16	中京法律専門学校	明治 41 年創立の本校は、中京地区で始めての夜間法律学校であり、専門学校のはしりと言える。昭和 25 年から現在地に立地している。	
17	常盤女学院	明治 40 年に松坂屋のオーナー伊藤次郎左衛門によって設立された被服系の専門学校。中京法律専門学校と並ぶ、専門学校の伝統校である。昭和 21 年から現在地に立地している。	

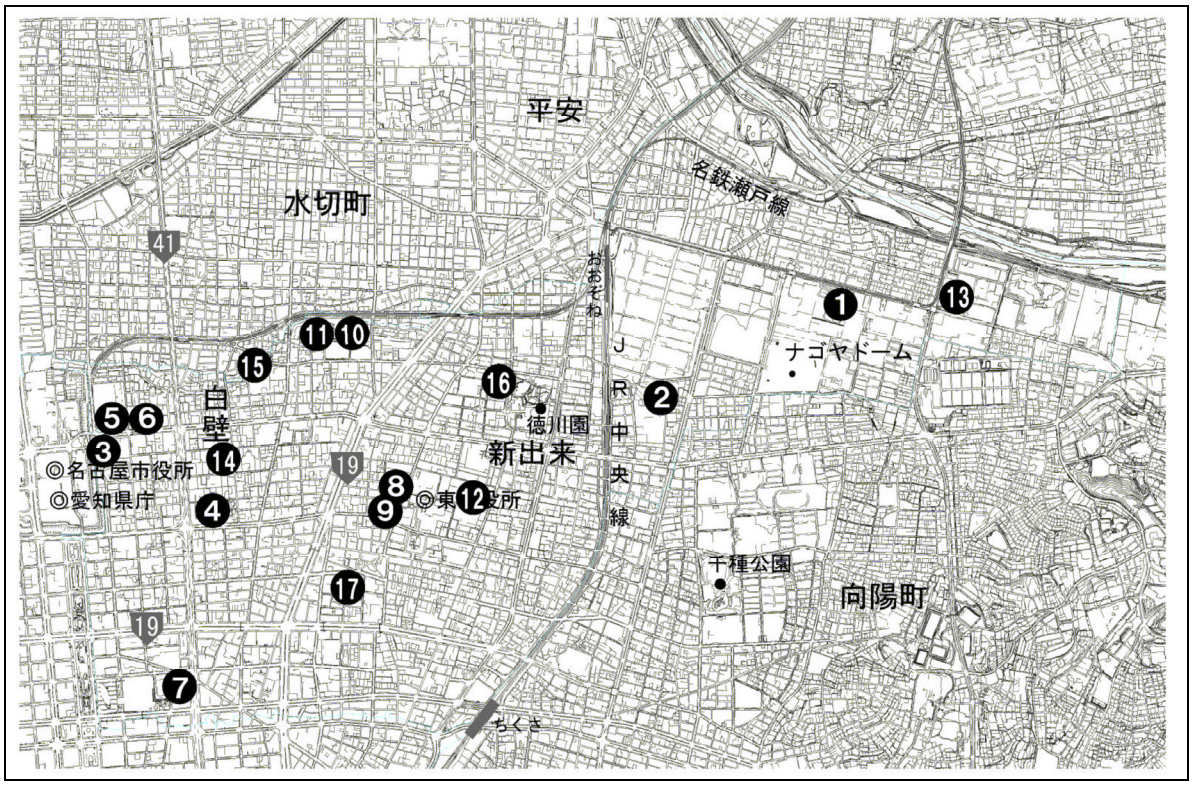


図 3-2　魅力資産としての伝統校位置図（図中番号は表 3-2 に対応）

（２）魅力資産の活用の方向性

伝統校の歴史的建造物や記念碑は、名古屋市にとって重要な歴史上の資産であり、また多くの卒業生によって成し遂げられてきた偉業も何物にも代えがたい貴重な資産である。これらの資産を、それぞれの学校の卒業生だけでなく、広く市民に周知することで、教育史という側面から名古屋の魅力向上を図ることを提案する。また、伝統校に在籍する生徒達が、卒業生の講演を聞いたり、在校生相互の親睦を図る機会を設けることは、将来の名古屋を担う若者達の成長に大きく資するものであると考える。

（３）魅力資産活用促進の具体的方策

魅力資産である「伝統校とそのルーツ」を多くの市民に周知し、活用してもらうために以下の方策を進めることを提案する。

①各学校や碑の位置を示したマップと沿革を記したパンフレットの作成

各施設の位置を示すイラストマップ付きの案内パンフレットを作成する。パンフレットには、学校の沿革や移転の歴史、歴史に名前を残した卒業生などを紹介する。

②現地案内板の掲示

各学校の正門や記念碑の付近に分かりやすい案内を掲示すると、パンフレットを持たない人々も楽しむことができる。

③各学校の出身著名人による「母校の想い出」発行や講演会の開催

各学校には、卒業生も知らない思いがけない著名人がいたりするものである。そのような著名人に「母校の想い出」を語ってもらい編集して冊子にしたり、講演会で現在携わっている仕事などについて講演をしていただく。

④伝統校サミットの開催

在学生の代表が一同に会するサミットを開催し、それぞれの学校に伝わる伝統行事や学校の将来についてなど、情報交換や交流を深める場を設ける。

⑤伝統校合同体育大会の開催

名古屋市立高等学校体育大会が年１回開催されているように、市内の伝統校による体育大会を開催する。既存大会では選手として参加する生徒だけでなく、一般生徒も当日は授業が無く応援で参加をしており、伝統校体育大会でも同様の措置をとることが望ましい。

⑥伝統校合同文化祭の開催

市内の伝統校によるスポーツ大会だけでなく、文化系クラブによる合同文化祭を開催する。当日は一般生徒も自由に他校の行事や展示を見ることで交流を図るものとする。

なお、⑤の合同体育大会とこの合同文化祭は、学校関係者だけでなく、広く地域の住民も巻き込む形で運営することが望まれる。

３－３　ため池を活用した市民ネットワーク

（１）魅力資産の概要

守山区は、名古屋市内のため池面積の約半分を占めており、市民が容易に「池」と親しむことができる地域である。都会に立地する池は、市民が身近に自然を感じることのできる空間であり、また魚釣りや水遊び、野鳥観察、森林など自然を対象としたレジャーを楽しむことのできる貴重な空間でもある。

本研究では、この貴重な空間であるため池を魅力資産として選定し、活用アイデアを検討するものとした。現在、守山区内には主なため池だけでも 26 箇所の池があるが、そのうち「名古屋市ため池保全環境保全協議会」によって自然環境が極めて良い池である

と評価された12箇所のため池を魅力資産として選定し、表3-3および図3-3に整理した。

表3-3　魅力資産となるため池一覧表

No.	名　称	活用の方向	写　真
1	見返ヶ池	小幡緑地公園内にあり親水護岸も整備されているため、現在も釣り池として活用されている。今後も現状の市民利用を維持できるよう、環境保全に努めたい。	
2	緑ヶ池	小幡緑地公園内にある最大の池であり親水護岸も整備されている。周辺の景観もたいへん良好であり、市民の散策や釣り池として活用されている。今後も現状の市民利用を維持できるよう、環境保全に努めたい。	
3	雨　池	隣接する雨池公園と一体的に整備された池であり、周囲に散策路も整備されている。親水護岸が整備され釣り池としても活用されているが、宅地からの汚濁水の流入による栄養過多なのか、水面は水草の繁茂により覆われている。今後の利用には、水質の改善が望まれる。	
4	安田池	森林公園に隣接し、周辺には良好な自然が残されている。景観も良く、市民の活用が望まれるが、アクセス路、親水護岸共に未整備なため現状のままでは活用が困難である。アクセス路と親水護岸の整備が望まれる。	
5	大村池	森林公園内に位置し、整備された親水護岸では釣りを楽しむこともできる。池岸までのアクセス路はあるが、幅員が狭く駐車スペースも少ないため、現状のままでは多くの市民の利用には耐えられない。	

6	神　池	フルーツパーク内にあり釣り池として運営されている。景観も良く多くの市民に利用されており、今後も現状の市民利用を維持できるよう環境保全に努めたい。	
7	石ひろい池	神池に隣接し、二つの池が一体的に釣り池として利用されている。神池同様、今後も現状の市民利用を維持できるよう環境保全に努めたい。	
8	風越池	吉根・下志段味レクコースの一環として整備された水辺であり、釣り池としても利用されている。道路からのアクセスも良く、今後も現状の市民利用を維持できるよう環境保全に努めたい。	
9	東禅寺上池	周囲の雑木林や水辺の植生によって雰囲気の良い空間を提供している。しかし、親水護岸が整備されていないため、水辺には容易に近づくことができない。住宅地にも隣接しており、良好な環境を活用できるような整備が望まれる。	
10	平　池	土地区画整理事業によって整備された池であり、良好な植生も相俟って市民に快適な環境を提供している。水鳥も多く見られるなど、現状の良好な環境を今後も保全したい。	
11	竜巻池	小幡緑地公園内にある景観の良い池である。周囲の散策や釣りも可能であり、多くの市民に利用されている。今後も現状の市民利用を維持できるよう、環境保全に努めたい。	
12	大久手池	住宅地に隣接する大きな池だが、親水護岸が整備されておらず、水辺に近づくことはできない。野鳥が多く見られるなど、良好な自然環境を有しており、市民が利用しやすい環境の整備が求められる。	

図 3-3　魅力資産となるため池位置図（図中番号は表 3-3 に対応）

（２）魅力資産の活用の方向性

魅力資産として選定したため池には、既に多くの市民によって利用されている池と、親水護岸などが未整備のため、現在はあまり利用されていない池がある。既に利活用が進んでいる池については、今後とも良好な環境を保持できるよう努める必要がある。一方、利活用が進んでいない池については、現状のままでは開発の対象になることも考えられる。

そのため、未整備のため池については、親水護岸等を整備することによって市民の利用を促し、そのため池が貴重な自然環境であることを周知することで、将来に亘って良好な環境の保全、あるいは環境の改善を進める。

（３）魅力資産活用促進の具体的方策

魅力資産である「ため池」を多くの市民に周知し、良好な環境の保全や環境改善を図る一助とするために、池の利用を媒介とする市民の交流ネットワークを形成し、様々な施策を展開することを提案する。以下では、市民ネットワークを通じて組成したボランティアグループが行う活動とため池の利用を促すために必要な整備を例示した。

①「守山の池を楽しむ会」の組成

現在、小幡緑地公園内にある池などは行政が整備・管理をしているが、イベントの開催など市民が担うことが可能な部分もあると考える。市民ボランティアによって「守山の池を楽しむ会」を組織し、イベントの企画･運営を担うことが想定される。

②「楽しむ会」主催による釣り大会、野鳥観察会、自然観察会の開催

上記のボランティア組織「守山の池を楽しむ会」が企画・運営する釣り大会、野鳥観察会、自然観察会などをため池を会場に開催する。市民の中には、釣りや野鳥観察に関する知識が豊富な人材もいると思われることから、それぞれの会では、市民ボランティアが講師を務めることも想定する。

③「池」を楽しむためのパンフレットの作成。

「楽しむ会」が開催する野鳥観察会だけでなく、いつでも自由に市民がため池を楽しむことができるように、各池の位置や植生、飛来する野鳥の時期や種類、魚釣りの案内など、「池」を楽しむためのルールや方法等を紹介するパンフレットを作成する。

④ 親水性の乏しい池は、親水護岸やアクセス路を整備し親水性を高める。

池岸が未整備なため池は、自然が残されている一方で危険なために水辺に近づくことが難しい。全ての岸辺を整備する必要は無いが、一部親水性護岸として整備し、市民が水辺を楽しむことのできる空間を提供する必要がある。

３－４　古墳を活用した市民公園

（１）魅力資産の概要

守山区には非常に多くの古墳があり、名古屋市内にあるおよそ 200 基の古墳のうち守山区には 131 基があるとされている。中でも上志段味地区には、市内最古の古墳で国指定史跡である白鳥塚古墳をはじめ数多くの古墳が集積している。名古屋市内でこれだけ多くの古墳が集積している地域は他に無く大変貴重な魅力資産と言える。名古屋市においても、既に「尾張のあすかめぐり」と題した史跡散策路を推奨しているほどである。

しかし、上志段味地区にある古墳は、アクセス路や周辺の整備が行われている所は無く、残念ながら国指定史跡の白鳥塚古墳ですら歩道の無い道路を歩かなければ近くまで行くことができず、快適に観察できる状況にはない現状にある。本研究では、特に古墳の集積する上志段味地区にある古墳を活用対象の魅力資産として取り上げ､表 3-4 および図 3-4 に整理した。

表 3-4　魅力資産となる古墳の一覧表

No.	名　称	現　　状	写　真
1	白鳥塚古墳	国道 155 号と東谷山フルーツパークを連絡する道路沿いに位置する。アクセス路は歩道も無く、駐車スペースも無い。また、案内表示も小さいため場所が分かりにくい。	
2	白鳥 1・4 号墳	1 号墳は国道 155 号沿いに案内板がある。4 号墳は造成によって消滅した。写真は白鳥 1 号墳。	
3	東谷山古墳群	東谷山には数多くの古墳があり、山頂の尾張戸神社古墳の上には尾張戸神社がある。また、東谷山 3 号墳の石室天井石が神社近くに移設保存されている。登山道から覆土を無くした巨石が所々に見られるようだが、案内などは無い。	
4	勝手塚古墳	後円部頂部に勝手神社が祀られており、史跡案内の表示板が立てられている。また、堀の一部が残っている。	
5	大久手池周辺古墳群	区画整理による宅地整備が進められており、容易に近づくことができない。また、どこに在るのかも現地ではよく分からない。	

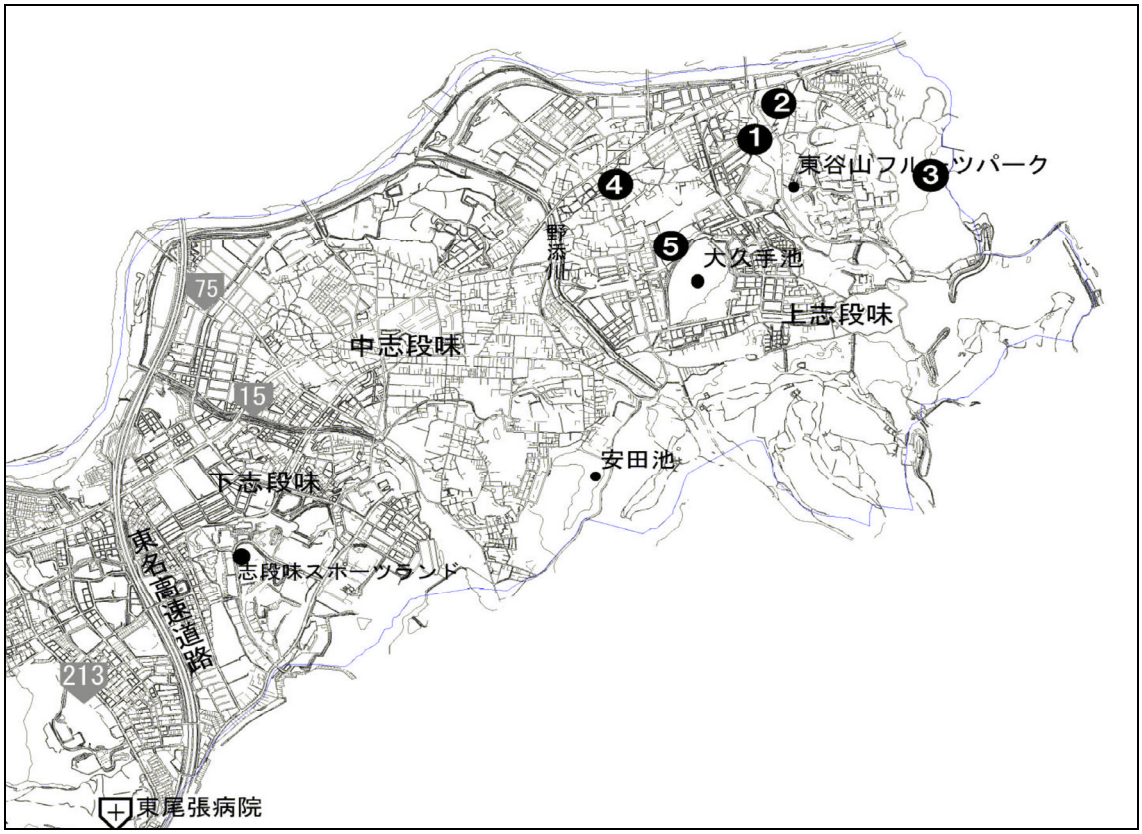


図 3-4　魅力資産となる古墳の位置図（図中番号は表 3-4 に対応）

（２）魅力資産の活用の方向性

上志段味地区一帯の古墳が、分かり易く身近に観察できる状況に無いことは、先に述べた通りである。折角の貴重な史跡を市民が容易に観察できる環境に無いことは、非常に残念であり、特に小学生など子供達に身近に古代の歴史に触れることのできる環境を整えることは大切であると考える。

従って本研究では、上志段味地区一帯を古墳公園として整備し、市民や子供達が身近に古代の歴史を学ぶことのできる環境を整えることで、貴重な魅力資産の活用を図ることを提案する。

（３）魅力資産活用促進の具体的方策

①古墳の位置や概要を整理したパンフレットの作成

既に名古屋市において「尾張あすかめぐり」と題する上志段味地区の古墳を巡るイラストマップが作成されている。これに加えて、各古墳の概要や埋葬された人物のトピックなどを記載したパンフレットを作成し、市内の主要施設に置くことで市民が自由に手に取ることが可能になり、市民が上志段味地区の古墳にもっと興味を持つきっかけとする。

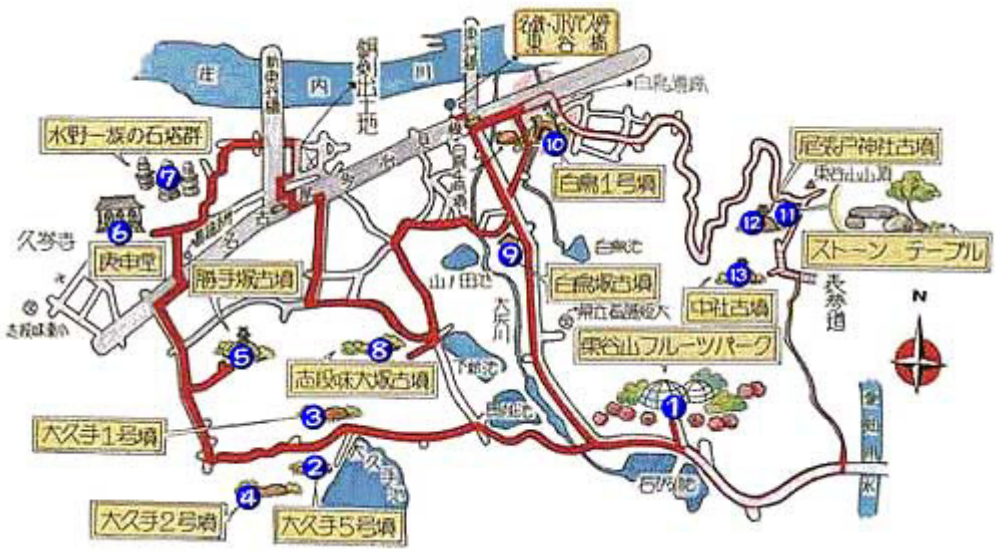


図 3-5 尾張のあすかめぐり地図（名古屋市）

②古墳を巡る散策路の整備

現在、古墳を巡る散策路は通常の道路であり何の整備もされていない。市民が安心して快適に散策ができるよう、歩道の整備や案内表示板の設置などを進める必要がある。

③古墳周辺の整備と案内板の設置

現状の古墳は、どこに在るのかも分からない古墳もあり、また、近くまで行きづらい古墳もある。少なくとも位置を示す案内表示と古墳の近くには、概要を記した掲示板の整備をする必要がある。

④「上志段味古墳博物館」の開設

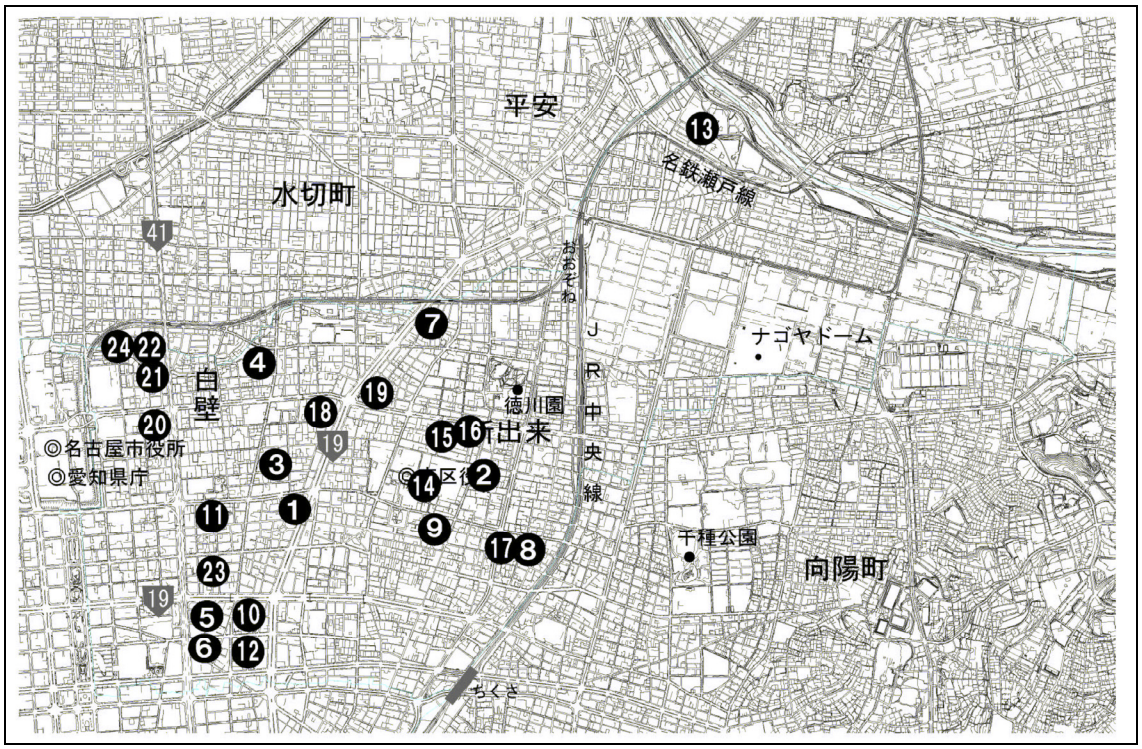
古墳の調査によって発掘された貴重な資料は、現在、調査を行った機関などに保存されており容易に見ることができない。上志段味地区を古墳公園として整備するにあたっては、そのシンボルとなるような施設を整備することが望まれ、散逸している貴重な発掘資料を見ることのできる「古墳博物館」あるいは「古墳資料館」を開設することが望まれる。

３－５　道標・地蔵オリエンテーリング

（１）魅力資産の概要

東区、守山区では寺社の境内を中心に数多くの石碑や地蔵が残されており、街角には人知れず残されている道標や地蔵も多い。但し、それらは境内の片隅や本堂の裏であったり、また民家の片隅にひっそりと立っていることも多く、容易に見つけられないことも度々である。これらの石造物は、謂れや長い歴史を有するものも多く、地域の人々が守り愛しんで来たものでもあり、100 年後へも守り伝えられていくべき魅力資産である。

本節では、後述する理由により東区内に立地する石造物を活用対象の魅力資産として位置づけ図 3-6 に整理した。



番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	サヤノ辻（道標）	10	安斎院(句碑)	16	養寿院（地蔵）
2	吉田小路(道標)	11	士朗山里塚（句碑）	17	自然院（地蔵）
3	二葉御殿内（道標）	12	香烟（句碑）	18	心海寺（地蔵）
4	長久寺(道標・地蔵)	13	二木白図碑（句碑）	19	キリシタン地蔵
5	東充寺（地蔵）	13	富永杜発碑(句碑)	20	蔭涼寺（地蔵）
6	八事道(道標)	13	石井垂穂（狂歌碑）	21	清龍寺（地蔵）
7	三日月塚（句碑）	13	長母寺（地蔵）	22	竹薮地蔵
8	水鶏塚（句碑）	14	建中寺（地蔵）	23	遍照院（地蔵）
9	大朝芦穂塚（句碑）	15	徳源寺（地蔵）	24	観音院（地蔵）

図 3-6　東区内の石造物位置図

（２）魅力資産の活用の方向性

先に述べたように、石造物は境内の片隅にあったり建物の陰に隠れているものも多く、容易に探せないことが稀ではない。本研究では、このことを逆手にとり、石造物を目標物にしたオリエンテーリングを活用の方向性として提案する。

本来のオリエンテーリングとは、地図とコンパスを用いて、山野に設置されたポイントをスタートから指定された順序で通過し、ゴールまでの所要時間を競う野外スポーツの一種である。しかし、本アイデアでは、闇雲に時間を競うのではなく、地域の歴史や石造物の謂れなどを勉強し、楽しみながら地域探訪をすることを目的とする。

（３）魅力資産活用促進の具体的方策

今回の研究で判明した石造物の位置を地図上に落としてみると、守山区内の石造物は数も少なく、また立地が広範囲に広がっているためオリエンテーリングには不向きであると思われる。一方、東区の場合は数も多く、また立地も比較的狭い地域にまとまっているためオリエンテーリングに適していると考えた。

以下に、東区内の石造物を目標物にしたオリエンテーリングを実施するために必要と考えられる具体策について整理した。

①目標石造物の案内冊子

目標とする石造物の大まかな位置と写真、その謂れや故事などを記した案内冊子を作成する。

②石造物がオリエンテーリングの目標物であることを示す目印の設置

それぞれの石造物が、オリエンテーリング目標石造物であることを示す標識あるいは目印を付けておく必要がある。

③コースと目標タイムの設定

石造物の数は非常に多いため、全部を廻るのではなく、歩く距離や時間などによって幾つかのコースを設定して①の案内冊子に紹介する必要がある。なお、コースは距離･時間だけでなく、石造物の共通テーマ（ex. 地蔵、道標、句碑）や歩く目的（ex. ウォーキング、写真撮影、歴史散策）によって設定しても良いと考える。

あ と が き

今回、第 1 グループでは、東区、守山区の魅力資産の再発見とユニーク活用アイデアの検討を進めるにあたって、両区内に分布する様々な施設や事柄をとにかく広く調査することに最も重点を置きました。文献調査に始まり、その上で現地をくまなく歩き廻り、実際にその雰囲気や状況を観察することで資産の魅力の再発見に努めました。その結果、東区、守山区共に様々な魅力に溢れる資産の宝庫であることを認識することができました。

東区は名古屋市の都心の一部を形成する街であり、守山区は名古屋市の中でも水や緑の空間が多く残される自然豊かな街です。数多くの魅力資産の中から、非常に特性の異なる二つの区を対象にした活用アイデアを検討することは非常に難しい作業でしたが、最終的には両区共に現代のストレス社会に生きる人々が求める「癒し」や「郷愁」を満たす活用策を提案できたのではないかと考えます。

調査を進めるにあたっては、加藤晃先生をはじめとする諸先生、現地施設関係者、名古屋都市センター等の各位からのご指導を賜り、ご厚情に深く感謝の意を表する次第です。

平成 18 年度市民研究員第 1 グループ
加 藤 博 規
浅 井 保 司
伊 藤 隆 生
中 川 弘 美

Ⅲ．参考資料

Ⅲ．参考文献・参考資料

1. 区政概要　平成 18 年版（名古屋市）
2. ひがし 2 号　東区郷土史研究会
3. ひがし 5 号　東区郷土史研究会
4. 東区史（名古屋市）東区総合庁舎建設後援会
5. 東区の歴史　東区の歴史編さん会
6. 守山区の歴史　守山郷土史研究会
7. 守山の遺跡と遺物　名古屋市博物館
8. 名古屋の古墳守山区を中心に　名古屋市教育委員会
9. 守山の古墳　守山市教育委員会
10. 守山の古墳　名古屋市教育委員会（昭和 41 年 3 月）
11. 守山の古墳　名古屋市教育委員会（昭和 44 年 3 月）
12. 守山区吉根　名古屋市教育委員会
13. 牛牧遺跡　守山市教育委員会
14. 天白・元屋敷遺跡跡　名古屋市教育委員会
15. 天白・元屋敷遺跡跡二次調査　名古屋市教育委員会
16. 天白・元屋敷遺跡跡三次調査　名古屋市教育委員会
17. 市内河川・ため池等の水質の変遷　名古屋市環境保全局環境科学研究所　名古屋市土木局河川部計画課　平成 12 年 3 月
18. 名古屋開府四百年、堀川沿革誌　末吉順治
19. 愛知の文学碑　吉田弘　愛知県郷土資料刊行会
20. 名古屋市史跡・名勝地図解説
21. 名古屋の石造物　名古屋民俗文化財調査会　名古屋市教育委員会
22. 生きている名古屋の坂道　岡本柳英　名古屋泰文堂
23. 名古屋のお地蔵さま　芥子川律治
24. 尾張名所図会　岡田啓　愛知県郷土資料刊行会
25. 名古屋市内保存樹リスト（名古屋市緑政土木局）
26. 名古屋市ホームページ　http://www.city.nagoya.jp/
27. 名古屋大学ホームページ　http://www.nagoya-u.ac.jp/
28. 愛知教育大学ホームページ　http://www.aichi-edu.ac.jp/
29. 愛知県立看護大学ホームページ　http://www.aichi-nurs.ac.jp/
30. 愛知大学ホームページ　http://www.aichi-u.ac.jp/asp_pub/Au_top.asp
31. 愛知学院大学ホームページ　http://www.aichi-gakuin.ac.jp/
32. 名古屋女子大学ホームページ　http://www.nagoya-wu.ac.jp/
33. 名古屋文化短期大学ホームページ　http://www.yamadagakuen.ac.jp/index.html

34. 南山大学ホームページ　http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/index.html
35. 愛知県立旭丘高校ホームページ　http://www2.starcat.ne.jp/~asahi/index2.htm
36. 愛知県立明和高校ホームページ　http://www.tcp-ip.or.jp/~meiwa-hs/
37. 愛知県立愛知商業高校ホームページ　http://www.aichi-ch.aichi-c.ed.jp/
38. 愛知県立愛知工業高校ホームページ　http://www.aichi-th.aichi-c.ed.jp/
39. 愛知県立守山高校ホームページ　http://www.moriyama-h.aichi-c.ed.jp/
40. 愛知県立緑丘商業高校ホームページ　http://www.midorigaoka-ch.aichi-c.ed.jp/
41. 名古屋市立工芸高校ホームページ　http://www.kogei-th.nagoya-c.ed.jp/
42. 名古屋商業高校ホームページ　http://www.nagoya-ch.ed.jp/japanese/japanese.htm
43. 名古屋市立菊里高校ホームページ　http://www.kikuzato-h.nagoya-c.ed.jp/
44. 名古屋市立桜台高校ホームページ　http://www.sakuradai-h.nagoya-c.ed.jp/
45. 東海学園ホームページ　http://www.tokai-jh.ed.jp/
46. 名古屋高校ホームページ　http://www.meigaku.ac.jp/
47. 金城学院ホームページ　http://www.kinjo-gakuin.jp/contents/
48. 至学館高校ホームページ　http://www.shigakukan-h.ed.jp/
49. 菊華高校ホームページ　http://www.kikuka.ed.jp/
50. 東邦高校ホームページ　http://www.toho-h.ed.jp/
51. 愛知淑徳高校ホームページ　http://www.aichishukutoku-h.jp/
52. 椙山女学園ホームページ　http://www.sugiyama-u.ac.jp/sougou/index.html
53. 名古屋経済大学市邨高校ホームページ　http://www.dmn.ne.jp/ichimura/
54. ファッション専門学校常盤女学院ホームページ　http://www.tokiwa-jogakuin.jp/
55. 菊武ビジネス専門学校ホームページ　http://www.kikutake.ac.jp/
56. 名古屋文化学園保育専門学校ホームページ　http://www.nbunka.ac.jp/
57. 中京法律専門学校ホームページ　http://www5.ocn.ne.jp/~chuhou/
58. 名古屋国際学園ホームページ　http://www.nisjapan.net/nis/ja/
59. 尾張藩御釜師　加藤忠三朗ホームページ　http://www.chuzabro.jp/index1.htm
60. 徳川美術館ホームページ　http://www.tokugawa-art-museum.jp/
61. 両口屋是清ホームページ　http://www.ryoguchiya-korekiyo.co.jp/
62. 坂角総本舗ホームページ　http://www.bankaku.co.jp/
63. 名古屋茶道大鑑ホームページ　http://www.tyaikan.com/n-tyaikan/index.html

平成18年度市民研究報告書

私たちの住む街なかの「魅力資産」の
再発見とユニーク活用アイデア
（東区・守山区）

発　行　　平成19年３月
財団法人　名古屋都市センター
〒460-0023　名古屋市中区金山町一丁目１番１号
TEL　052-678-2200
FAX　052-678-2211
印　刷　　マツモト印刷株式会社

この印刷物は再生紙（古紙配合率100％白色度70％）を使用しています。